

富山市
子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査結果報告書

平成 31 年 3 月
富山県 富山市

目 次

第1部 調査実施の概要と調査結果

第1章 調査実施の概要	4
1 調査の目的.....	4
2 調査の設計.....	4
3 調査票の配布と回収状況.....	5
4 報告書の見方.....	6
(1) 年齢・学年の定義.....	6
(2) 電算処理の注意点.....	6
(3) グラフの見方.....	6
5 調査対象者の属性・家族状況.....	7
(1) 就学前児童の属性.....	7
(2) 小学生の属性.....	7
(3) 居住地域の状況.....	8
(4) 調査回答者の状況と配偶者の有無.....	8
第2章 調査結果のまとめ	10
1 子ども人口の推移と推計.....	10
(1) 市全域と地区別から見た子ども人口の推移と推計.....	10
(2) 地域別から見た子ども人口の推移と推計.....	10
2 地域（教育・保育提供区域）別の地域特性等.....	14
第3章 子育て家庭を取り巻く環境	26
1 子育ての環境について.....	26
(1) 主な保育者と親族等協力者の状況.....	26
(2) 子育てに関する相談者の状況.....	29
2 保護者の就労状況.....	30
(1) 母親の就労状況.....	30
(2) 父親の就労状況.....	36
第4章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望	40
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望.....	40
(1) 平日の定期的な教育・保育事業.....	40
(2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由.....	43

2	休日の定期的な教育・保育事業の利用希望	46
(1)	土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望.....	46
(2)	長期休暇中の教育・保育事業の利用希望	49
3	子育て支援事業の現状と今後の利用希望	51
(1)	地域子育て支援拠点事業の利用状況.....	51
(2)	今後の利用希望	52
(3)	地域の子育て支援事業の周知度・利用状況と今後の利用希望.....	55
4	病児・病後児保育事業の潜在ニーズ.....	56
(1)	病気やケガで保育所や幼稚園が利用できない時の対処	56
5	不定期に利用している教育・保育事業や一時保育等について.....	62
(1)	不定期に利用している教育・保育事業や一時保育等の状況.....	62
(2)	宿泊を伴う保育の利用状況	66
6	放課後の過ごし方について.....	68
(1)	平日の放課後の過ごし方.....	68
(2)	土曜日、日曜・祝日、長期休暇期間中の地域児童健全育成事業・ 放課後児童健全育成事業の利用希望.....	78
第5章	育児休業制度の利用状況等.....	86
1	育児と仕事の両立支援制度について.....	86
(1)	育児休業制度の利用状況	86
(2)	支援制度の認知状況.....	88
(3)	育児休業取得後の職場復帰の状況.....	88
(4)	短時間勤務制度の利用状況	91
(5)	育児休業取得期間の希望	92
第6章	地域の子育て環境や市の施策について.....	94
1	子育てに関する施策の期待度	94
2	地域の子育て環境や支援への満足度.....	95

第2部 地域別の調査結果

第1章 地域別の子育て家庭を取り巻く環境	100
1 子育ての環境について	100
(1) 主な保育者と親族等協力者の状況	100
(2) 子育てに関する相談者の状況	117
2 保護者の就労状況	121
(1) 母親の就労状況	121
(2) 父親の就労状況	129
第2章 地域別の子育て支援サービスの現状と今後の利用希望	138
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望	138
(1) 平日の定期的な教育・保育事業	138
(2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由	154
2 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望	164
(1) 土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望	164
(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望	171
3 子育て支援事業の現状と今後の利用希望	176
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況	176
(2) 今後の利用希望	182
(3) 地域の子育て支援事業の周知度・利用状況と今後の利用希望	184
4 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ	191
(1) 病気やケガで保育所や幼稚園が利用できない時の対処	191
5 不定期に利用している教育・保育事業や一時保育等について	212
(1) 不定期に利用している教育・保育事業や一時保育等の状況	212
(2) 宿泊を伴う保育の利用状況	224
6 放課後の過ごし方について	231
(1) 平日の放課後の過ごし方	231
(2) 土曜日、日曜・祝日、長期休暇期間中の地域児童健全育成事業・ 放課後児童健全育成事業の利用希望	239

資料編 自由意見のとりまとめ、調査票見本

資料編.....	253
1 子ども・子育て環境や支援に関する自由意見	253
(1) 就学前児童の保護者の自由意見.....	253
(2) 小学生の保護者の自由意見	257
2 「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査」調査票	260
(1) 就学前児童の保護者用.....	260
(2) 小学生の保護者用.....	266

第 1 部

調査実施の概要と調査結果

第1章

調査実施の概要

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

本市では「子ども・子育て支援法」に基づき、一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる社会の実現を目指して、平成27年3月に「富山市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでいますが、本計画が平成27年度から31年度までの5か年計画であることから、2020年度を始期とする第2期計画の策定を予定しています。

第2期計画策定にあたり、必要な情報を得るため、子育て家庭のニーズについて動向分析等を行い、市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題を整理することを目的としたアンケート形式によるニーズ調査を実施しました。

2 調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数および調査期間・方法は、以下のとおりです。

図表1.1 調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援に関するニーズ調査(就学前児童用)」	
調査対象者	就学前児童を持つ保護者
調査票配布数	7,500人
調査期間	平成30年11月22日～平成30年12月10日
調査方法	郵送方式による配布・回収
②調査票「子ども・子育て支援に関するニーズ調査(小学生用)」	
調査対象者	小学生を持つ保護者
調査票配布数	2,500人
調査期間	平成30年11月27日～平成30年12月10日
調査方法	小学校による配布・回収

3 調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布・回収状況は、以下のとおりです。

図表1.2 調査票の配布・回収状況

調査対象者区分	就学前児童の保護者			
	地域	配布数(人)	回収数(人)	うち5歳以上
市全域				7,500
中央地域	598	379	53	63.4
東部地域	1,291	754	115	58.4
西部地域	615	373	65	60.7
南部地域	1,138	667	106	58.6
北部地域	871	526	82	60.4
呉羽地域	556	340	61	61.2
水橋地域	347	204	29	58.8
大沢野・細入地域	524	304	48	58.0
大山地域	241	146	24	60.6
八尾・山田地域	492	298	55	60.6
婦中地域	827	518	93	62.6
地域不明(無回答)		103	6	—

調査対象者区分	小学生の保護者					回収率(%)
	地域	配布数(人)	回収数(人)	低学年	高学年	
市全域				2,500	2,434	1,144
中央地域	150	145	71	74	0	96.7
東部地域	459	429	202	226	1	93.5
西部地域	205	182	79	102	1	88.8
南部地域	421	388	196	192	0	92.2
北部地域	321	296	148	147	1	92.2
呉羽地域	166	166	81	85	0	100.0
水橋地域	114	104	49	55	0	92.2
大沢野・細入地域	138	132	68	64	0	95.7
大山地域	83	73	34	39	0	88.0
八尾・山田地域	140	130	61	69	0	92.9
婦中地域	303	289	143	146	0	95.4
地域不明(無回答)		100	12	22	66	—

4 報告書の見方

(1) 年齢・学年の定義

就学前児童・小学生の年齢定義は、アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

図表1.3 アンケート調査における年齢・学年定義

年齢区分	該当する生年月	年齢区分	該当する生年月
0歳児	平成29年4月以降	6歳児	平成23年4月～平成24年3月
1歳児	平成28年4月～平成29年3月	7歳児	平成22年4月～平成23年3月
2歳児	平成27年4月～平成28年3月	8歳児	平成21年4月～平成22年3月
3歳児	平成26年4月～平成27年3月	9歳児	平成20年4月～平成21年3月
4歳児	平成25年4月～平成26年3月	10歳児	平成19年4月～平成20年3月
5歳児	平成24年4月～平成25年3月	11歳児	平成18年4月～平成19年3月

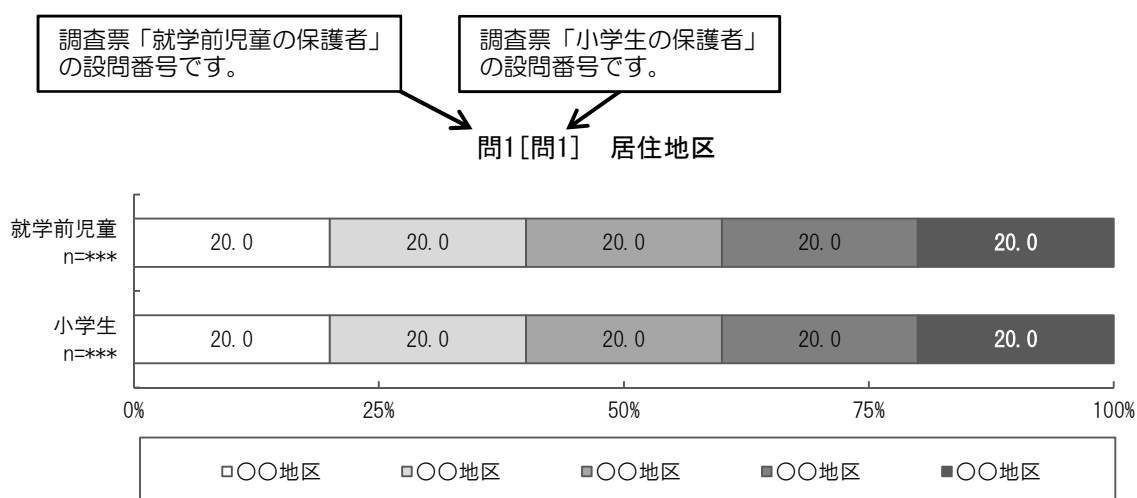
(注) 調査期間【平成30年度】における年齢定義

(2) 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

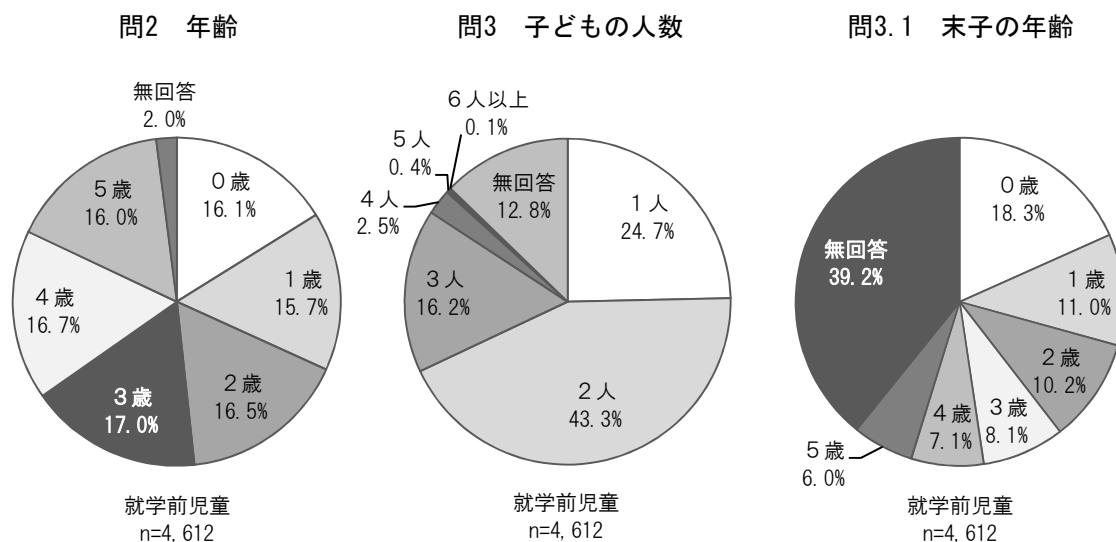
(3) グラフの見方



5 調査対象者の属性・家族状況

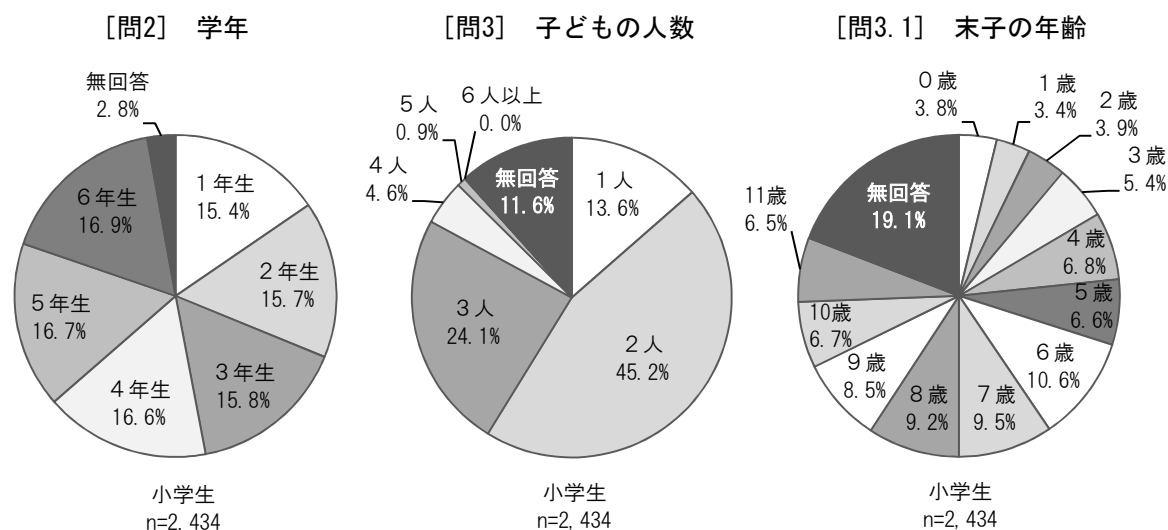
(1) 就学前児童の属性

○回答された4,612人の就学前児童の属性は、以下のとおりです。



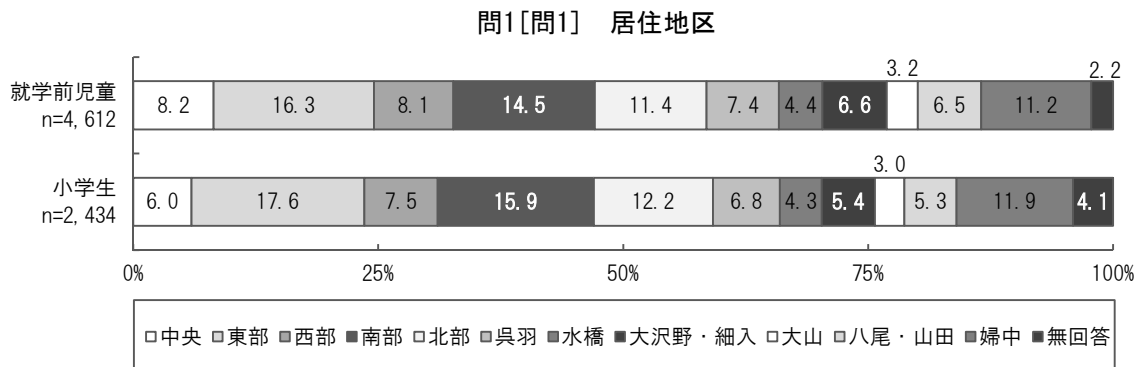
(2) 小学生の属性

○回答された2,434人の小学生の属性は、以下のとおりです。



(3) 居住地域の状況

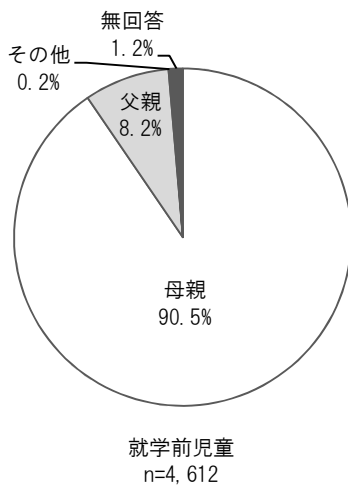
○調査対象者別の回答者の居住地区は以下のとおりです。



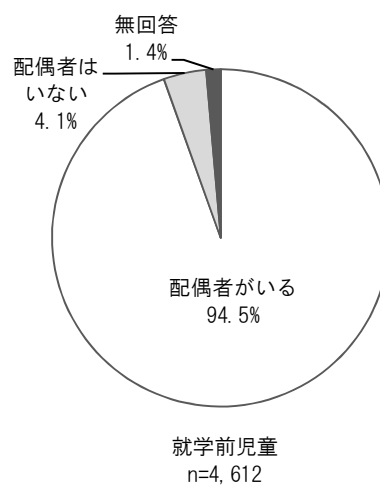
(4) 調査回答者の状況と配偶者の有無

○この調査の回答者は以下のとおりです。

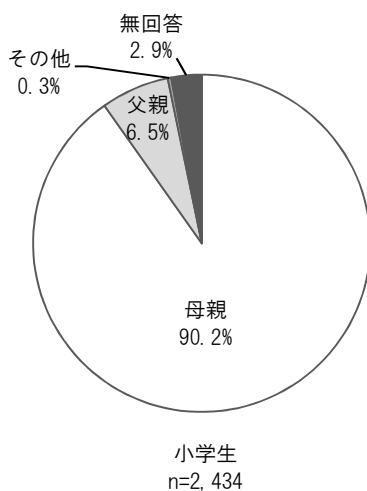
問4 調査回答者（就学前児童）



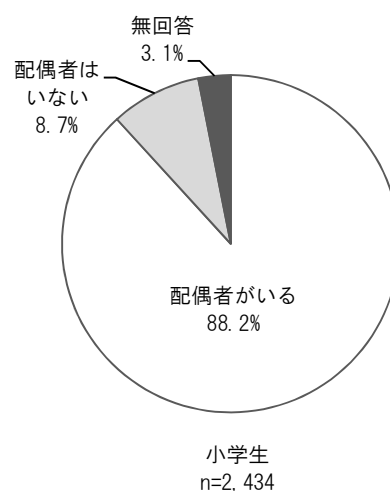
問5 配偶者の有無（就学前児童）



[問4] 調査回答者（小学生）



[問5] 配偶者の有無（小学生）



第2章

調査結果のまとめ

第2章 調査結果のまとめ

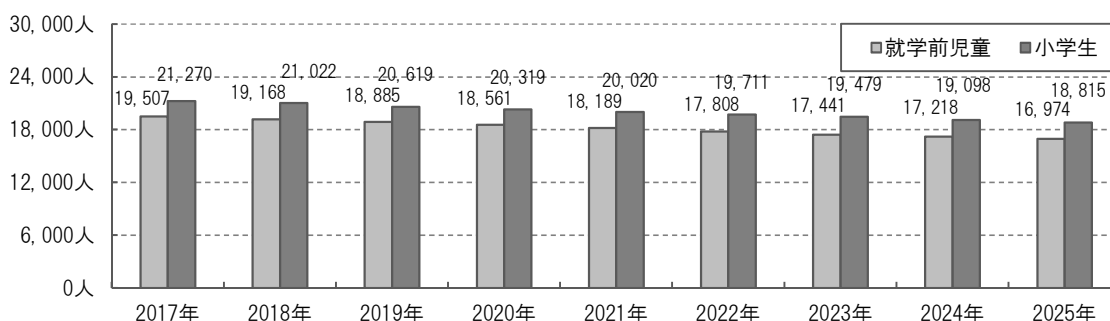
1 子ども人口の推移と推計

(1) 市全域と地区別から見た子ども人口の推移と推計

子ども人口は、毎年1～2%程度緩やかに減少していくことが見込まれます。

2018年の就学前児童数19,168人と小学校児童数21,022人が2025年までの6年間にそれぞれ2,194人(11.4%)、2,207人(10.5%)減少し、就学前児童が16,974人、小学校児童が18,815人になることが見込まれます。

図表2.1 子ども人口の推移と推計（市全域）

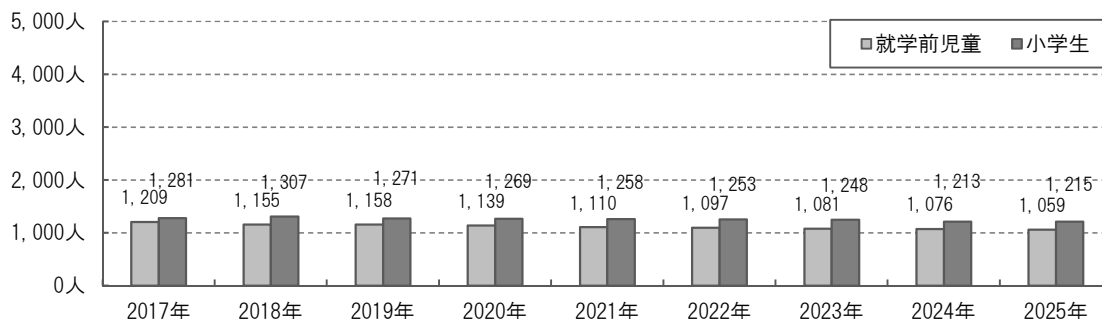


「富山市情報統計課提供資料」を基に推計

(2) 地域別から見た子ども人口の推移と推計

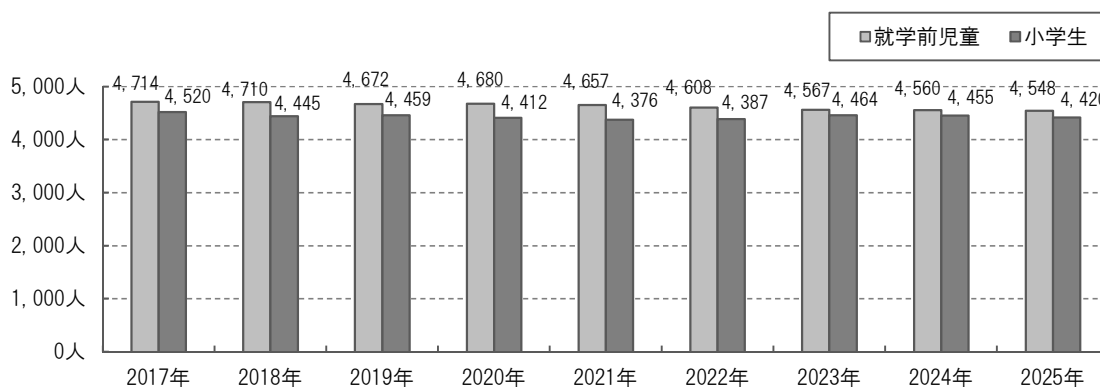
就学前児童数の減少率の高い地域としては、八尾・山田地域(23.9%)、大山地域(23.0%)、水橋地域(20.5%)、西部地域(20.2%)で20%以上の減少率となっています。一方、小学校児童数では水橋地域(28.1%)、八尾・山田地域(23.2%)、大山地域(20.9%)で20%以上の減少率となっています。

図表2.1.1 子ども人口の推移と推計（中央地域）

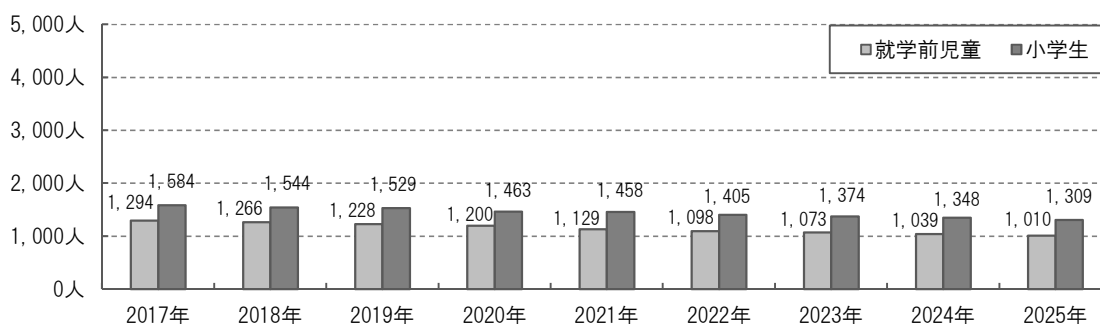


「富山市情報統計課提供資料」を基に推計

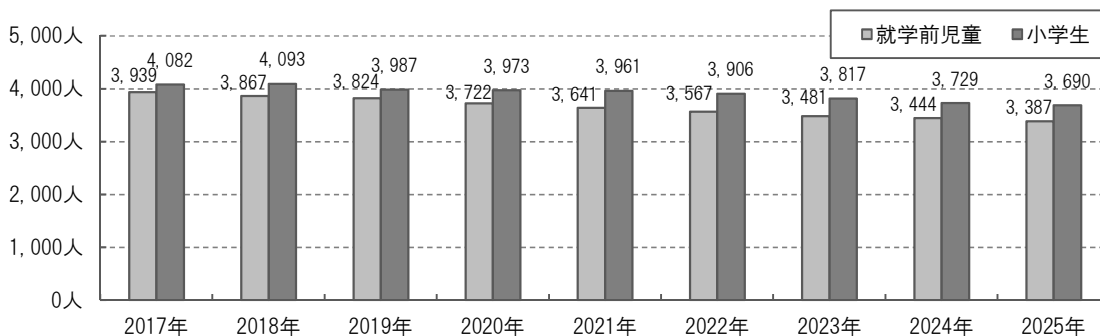
図表2.1.2 子ども人口の推移と推計（東部地域）



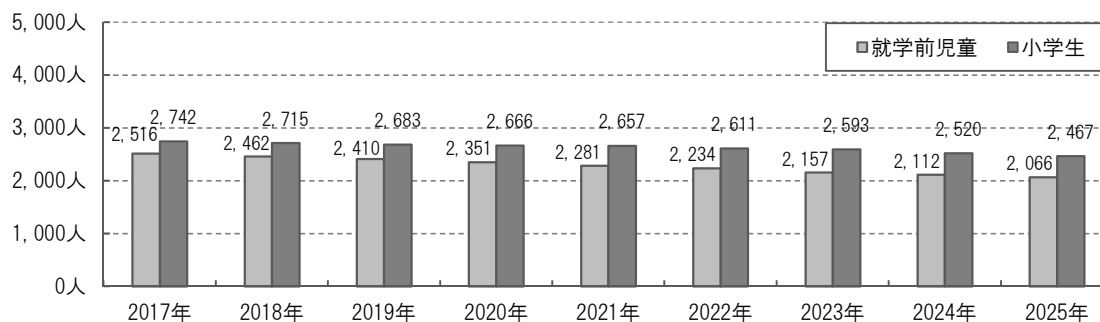
図表2.1.3 子ども人口の推移と推計（西部地域）



図表2.1.4 子ども人口の推移と推計（南部地域）

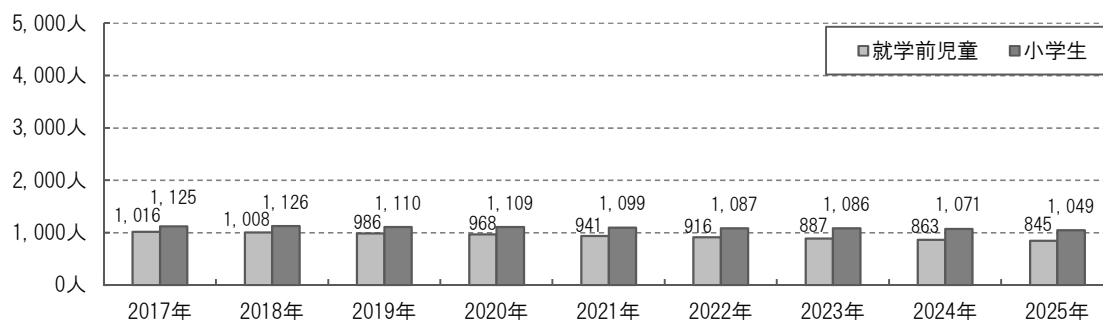


図表2.1.5 子ども人口の推移と推計（北部地域）

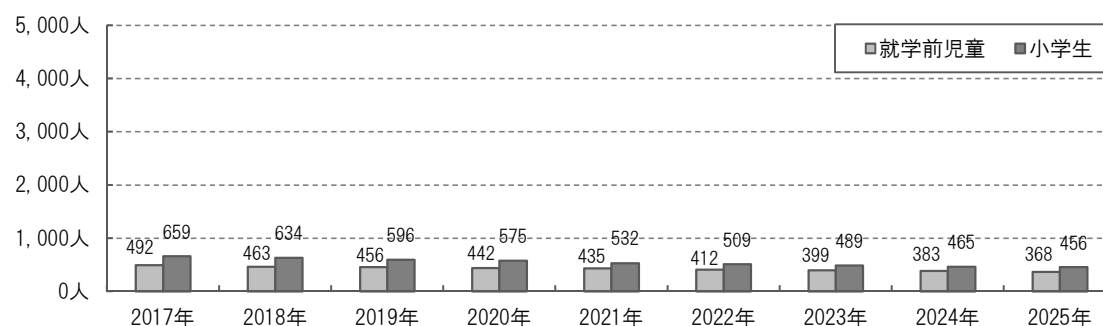


「富山市情報統計課提供資料」を基に推計

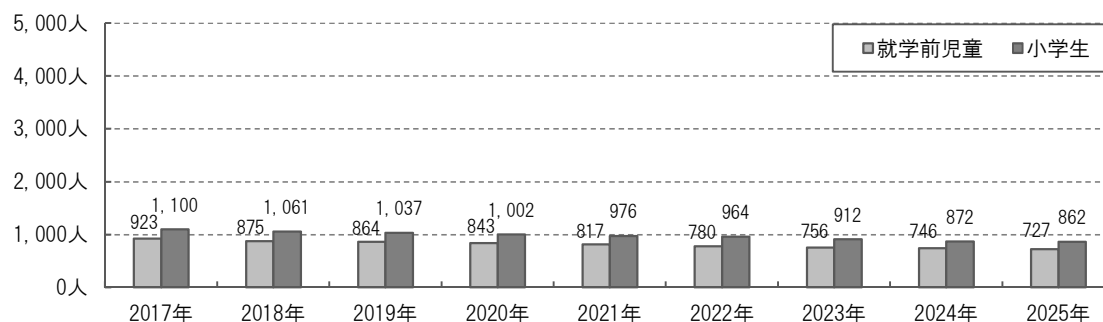
図表2.1.6 子ども人口の推移と推計（呉羽地域）



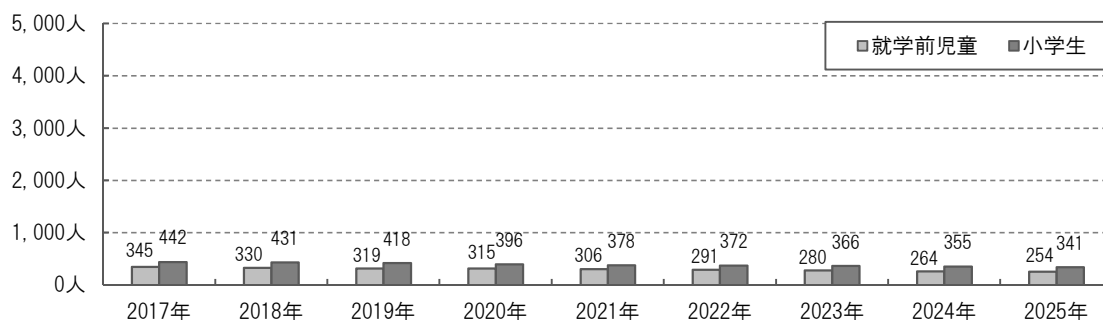
図表2.1.7 子ども人口の推移と推計（水橋地域）



図表2.1.8 子ども人口の推移と推計（大沢野・細入地域）

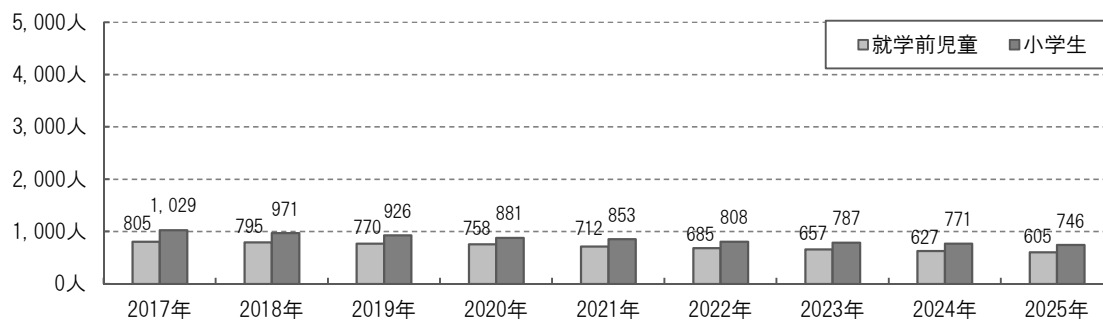


図表2.1.9 子ども人口の推移と推計（大山地域）

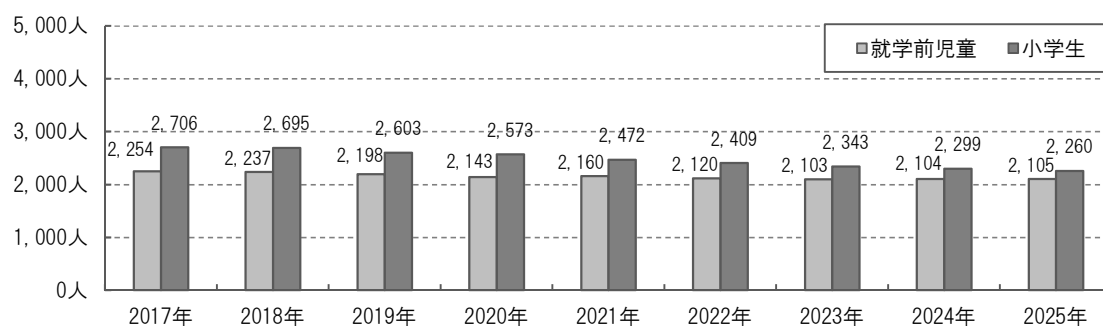


「富山市情報統計課提供資料」を基に推計

図表2.1.10 子ども人口の推移と推計（八尾・山田地域）



図表2.1.11 子ども人口の推移と推計（婦中地域）



「富山市情報統計課提供資料」を基に推計

2 地域（教育・保育提供区域）別の地域特性等

①中央地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の1,155人から2025年には1,059人となり、96人（8.3%）の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童（46.4%）が他地域に比べて最も多く、小学生（44.8%）は2番目に多い状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」（23.7%）は、他地域に比べて最も多い状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム（42.5%）とパートタイム（23.7%）はともに他地域に比べて最も少ない状況です。 ○小学生では、フルタイム（30.3%）は他地域に比べて最も少ないものの、パートタイム（44.8%）は最も多い状況です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は77.0%で、他地域に比べて3番目に少ない状況です。 ○「幼稚園」（17.1%）は他地域に比べて最も多く、「認可保育所」（32.2%）は市平均（31.3）よりやや多く、「幼稚園の預かり保育」（3.1%）は市平均（3.2）とほぼ同数値の状況です。 ○「認定こども園」の利用（45.2%）は、他地域に比べて3番目に少ない状況です。 ○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「幼稚園」（22.0%）、「幼稚園の預かり保育」（20.6%）、「認定こども園」（10.2%）、「認可保育所」（7.1%）の順に増加しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者（25.6%）は他地域に比べて2番目に多いものの、類似事業の利用者（6.6%）は2番目に少ない状況です。 ○新規の利用希望者（20.8%）は他地域に比べて最も多く、回数を増やしたい利用者（9.5%）は3番目に多い状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業（子ども会）」の利用希望は、小学校低学年時期（35.8%）から高学年時期（7.5%）にかけて、約8割も減少しています。 ○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（24.5%）から高学年時期（15.1%）にかけて、4割近く減少しています。
居住地域における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童（3.30）と小学生（3.26）はともに他地域に比べて最も高い得点となっています。

②東部地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の4,710人から2025年には4,548人となり、162人(3.4%)の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童(41.8%)で他地域に比べて4番目に多く、小学生(41.0%)で市平均値(40.2%)よりやや多い状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」(13.9%)は、市平均値(11.4%)よりやや多い状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム(43.1%)が他地域に比べて2番目に少ないものの、パートタイム(29.4%)が市平均値(28.8%)よりやや多い状況です。 ○小学生では、フルタイム(44.0%)が市平均値(44.2%)とほぼ同数値、パートタイム(39.8%)でも市平均値(39.5%)とほぼ同数値です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は73.9%で、他地域に比べて最も少ない状況です。 ○「幼稚園」(14.9%)は他地域に比べて2番目に多く、「幼稚園の預かり保育」(4.5%)でも3番目に多いものの、「認可保育所」(22.1%)は市平均値(31.3%)より少ない状況です。 ○「認定こども園」の利用(60.5%)は、他地域に比べて4番目に多い状況です。 ○利用率(現状)から希望率(今後)の差をみると、「認可保育所」(13.8%)、「幼稚園」(13.2%)、「幼稚園の預かり保育」(11.1%)、「認定こども園」(3.0%)の順に増加しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者(24.0%)は他地域に比べて3番目に多く、類似事業の利用者(9.5%)でも2番目に多い状況です。 ○新規の利用希望者(19.5%)は他地域に比べて3番目に多く、回数を増やしたい利用者(9.7%)でも2番目に多い状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業(子ども会)」の利用希望は、小学校低学年時期(27.0%)から高学年時期(10.4%)にかけて、約6割も減少しています。 ○就学前児童の「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用希望は、小学校低学年時期(36.5%)から高学年時期(16.5%)にかけて、5割以上も減少しています。
居住地域における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童(2.98)は他地域に比べて3番目に低く、小学生(2.90)でも4番目に低い得点となっています。

③西部地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の1,266人から2025年には1,010人となり、256人(20.2%)の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童(36.7%)が最も少なく、小学生(40.7%)は市平均値(40.2%)とほぼ同じ状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」(9.7%)は、市平均値(11.4%)よりやや少ない状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム(43.2%)が他地域に比べて3番目に少ないものの、パートタイム(30.9%)は4番目に多い状況です。 ○小学生では、フルタイム(42.8%)が市平均値(44.2%)よりやや少なく、パートタイム(43.4%)は他地域に比べて3番目に多い状況です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は79.4%で、市平均値(78.2%)よりやや多い状況です。 ○「幼稚園」(12.2%)は市平均値(11.7%)よりやや多いものの、「幼稚園の預かり保育」(0.7%)は他地域に比べて2番目に少なく、「認可保育所」(20.3%)においては最も少ない状況です。 ○「認定こども園」の利用(64.9%)は、他地域に比べて最も多い状況です。 ○利用率(現状)から希望率(今後)の差をみると、「幼稚園」(13.5%)、「認可保育所」(13.2%)、「幼稚園の預かり保育」(12.7%)、「認定こども園」(3.2%)の順に増加しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者(20.9%)は市平均値(22.4%)よりやや少なく、類似事業の利用者(9.1%)は他地域に比べて4番目に多い状況です。 ○新規の利用希望者(19.0%)は他地域に比べて4番目に多く、回数を増やしたい利用者(9.1%)は市平均値(8.6%)とほぼ同数値の状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業(子ども会)」の利用希望は、小学校低学年時期(23.1%)から高学年時期(7.7%)にかけて、7割近くも減少しています。 ○就学前児童の放課後児童クラブ(学童保育)の利用希望は、小学校低学年時期(18.5%)から高学年時期(18.5%)にかけて、同数値で推移しています。
居住地域における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童(3.14)は4番目に高いものの、小学生(2.88)は3番目に低い得点となっています。

④南部地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の3,867人から2025年では3,387人となり、480人（12.4%）の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童（42.3%）が2番目に多く、小学生（41.5%）は市平均値（40.2%）よりやや多い状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」（14.5%）は、他地域に比べて2番目に多い状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム（46.9%）が市平均値（47.1%）よりやや多いものの、パートタイム（25.7%）は他地域に比べて2番目に少ない状況です。 ○小学生では、フルタイム（40.5%）が他地域に比べて2番目に少なく、パートタイム（39.7%）は市平均値（39.5%）とほぼ同数値の状況です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は75.1%で、他地域に比べて2番目に少ない状況です。 ○「幼稚園」（13.2%）は市平均値（11.7%）よりやや多く、「幼稚園の預かり保育」（3.4%）でも他地域に比べて4番目に多く、「認可保育所」（24.2%）は3番目に少ない状況です。 ○「認定こども園」の利用（57.9%）は、市平均値（54.1%）よりやや多い状況です。 ○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「認可保育所」（16.3%）、「幼稚園」（14.2%）、「幼稚園の預かり保育」（12.5%）、「認定こども園」（5.7%）の順に増加しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者（25.9%）は他地域に比べて最も多く、類似事業の利用者（9.4%）でも3番目に多い状況です。 ○新規の利用希望者（16.6%）は、市平均値（17.8%）よりやや少なく、回数を増やしたい利用者（8.4%）は市平均値（8.6%）とほぼ同数値の状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業（子ども会）」の利用希望は、小学校低学年時期（32.1%）から高学年時期（14.2%）にかけて、5割以上も減少しています。 ○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（32.1%）から高学年時期（14.2%）にかけて、5割以上も減少しています。
居住地域における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童（3.07）は市平均値（3.07）と同数値、小学生（2.95）は市平均値（3.01）より低い得点となっています。

⑤北部地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の2,462人から2025年では2,066人となり、396人（16.1%）の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童（38.2%）が市平均値（39.9%）よりやや少なく、小学生（42.6%）は他地域に比べて4番目に多い状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」（9.5%）は、市平均値（11.4%）よりやや少ない状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム（51.3%）は他地域に比べて2番目に多いものの、パートタイム（26.4%）は3番目に少ない状況です。 ○小学生では、フルタイム（41.5%）は他地域に比べて3番目に少ないものの、パートタイム（41.6%）では4番目に多い状況です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は79.3%で、市平均値（78.2%）よりやや多い状況です。 ○「幼稚園」（6.0%）は他地域に比べて2番目に少なく、「幼稚園の預かり保育」（2.2%）でも3番目に少なく、「認可保育所」（30.9%）も市平均値（31.3%）よりやや少ない状況です。 ○「認定こども園」の利用（59.7%）は、市平均値（54.1%）より多い状況です。 ○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「幼稚園」（14.3%）、「認可保育所」（12.4%）、「幼稚園の預かり保育」（10.0%）、「認定こども園」（5.5%）の順に増加しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者（20.5%）は市平均値（22.4%）よりやや少なく、類似事業の利用者（7.0%）は他地域に比べて3番目に少ない状況です。 ○新規の利用希望者（14.1%）は他地域に比べて最も少なく、回数を増やしたい利用者（8.0%）は3番目に少ない状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業（子ども会）」の利用希望は、小学校低学年時期（54.9%）から高学年時期（12.2%）にかけて、約8割も減少しています。 ○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（24.4%）から高学年時期（8.5%）にかけて、6割以上も減少しています。
居住地域における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童（3.16）は他地域に比べて3番目に高く、小学生（3.13）でも4番目に高い得点となっています。

⑥呉羽地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の1,008人から2025年では845人となり、163人(16.2%)の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童(37.4%)が他地域に比べて2番目に少なく、小学生(36.7%)は3番目に少ない状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」(7.4%)は、他地域に比べて3番目に少ない状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム(50.3%)は市平均値(47.1%)よりやや多く、パートタイム(28.8%)は市平均値(28.8%)と同数値の状況です。 ○小学生では、フルタイム(42.8%)は市平均値(44.2%)よりやや少ないものの、パートタイム(44.0%)他地域に比べて2番目に多い状況です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は78.5%で、他地域に比べて4番目に少ない状況です。 ○「幼稚園」(13.5%)は他地域に比べて4番目に多く、「幼稚園の預かり保育」(3.4%)は市平均値(3.2%)とほぼ同数値、「認可保育所」(57.3%)においては最も多い状況です。 ○「認定こども園」の利用(27.3%)は、他地域に比べて最も少ない状況です。 ○利用率(現状)から希望率(今後)の差をみると、「認定こども園」(14.5%)、「幼稚園の預かり保育」(10.4%)、「幼稚園」(9.7%)、「認可保育所」(0.3%)の順に増加しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者(18.5%)と類似事業の利用者(6.5%)はともに他地域に比べて最も少ない状況です。 ○新規の利用希望者(15.9%)は他地域に比べて3番目に少なく、回数を増やしたい利用者(8.2%)でも4番目に少ない状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業(子ども会)」の利用希望は、小学校低学年時期(44.3%)から高学年時期(8.2%)にかけて、8割以上も減少しています。 ○就学前児童の「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用希望は、小学校低学年時期(19.7%)から高学年時期(14.8%)にかけて、2割以上も減少しています。
居住地域における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童(3.01)と小学生(2.92)はともに市平均値(就学前児童3.07・小学生3.01)より低い得点となっています。

⑦水橋地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の463人から2025年では368人となり、95人(20.5%)の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童(42.2%)が他地域に比べて3番目に多く、小学生(32.7%)は最も少ない状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」(7.8%)は、市平均値(11.4%)より少ない状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム(52.4%)は他地域に比べて最も多いものの、パートタイム(27.5%)は市平均値(28.8%)よりやや少ない状況です。 ○小学生では、フルタイム(52.9%)は他地域に比べて3番目に多いものの、パートタイム(36.5%)は3番目に少ない状況です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は79.9%で、他地域に比べて4番目に多い状況です。 ○「幼稚園」(14.7%)は他地域に比べて3番目に多く、「幼稚園の預かり保育」(7.4%)においては最も多く、「認可保育所」(35.0%)でも4番目に多い状況です。 ○「認定こども園」の利用(49.1%)は、他地域に比べて4番目に少ない状況です。 ○利用率(現状)から希望率(今後)の差をみると、「認定こども園」(9.2%)、「幼稚園」(7.8%)、「認可保育所」(7.6%)、「幼稚園の預かり保育」(5.8%)の順に増加しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者(22.5%)は市平均値(22.4%)とほぼ同数値、類似事業の利用者(10.3%)は他地域に比べて最も多い状況です。 ○新規の利用希望者(15.7%)は他地域に比べて2番目に少なく、回数を増やしたい利用者(5.9%)は最も少ない状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業(子ども会)」の利用希望は、小学校低学年時期(44.8%)から高学年時期(20.7%)にかけて、5割以上も減少しています。 ○就学前児童の「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用希望は、小学校低学年時期(20.7%)から高学年時期(10.3%)にかけて、5割も減少しています。
居住地域における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童(2.81)と小学生(2.83)は、ともに他地域に比べて2番目に低い得点となっています。

⑧大沢野・細入地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の875人から2025年では727人となり、148人（16.9%）の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童（37.8%）が他地域に比べて3番目に少なく、小学生（43.2%）は3番目に多い状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」（6.3%）は、他地域に比べて2番目に少ない状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム（50.6%）が他地域に比べて4番目に多く、パートタイム（33.2%）でも2番目に多い状況です。 ○小学生では、フルタイム（59.9%）が他地域に比べて最も多いものの、パートタイム（30.3%）は最も少ない地域です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は83.2%で、他地域に比べて2番目に多い状況です。 ○「幼稚園」（10.3%）は他地域に比べて4番目に少ないものの、「幼稚園の預かり保育」（6.3%）と「認可保育所」（46.6%）はともに2番目に多い状況です。 ○「認定こども園」の利用（40.3%）は、他地域に比べて2番目に少ない状況です。 ○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「幼稚園」（10.1%）、「認可保育所」（8.7%）、「幼稚園の預かり保育」（7.2%）、「認定こども園」（7.1%）の順に増加しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者（19.4%）は他地域に比べて2番目に少なく、類似事業の利用者（7.6%）は市平均値（8.1%）とほぼ同数値の状況です。 ○新規の利用希望者（20.4%）は他地域に比べて2番目に多く、回数を増やしたい利用者（7.2%）は2番目に少ない状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業（子ども会）」の利用希望は、小学校低学年時期（35.4%）から高学年時期（6.3%）にかけて、8割以上も減少しています。 ○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（31.3%）から高学年時期（10.4%）にかけて、7割近くも減少しています。
居住地における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童（3.19）と小学生（3.20）は、ともに他地域に比べて2番目に高い得点となっています。

◎大山地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の330人から2025年では254人となり、76人(23.0%)の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童(39.0%)が市平均値(39.9%)よりやや少なく、小学生(34.2%)は他地域に比べて2番目に少ない状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」(7.5%)は、他地域に比べて4番目に少ない状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム(47.3%)が市平均値(47.1%)とほぼ同数値、パートタイム(33.5%)は他地域に比べて最も多い状況です。 ○小学生では、フルタイム(46.6%)が他地域に比べて4番目に多く、パートタイム(39.8%)は市平均値(39.5%)とほぼ同数値の状況です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は81.5%で、他地域に比べて3番目に多い状況です。 ○「幼稚園」(10.1%)は他地域に比べて3番目に少なく、「幼稚園の預かり保育」(2.5%)でも市平均値(3.2%)とよりやや少なく、「認可保育所」(26.1%)も4番目に少ない状況です。 ○「認定こども園」の利用(63.0%)は、他地域に比べて2番目に多い状況です。 ○利用率(現状)から希望率(今後)の差をみると、「認可保育所」(13.6%)、「幼稚園」(11.1%)、「幼稚園の預かり保育」(7.8%)、「認定こども園」(-1.4%)の順に増減しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者(20.5%)は市平均値(22.4%)よりやや少なく、類似事業の利用者(7.5%)は市平均値(8.1%)に比べて少ない状況です。 ○新規の利用希望者(16.4%)は他地域に比べて4番目に少ないものの、回数を増やしたい利用者(10.3%)は最も多い状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業(子ども会)」の利用希望は、小学校低学年時期(20.8%)から高学年時期(8.3%)にかけて、6割も減少しています。 ○就学前児童の「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用希望は、小学校低学年時期(37.5%)から高学年時期(16.7%)にかけて、5割以上も減少しています。
居住地域における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童(2.76)と小学生(2.81)は、ともに他地域に比べて最も低い得点となっています。

⑩八尾・山田地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の795人から2025年では605人となり、190人(23.9%)の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童(38.6%)が市平均値(39.9%)よりやや少なく、小学生(37.7%)は他地域に比べて4番目に少ない状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」(5.4%)は、他地域に比べて最も少ない状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム(51.3%)は他地域に比べて2番目に多く、パートタイム(32.9%)でも他地域に比べて3番目に多い状況です。 ○小学生では、フルタイム(53.9%)は他地域に比べて2番目に多いものの、パートタイム(30.8%)は2番目に少ない状況です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は83.6%で、他地域に比べて最も多い状況です。 ○「幼稚園」(0.8%)と「幼稚園の預かり保育」(0.4%)は他地域に比べて最も少ないものの、「認可保育所」(38.2%)では3番目に多い状況です。 ○「認定こども園」の利用(61.0%)は、他地域に比べて3番目に多い状況です。 ○利用率(現状)から希望率(今後)の差をみると、「幼稚園」(8.6%)、「認可保育所」(7.8%)、「認定こども園」(5.8%)、「幼稚園の預かり保育」(4.3%)の順に増加しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者(20.5%)は市平均値(22.4%)に比べて少なく、類似事業の利用者(7.7%)は市平均値(8.1%)とほぼ同数値の状況です。 ○新規の利用希望者(18.8%)は他地域に比べて5番目に多く、回数を増やしたい利用者(9.4%)でも4番目に多い状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業(子ども会)」の利用希望は、小学校低学年時期(21.8%)から高学年時期(16.4%)にかけて、2割以上減少しています。 ○就学前児童の「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用希望は、小学校低学年時期(43.6%)から高学年時期(30.9%)にかけて、約3割も減少しています。
居住地域における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童(3.12)は他地域に比べて5番目に高く、小学生(3.15)でも3番目に高い得点となっています。

⑪婦中地域

分析視点	地域特性等
人口推移と推計	○就学前児童数は、2018年の2,237人から2025年では2,105人となり、132人(5.9%)の減少が見込まれています。
子育て家庭環境	○就学前児童の主な保育者に「主に母親」と回答している割合は、就学前児童(39.2%)が市平均値(39.9%)とほぼ同じであり、小学生(46.4%)は他地域に比べて最も多い状況です。 ○就学前児童における主な親族等協力者として「いずれもない」(9.8%)は、他地域に比べて4番目に多い状況です。
母親の就労状況	○就学前児童では、フルタイム(46.3%)は市平均値(47.1%)よりやや少ないものの、パートタイム(30.3%)は市平均値(28.8%)よりやや多い状況です。 ○小学生では、フルタイム(45.0%)とパートタイム(40.5%)はともに他地域に比べて5番目に多い状況です。
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	○定期的な教育・保育事業の利用割合は79.2%で、市平均値(78.2%)よりやや多い状況です。 ○「幼稚園」(12.0%)は市平均値(11.7%)とほぼ同数値、「幼稚園の預かり保育」(2.4%)は市平均値(3.2%)よりやや少なく、「認可保育所」(29.5%)でも市平均値(31.3%)より少ない状況です。 ○「認定こども園」の利用(56.6%)は、市平均値(54.1%)よりやや多い状況です。 ○利用率(現状)から希望率(今後)の差をみると、「幼稚園」(12.7%)、「認可保育所」(11.8%)、「幼稚園の預かり保育」(10.5%)、「認定こども園」(0.3%)の順に増加しています。
地域子育て支援事業の利用率とニーズ等	○地域子育て支援拠点事業の利用者(22.8%)は他地域に比べて4番目に多く、類似事業の利用者(7.3%)は市平均値(8.1%)よりやや少ない状況です。 ○新規の利用希望者(17.8%)は市平均値(17.8%)と同数値、回数を増やしたい利用者(8.5%)は市平均値(8.6%)とほぼ同数値の状況です。 ○就学前児童の「地域児童健全育成事業(子ども会)」の利用希望は、小学校低学年時期(19.4%)から高学年時期(6.5%)にかけて、7割近くも減少しています。 ○就学前児童の「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用希望は、小学校低学年時期(30.1%)から高学年時期(10.8%)にかけて、6割以上も減少しています。
居住地域における子育て環境や満足度	○回答者の平均評価について、就学前児童(3.01)は市平均値(3.07)より低いものの、小学生(3.09)は市平均値(3.01)より高い得点となっています。

第3章

子育て家庭を取り巻く環境

第3章 子育て家庭を取り巻く環境

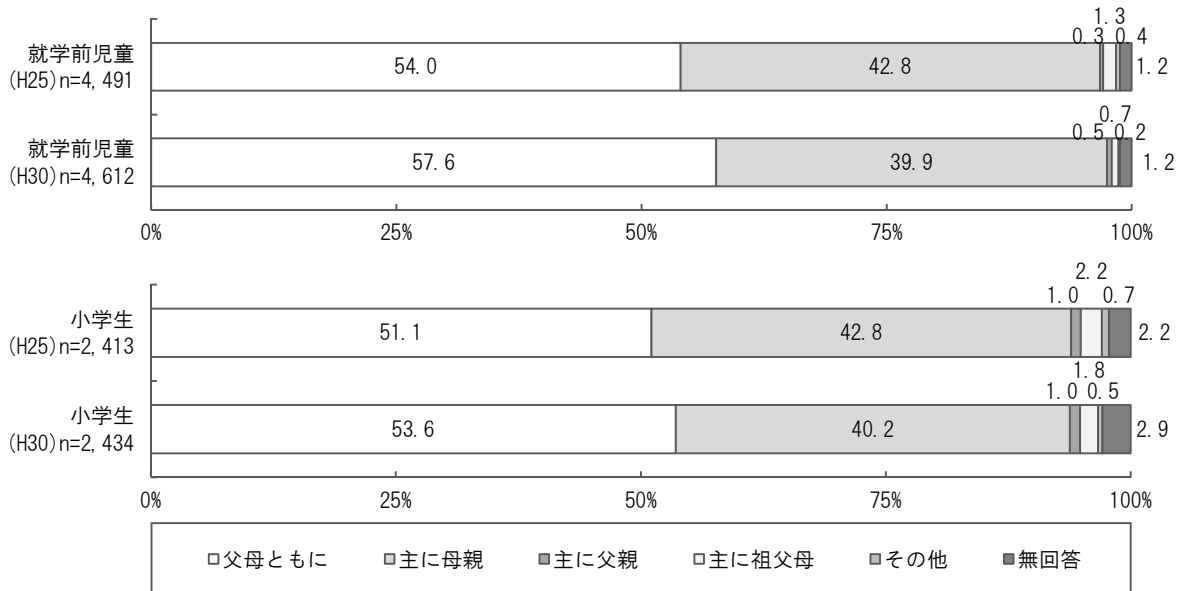
1 子育ての環境について

(1) 主な保育者と親族等協力者の状況

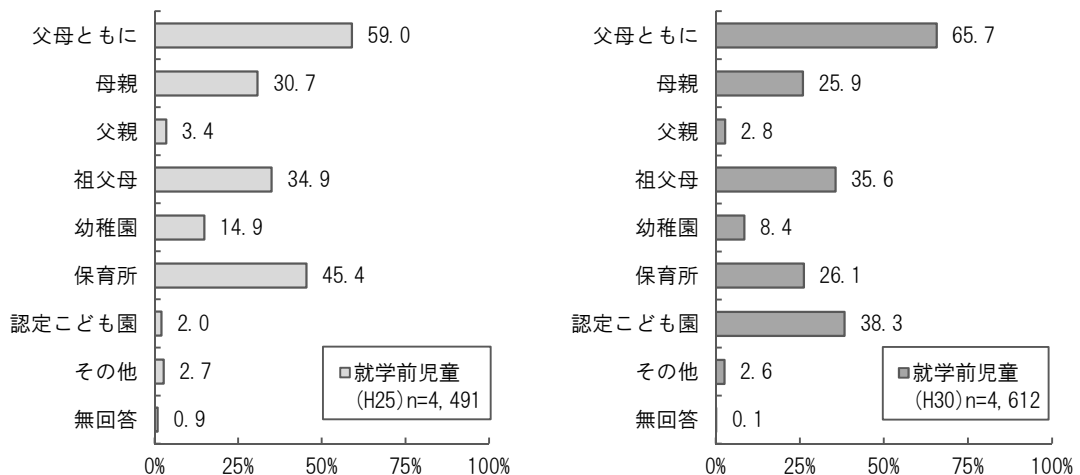
○主な保育者の状況をみると、就学前児童・小学生いずれも「父母ともに」が半数以上を占めています。前回調査と比較すると、就学前児童は3.6ポイント、小学生は2.5ポイント高くなっています。

○就学前児童では、こうした状況の中で日常的に子育てに関わっている方（施設含む）は、「父母ともに」（65.7%）が最も高く、次いで「認定こども園」（38.3%）、「祖父母」（35.6%）となっています。前回調査と比較すると、幼稚園が6.5ポイント、保育所が19.3ポイント低くなったのに対し、認定こども園が36.3ポイント高くなっています。

問6[問6] 主な保育者の状況【経年比較】



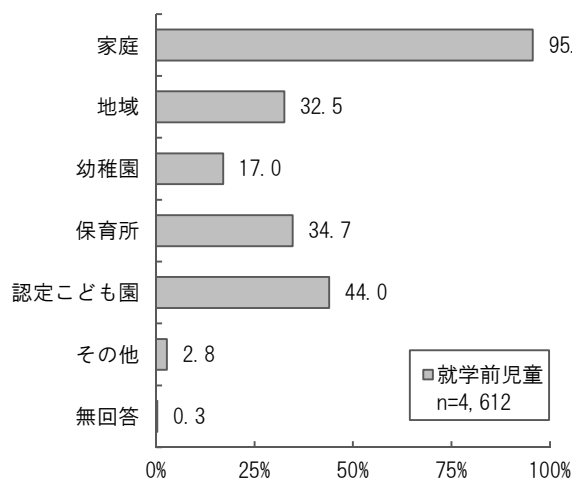
問7 日常的に子育てに関わっている方（施設含む）【経年比較】



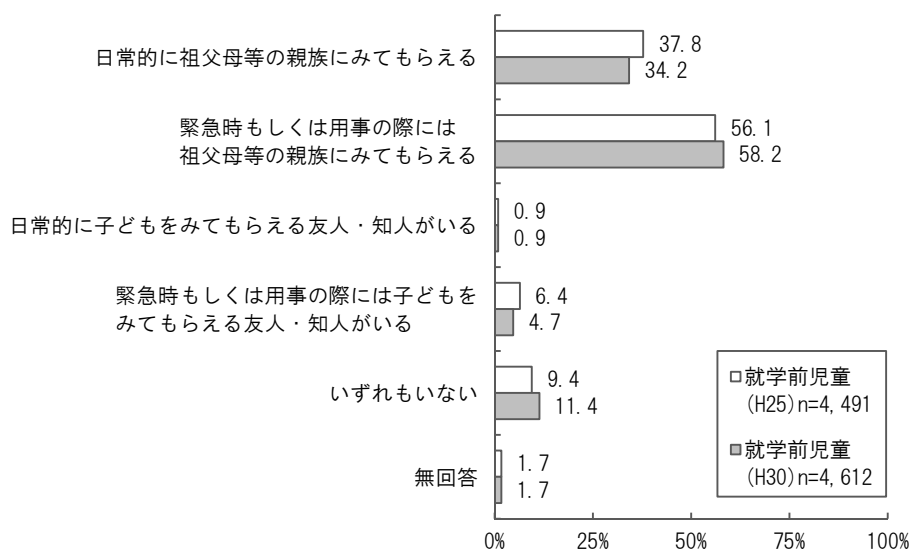
○就学前児童の子育てに影響すると思う環境は、「家庭」(95.7%)と回答した割合が最も高く、次いで「認定こども園」(44.0%)、「保育所」(34.7%)の順となっています。

○就学前児童の子育てに関する親族・知人等協力者の状況をみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」方は58.2%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」方は34.2%と親族の協力者は多い状況です。一方、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」(4.7%)は1割未満であることから、緊急時であっても友人・知人には預けにくい状況がうかがえます。前回調査と比較すると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が2.1ポイント増加したものの、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」は3.6ポイント減少しています。また、「いずれもない」が2.0ポイント増加しています。

問8 子育てに影響すると思う環境



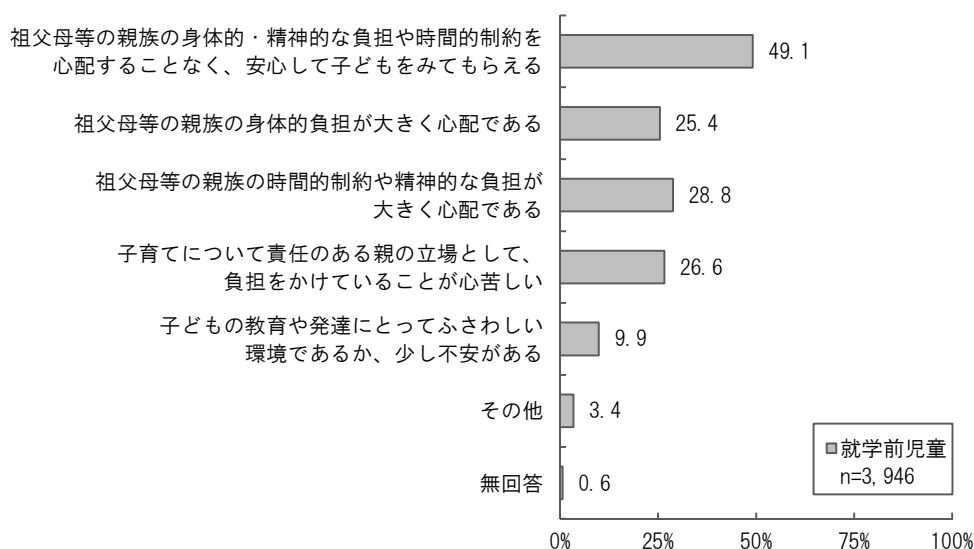
問9 親族・知人等協力者の状況【経年比較】



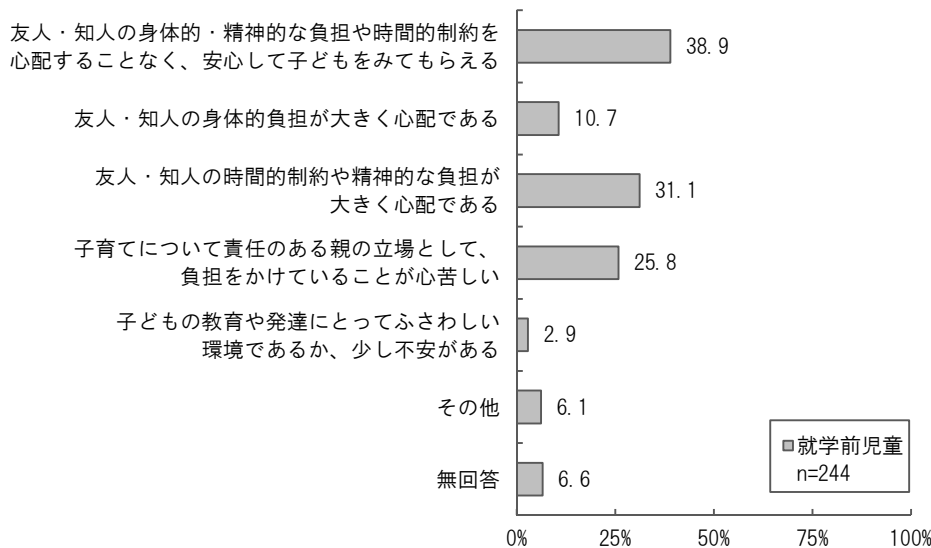
○祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況について、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（49.1%）と回答した割合が最も高いものの、一方で、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（28.8%）、「子育てについて責任のある親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（26.6%）など、祖父母の負担を心配しながらみてもらっている割合も高くなっています。

○友人・知人に子どもを預かってもらっている状況について、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（38.9%）と回答した割合が最も高いものの、一方で、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（31.1%）、「子育てについて責任のある親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（25.8%）と6割近くの方が、友人・知人の負担を心配しながらみてもらっている状況です。

問9-1 祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考え



問9-2 友人・知人に子どもをみてもらうことへの考え

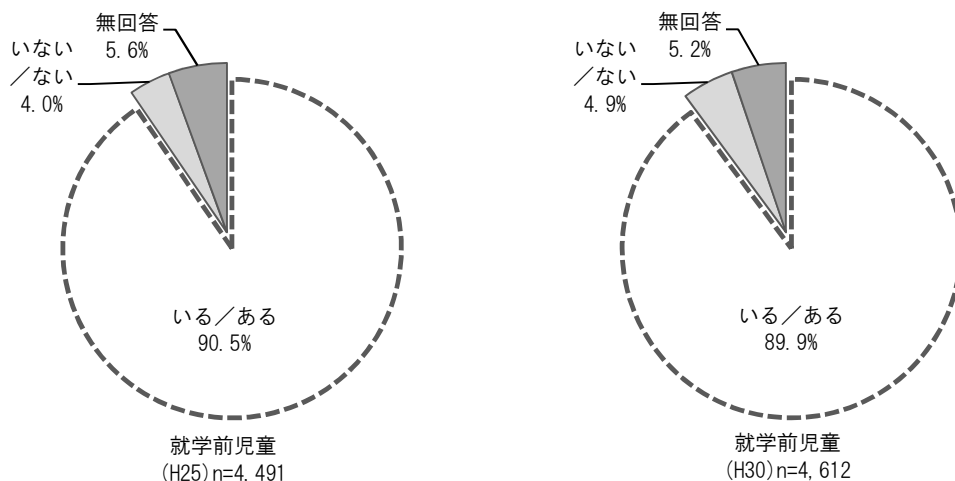


(2) 子育てに関する相談者の状況

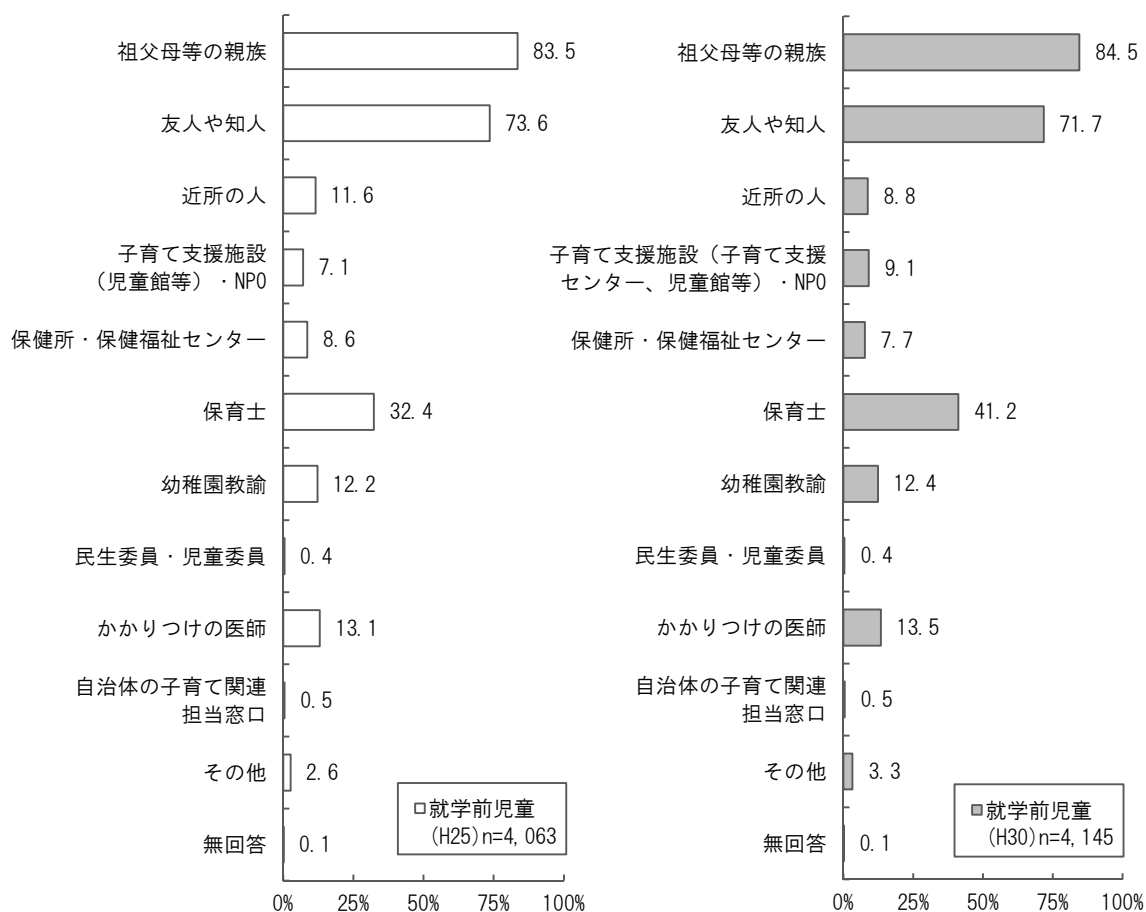
○気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」(89.9%)と回答した方は約9割です。前回調査と大差はありません。

○気軽に相談できる相手の状況をみると、「祖父母等の親族」(84.5%)、「友人や知人」(71.7%)が高くなっています。前回調査と比較すると、「保育士」が8.8^{ポイント}増加しています。

問10 子育てに関して気軽に相談できる人の有無【経年比較】



問10-1 気軽に相談できる相手【経年比較】

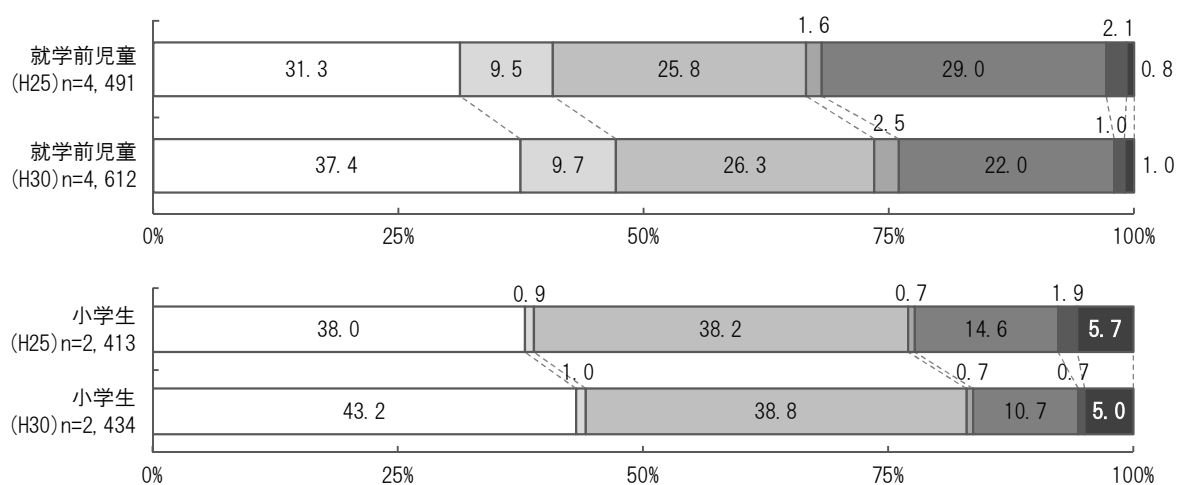


2 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

○母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた現在就労している方は、就学前児童で75.9%、小学生で83.7%となっています。そのうち産休・育休・介護休業を取得中の方は、就学前児童で12.2%、小学生では1.7%となっています。前回調査と比較すると、現在就労している方は、就学前児童で7.7^{ポイント}、小学生で5.9^{ポイント}増加しています。特にフルタイムで就労している母親が増えています。

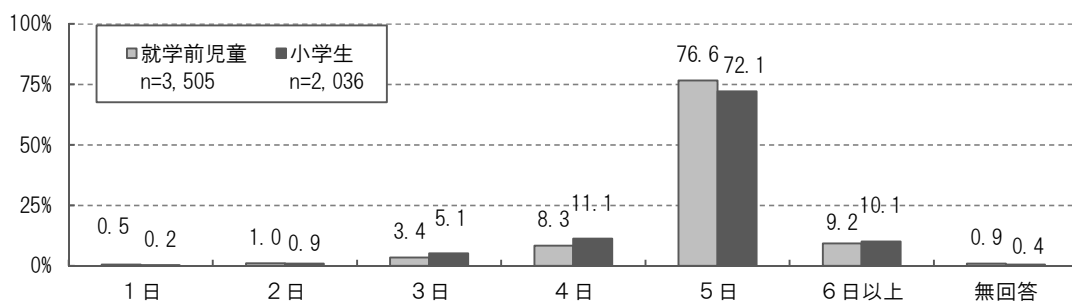
問11(1) [問7(1)] 母親の就労状況【経年比較】



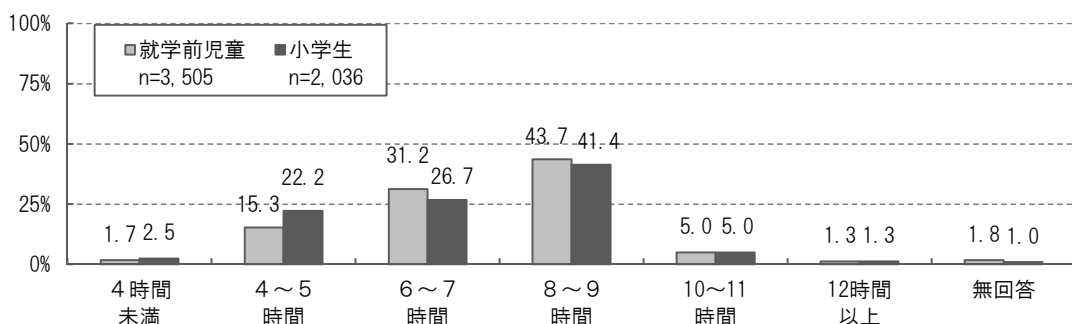
- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業・その他休業中ではない
- フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業・その他休業中である
- パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業・その他休業中ではない
- パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業・その他休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答

- 母親の就労日数と就労時間をみると、就学前児童・小学生ともに「5日」(76.6%・72.1%)、「8～9時間」(43.7%・41.4%)と回答した割合が最も高くなっています。
- 母親の出勤時間は、就学前児童では「7時台」(41.5%)、小学生では「8時台」(44.2%)の割合が最も高く、また、帰宅時間は就学前児童・小学生ともに「16～17時台」(39.2%・34.9%)の割合が最も高くなっています。

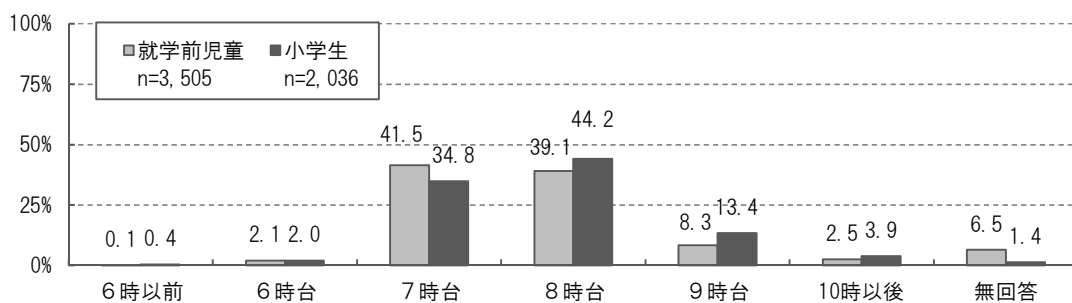
問11(1)-1[問7(1)-1] 母親の就労日数(1週当たり)



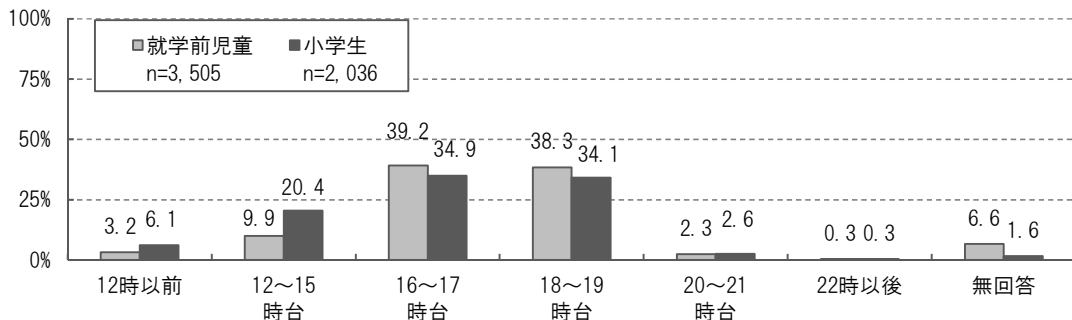
問11(1)-1[問7(1)-1] 母親の就労時間(1日当たり)



問11(1)-2[問7(1)-1] 母親の出勤時間

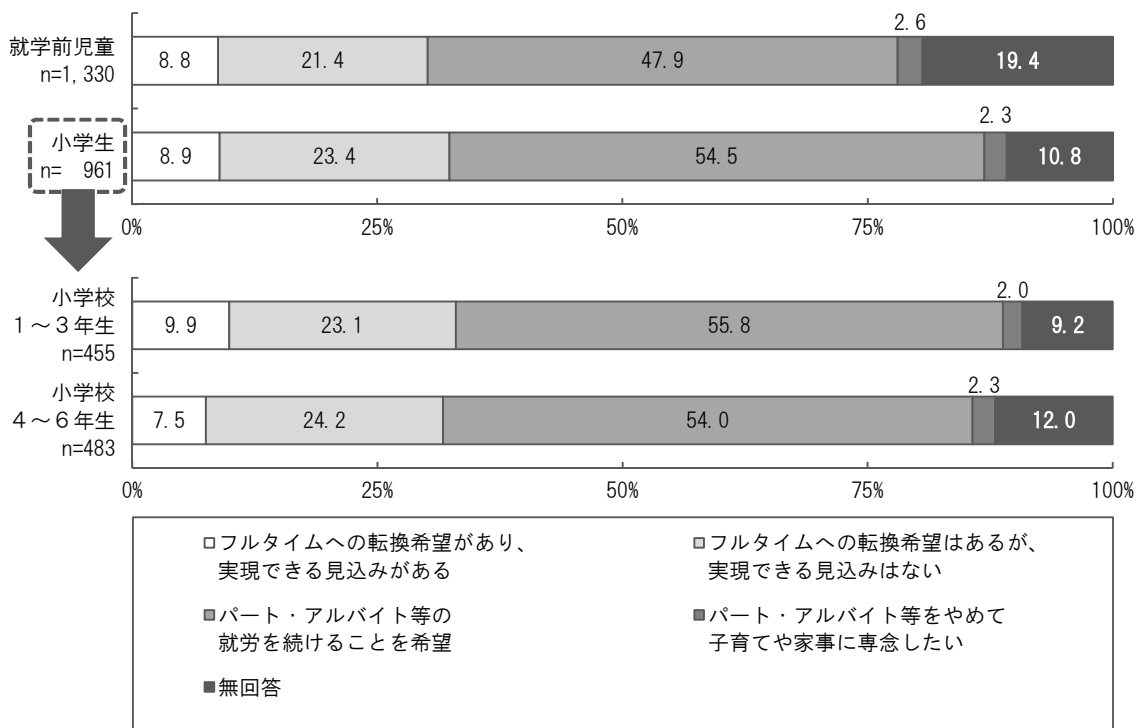


問11(1)-2[問7(1)-1] 母親の帰宅時間



- 「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせたパートタイムからフルタイムへの転換希望がある母親は、就学前児童で30.2%、小学生で32.3%となっています。
- 低学年では高学年より、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」母親の割合が2.4^{ポイント}、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」する母親の割合が1.8^{ポイント}高くなっています。

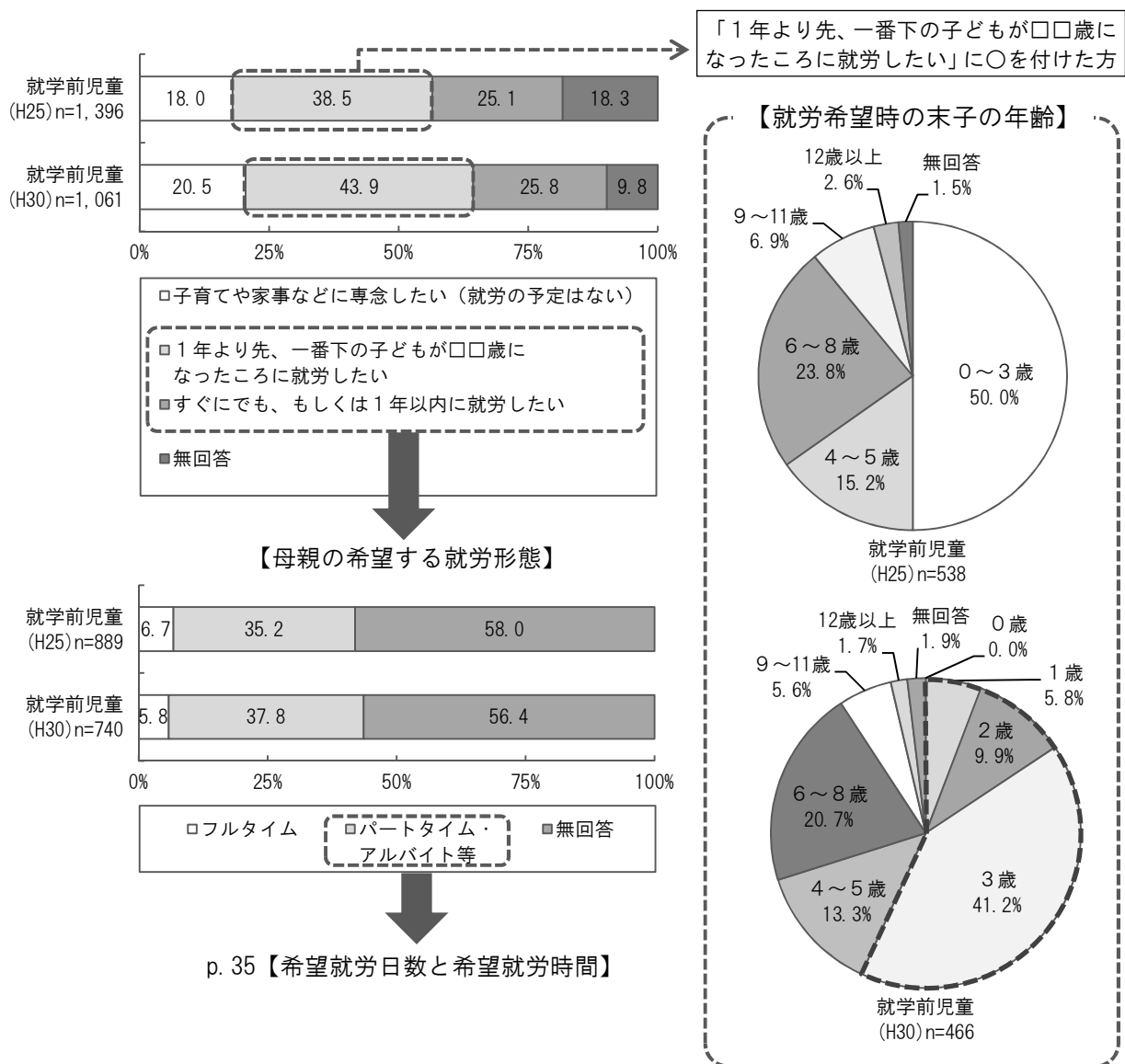
問12(1) [問8(1)] 母親のパート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望



※小学生の内訳には、学年不明（無回答）の23人を含みません。

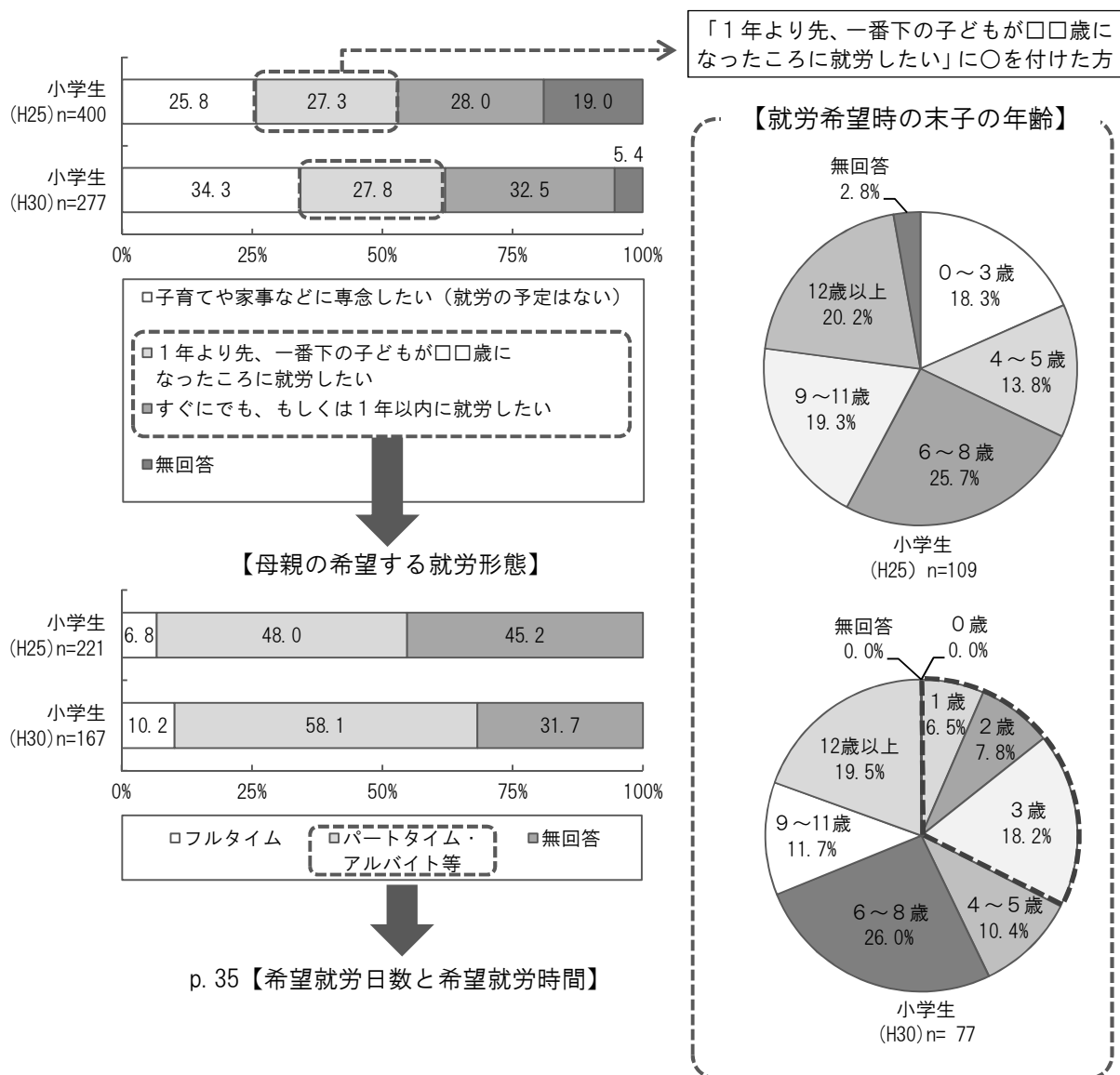
○現在就労していないが今後の就労希望がある就学前児童の母親は69.7%、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が43.9%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が25.8%となり、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が37.8%、「フルタイム」が5.8%となっています。また、就労希望時期となる子どもの年齢としては「0～3歳」（56.9%）と回答した割合が最も高くなっています。前回調査と比較すると、就労希望がある母親は6.1^{ポイント}、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が2.6^{ポイント}、子どもの年齢が「0～3歳」での就労希望が6.9^{ポイント}増加しています。また、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」方も2.5^{ポイント}増加しています。

問13(1) 就労していない母親の今後の就労希望【経年比較】



○現在就労していないが今後の就労希望がある小学生の母親は60.3%、その内訳は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が32.5%、「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」が27.8%となり、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が58.1%、「フルタイム」が10.2%となっています。また、就労希望時期となる子どもの年齢としては「0～3歳」（32.5%）と回答した割合が最も高く、次いで「6～8歳」（26.0%）となっています。前回調査と比較すると、就労希望がある母親は5.0^{ポイント}、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が10.1^{ポイント}、「フルタイム」が3.4^{ポイント}、子どもの年齢が「0～3歳」での就労希望が14.2^{ポイント}増加しています。また、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」方も8.5^{ポイント}増加しています。

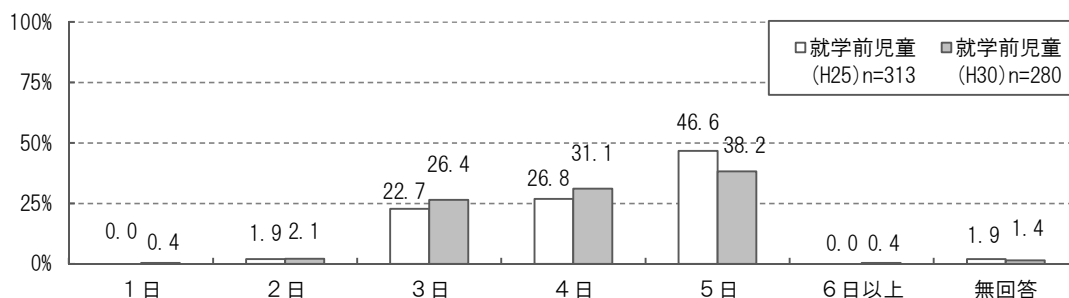
【問9(1)】 就労していない母親の今後の就労希望【経年比較】



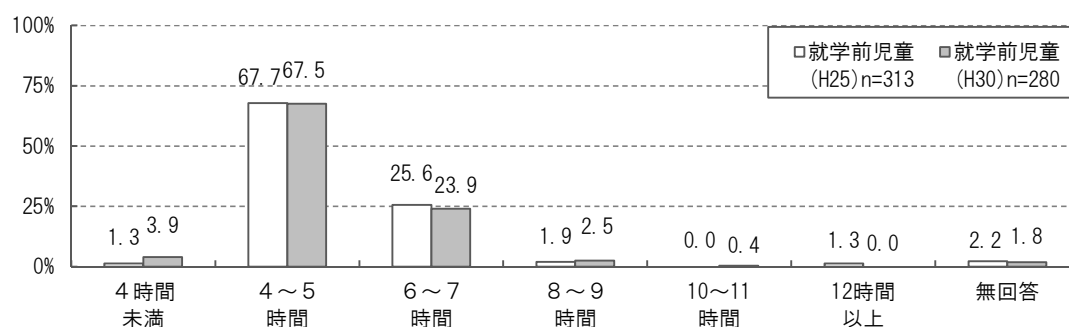
○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の1週当たりの希望就労日数をみると、就学前児童・小学生ともに「5日」(38.2%・33.0%)の割合が最も高くなっていますが、前回調査と比較すると、「5日」の割合がやや低くなり、「3日」「4日」の割合が高くなっています。

○希望就労時間は、就学前児童・小学生ともに「4～5時間」(67.5%・74.2%)の割合が最も高く、次いで「6～7時間」(23.9%・16.5%)となっています。

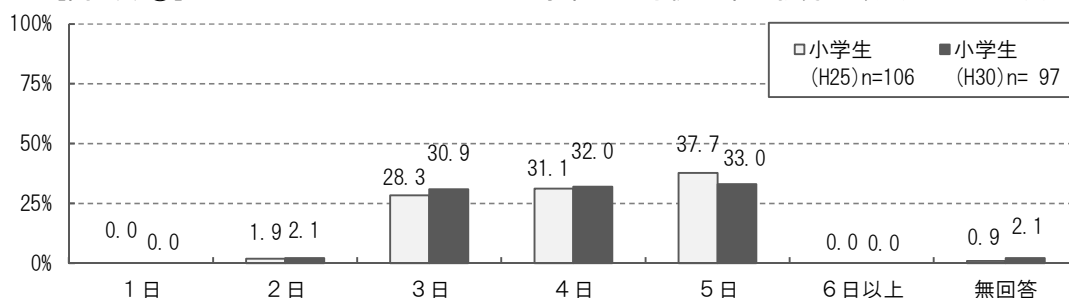
問13(1)② パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数（1週当たり）



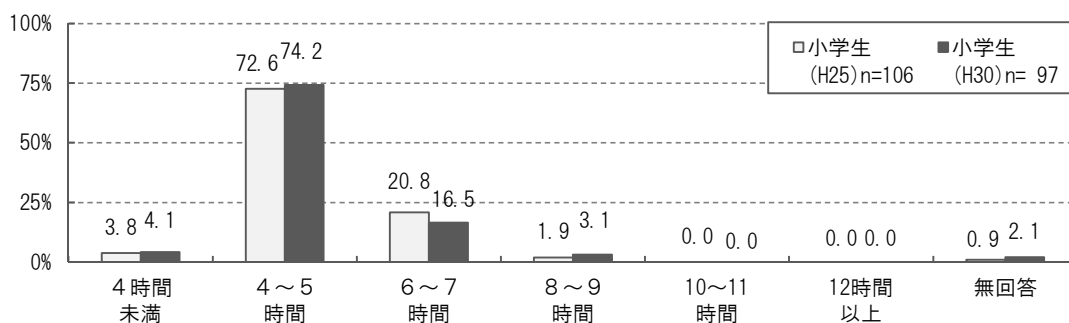
問13(1)② パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間（1日当たり）



[問9(1)②] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数（1週当たり）



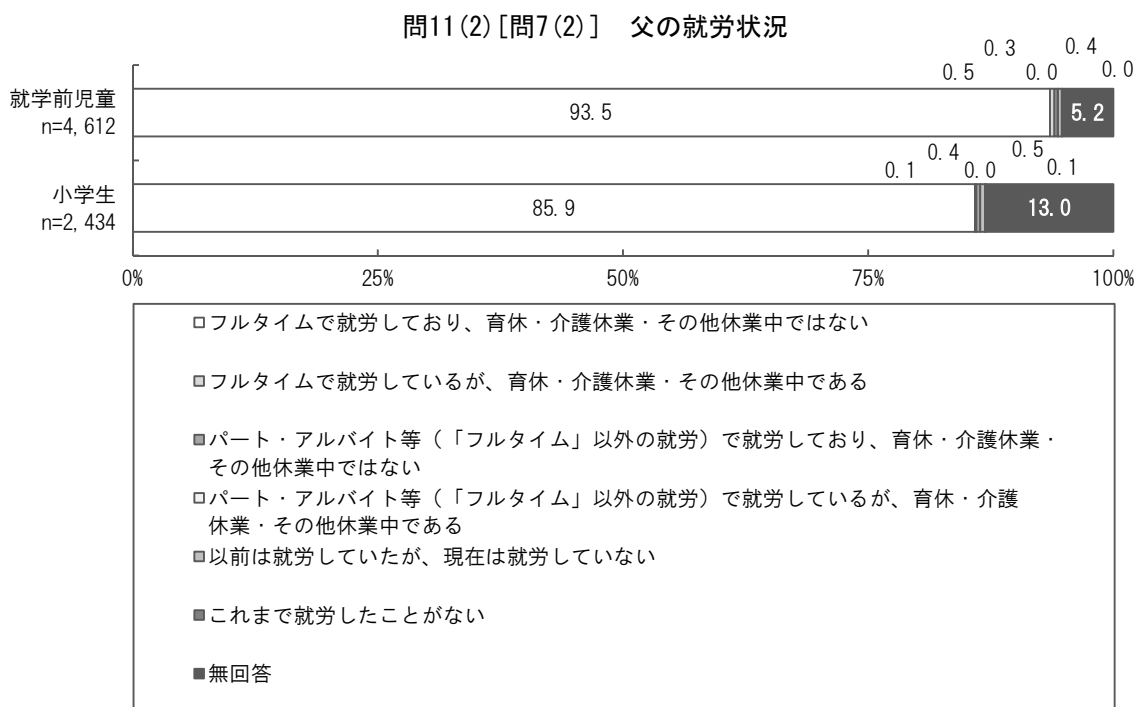
[問9(1)②] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間（1日当たり）



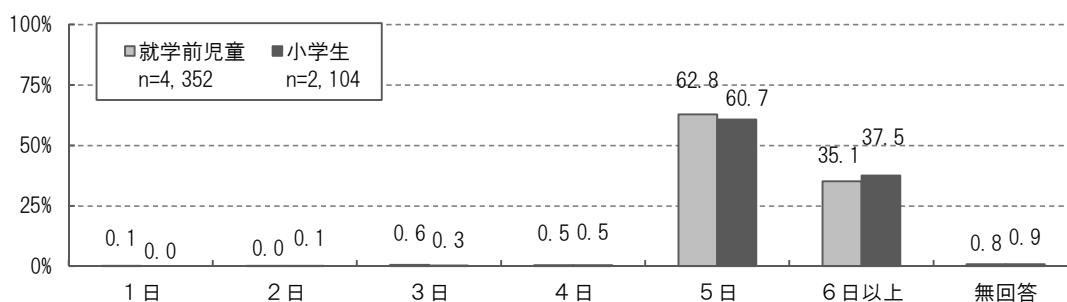
(2) 父親の就労状況

○父親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた現在就労している方は、就学前児童で94.3%、小学生で86.4%となっています。

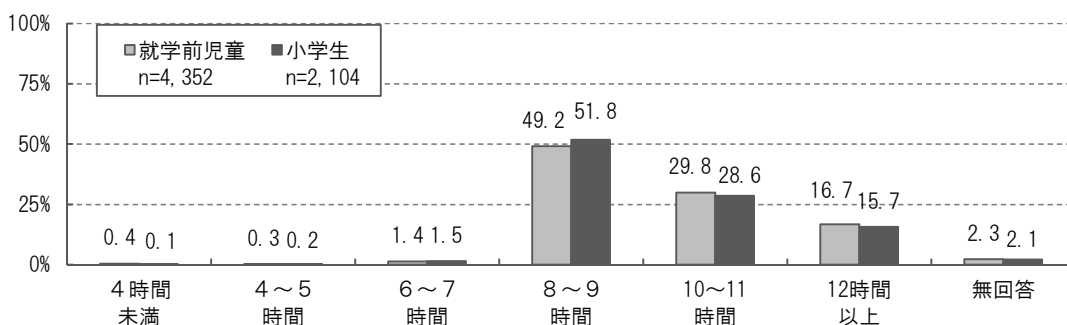
○父親の就労日数をみると、就学前児童・小学生ともに「5日」および「6日以上」と回答した方が大半を占めています。また、就労時間をみると、就学前児童・小学生ともに「8～9時間」（49.2%・51.8%）と回答した割合が最も高くなっています。



問11(2)-1 [問7(2)-1] 父親の就労日数（1週当たり）



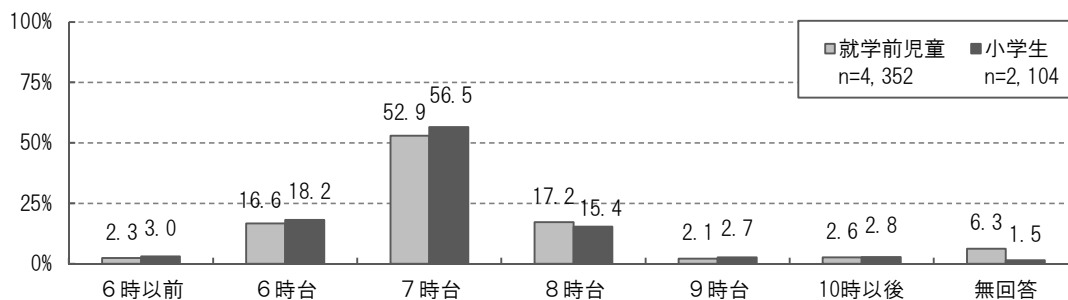
問11(2)-1 [問7(2)-1] 父親の就労時間（1日当たり）



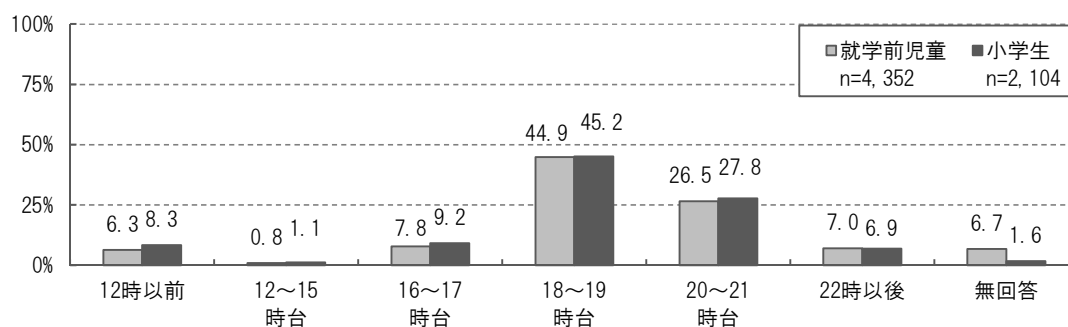
○父親の出勤時間は就学前児童・小学生ともに「7時台」(52.9%・56.5%)、また、帰宅時間は就学前児童・小学生ともに「18~19時台」(44.9%・45.2%)の割合が最も高くなっています。

○父親のパート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望は以下のとおりです。

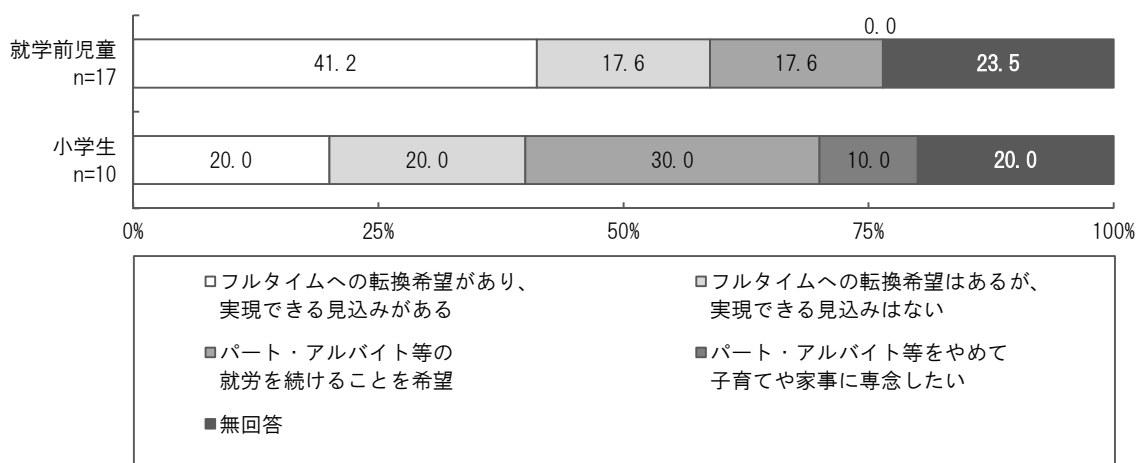
問11(2)-2[問7(2)-1] 父親の出勤時間



問11(2)-2[問7(2)-1] 父親の帰宅時間

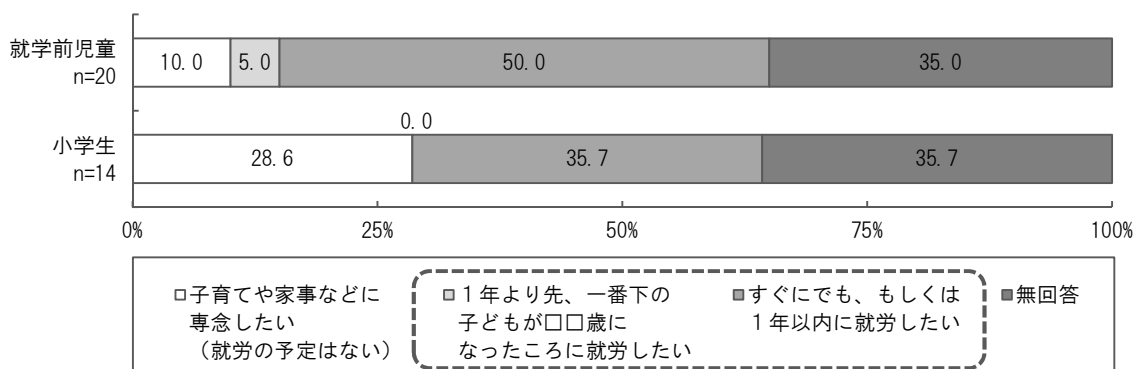


問12(2)[問8(2)] 父親のパート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望

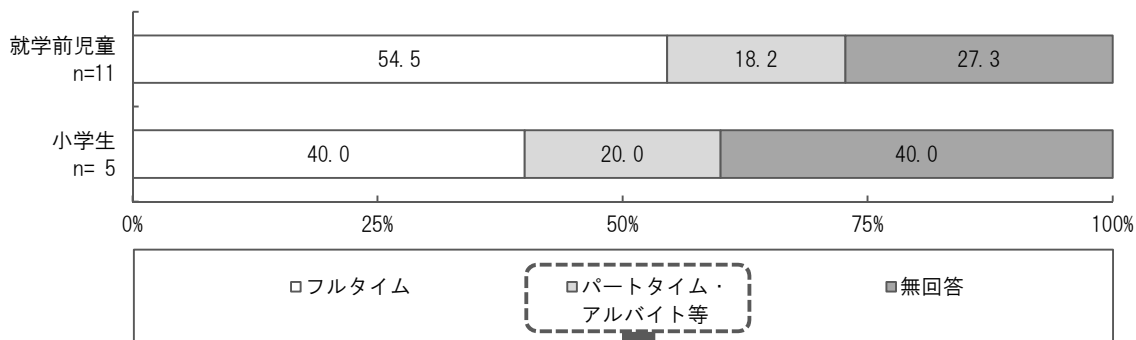


○現在就労していない父親の今後の就労希望は以下のとおりです。

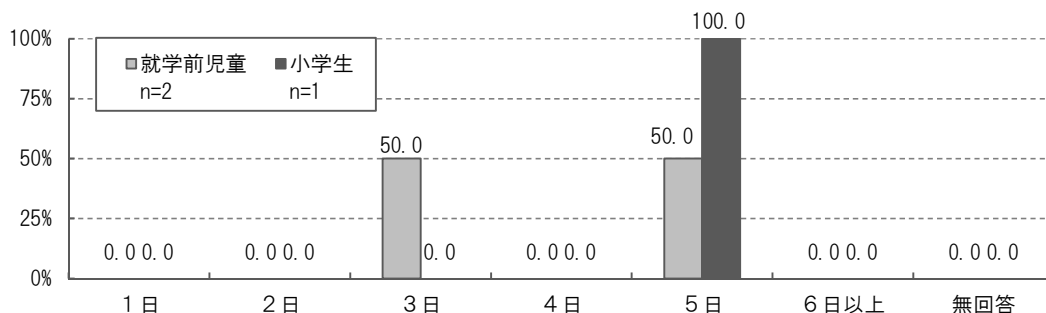
問13(2) [問9(2)] 就労していない父親の就労希望



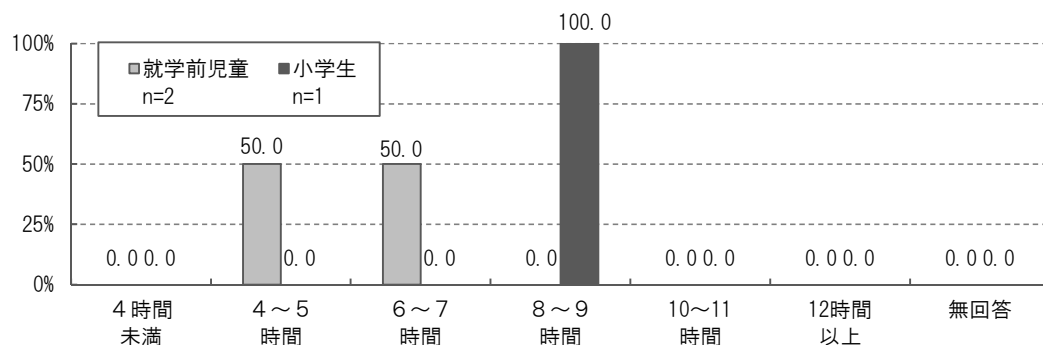
【父親の希望する就労形態】



問13(2)② [問9(2)④] 就労希望のある父親の希望就労日数 (1週当たり)



問13(2)② [問9(2)④] 就労希望のある父親の希望就労時間 (1日当たり)



第4章
子育て支援サービスの現状と
今後の利用希望

第4章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

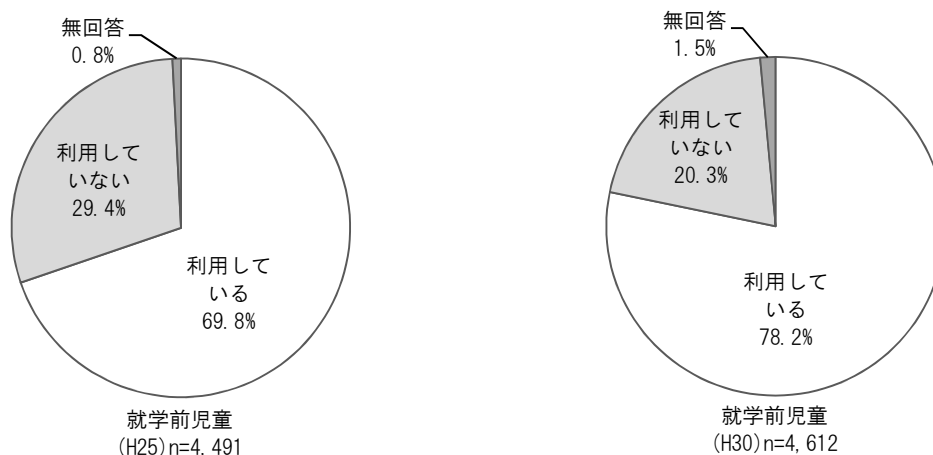
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

(1) 平日の定期的な教育・保育事業

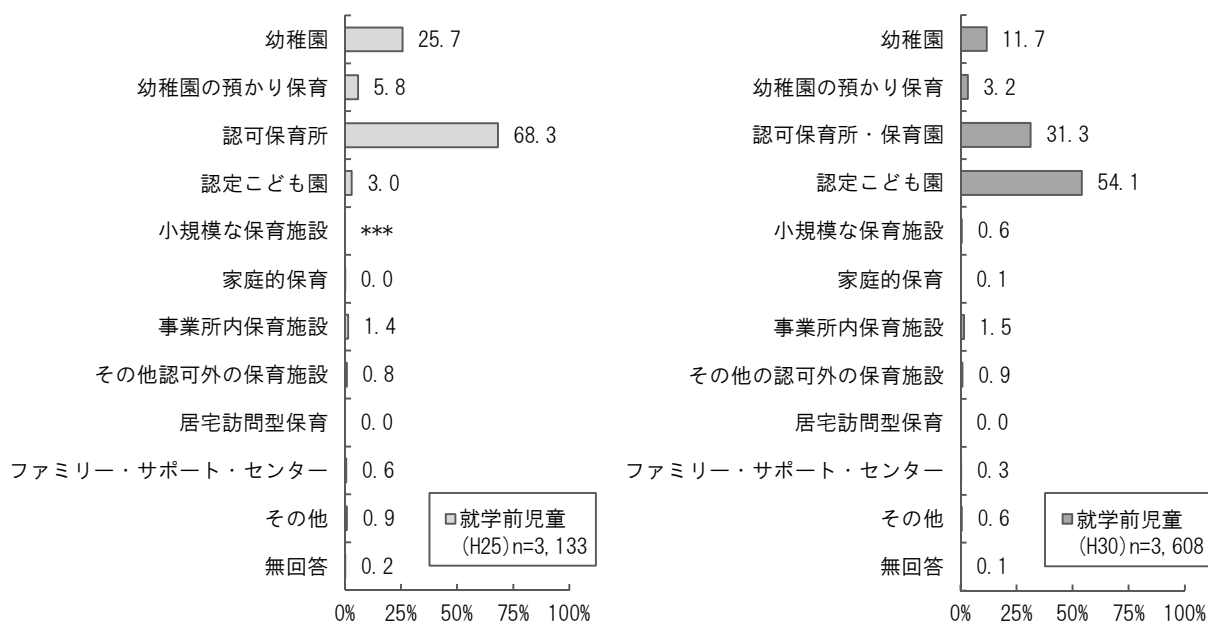
○定期的な教育・保育事業を「利用者している」方は78.2%となっています。前回調査と比較すると、8.4^{ポイント}高くなっています。

○利用中の事業をみると、「認定こども園」は54.1%、「認可保育所・保育園」は31.3%、「幼稚園」は11.7%の方が利用しています。前回調査と比較すると、「認可保育所・保育園」(前回調査「認可保育所」)は37.0^{ポイント}、「幼稚園」は14.0^{ポイント}低くなり、いずれも半減している一方、「認定こども園」は51.1^{ポイント}高くなっています。

問14 定期的な教育・保育事業の利用状況【経年比較】

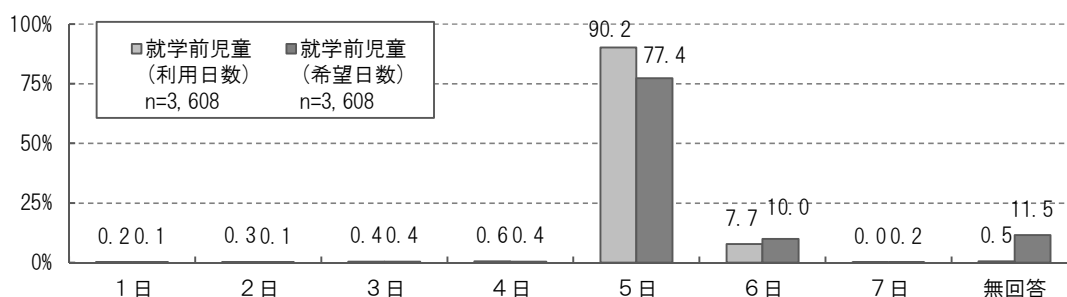


問14-1 定期的な教育・保育事業の利用状況【経年比較】

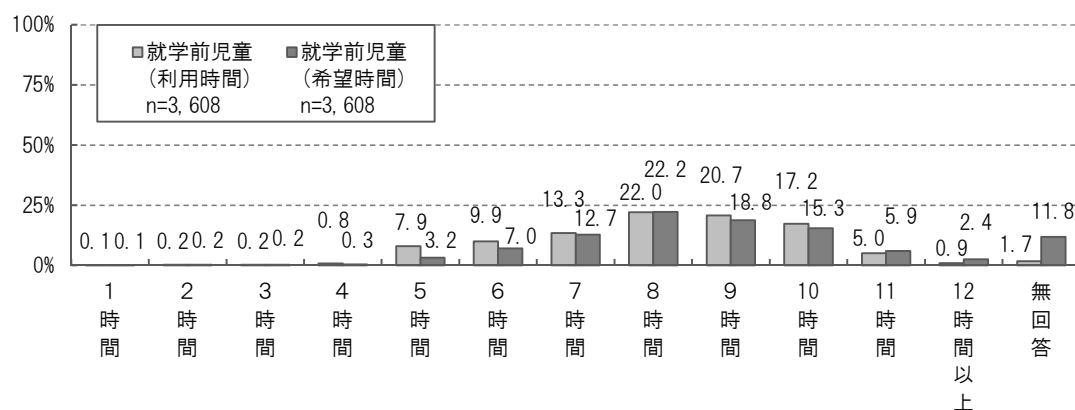


- 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数をみると、利用では「5日」(90.2%)、「6日」(7.7%)の順となり、希望も同様に「5日」(77.4%)、「6日」(10.0%)の順となっています。
- 利用時間と希望時間についてみると、利用・希望ともに「8時間」(22.0%・22.2%)の割合が最も高くなっています。
- 利用時間と希望時間の差をみると、「5時間」では利用時間より希望時間の割合が4.7ポイント^{ポイント}低く、「11時間」「12時間以上」では利用時間より希望時間の割合が高い傾向にあります。

問14-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数(1週当たり)

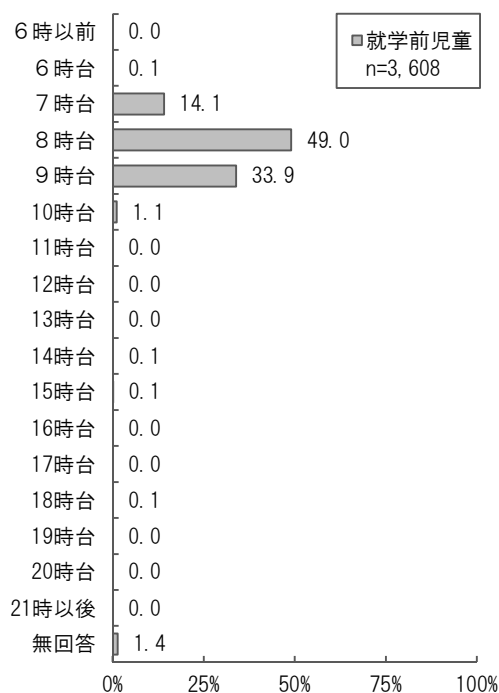


問14-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間(1日当たり)

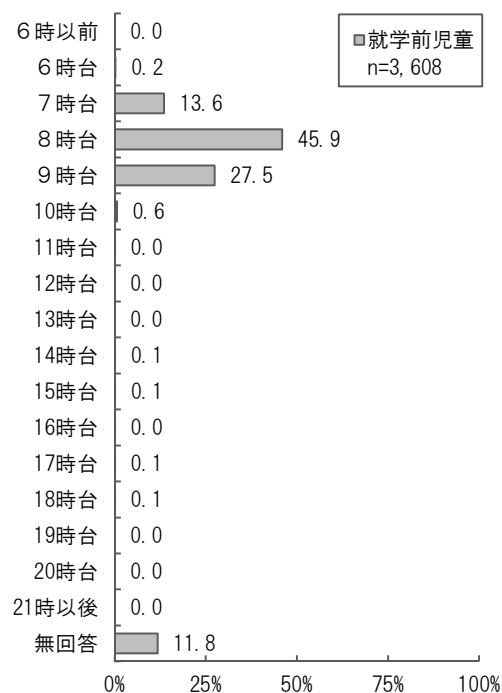


- 利用開始時間・希望開始時間ともに「7時台」～「9時台」が大半を占めています。
- 利用終了時間・希望終了時間ともに「16時台」～「18時台」で割合が高くなっています。

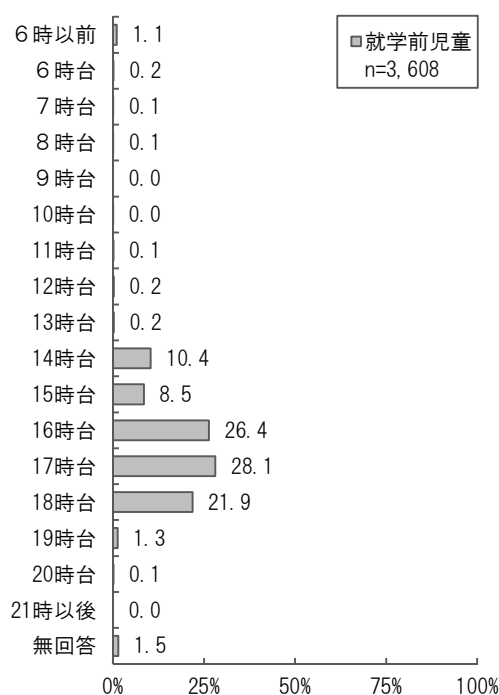
問14-2(1) 利用開始時間



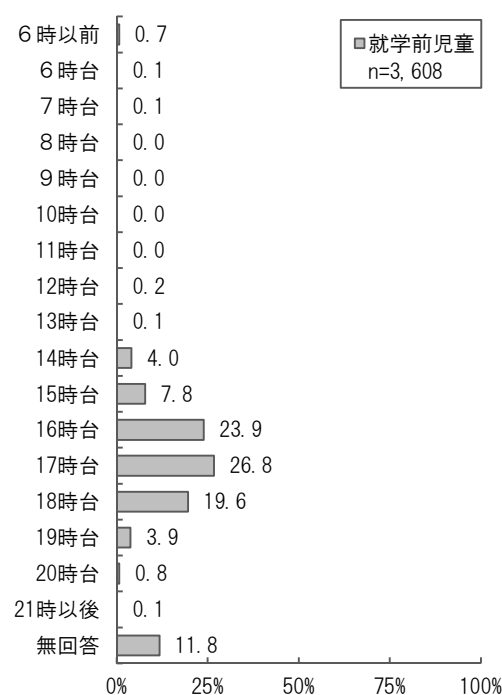
問14-2(2) 希望開始時間



問14-2(1) 利用終了時間

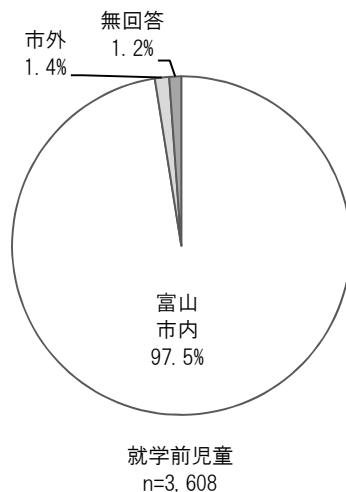


問14-2(2) 希望終了時間



○現在利用している教育・保育事業の実施場所は、「富山市内」が9割以上となっています。

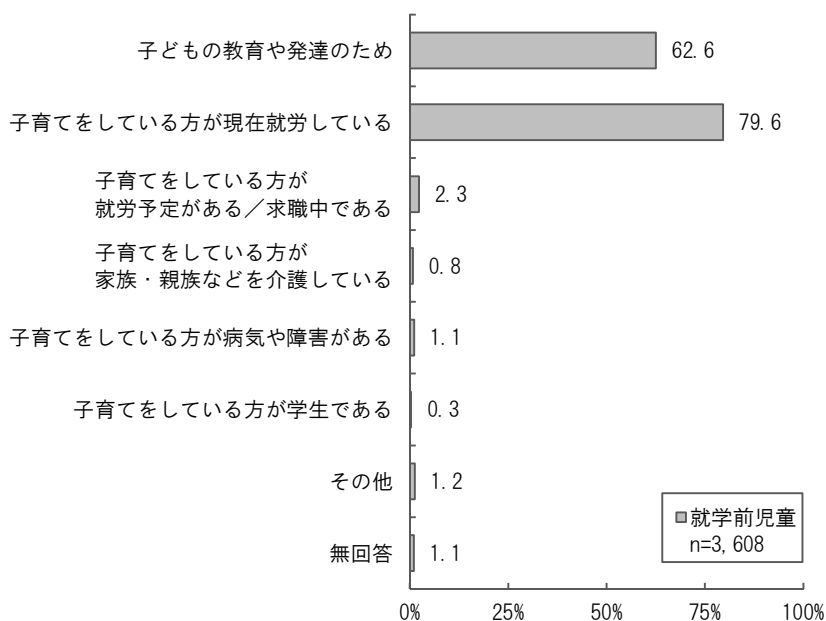
問14-3 教育・保育事業の実施場所



(2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由

○平日に教育・保育事業を利用している理由は、「子育てをしている方が現在就労している」(79.6%)と回答した割合が最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」(62.6%)となっています。

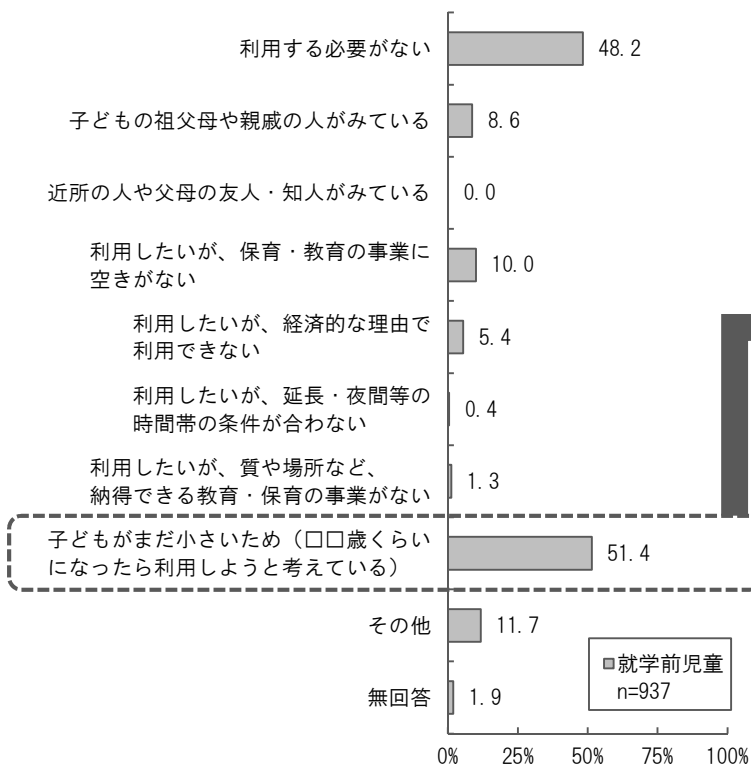
問14-4 平日に教育・保育事業を利用している理由



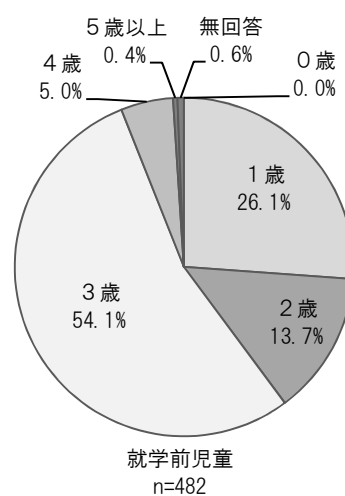
○利用していない理由は、「子どもがまだ小さいため（□□歳くらいになったら利用しようと考えている）」（51.4%）、「利用する必要がない」（48.2%）の割合が高くなっています。

○「子どもがまだ小さいため（□□歳くらいになったら利用しようと考えている）」と回答した方が、教育・保育事業の利用を希望する子供の年齢は、「3歳」（54.1%）の割合が最も高く、次いで「1歳」（26.1%）、「2歳」（13.7%）となっています。

問14-5 教育・保育事業を利用していない理由

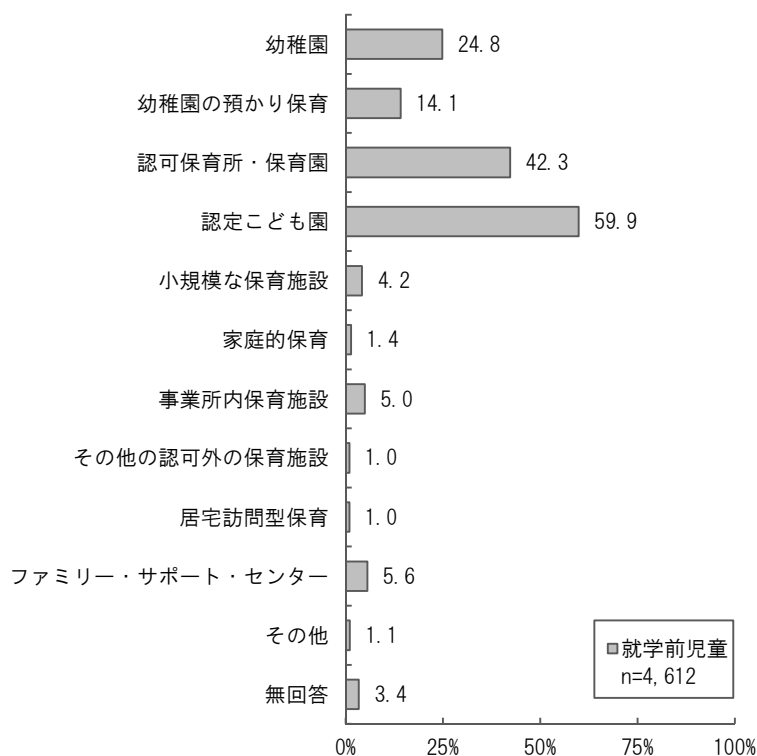


問14-5.8 利用を希望する子どもの年齢

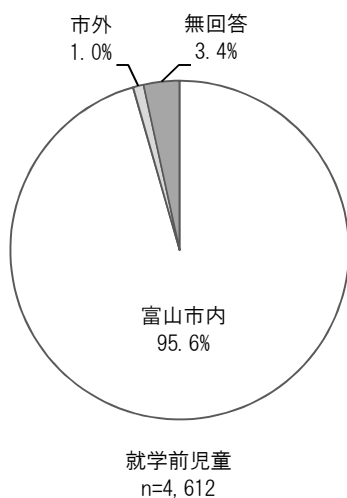


- 希望する事業をみると、「認定こども園」は59.9%、「認可保育所・保育園」は42.3%、「幼稚園」は24.8%で高い割合となっています。
- 教育・保育事業を利用したい場所は、「富山市内」が9割以上となっています。
- 「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」を希望し、かつ、それ以外の事業も希望した方のうち、特に幼稚園の利用を強く希望している方は49.6%となっています。

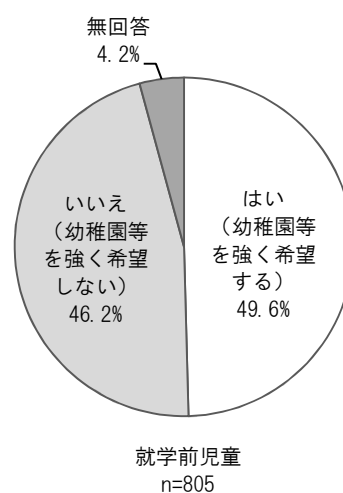
問15 平日に希望する定期的な教育・保育事業



問15-1 教育・保育事業を利用したい場所



問15-2 幼稚園の利用希望（強く希望）の有無



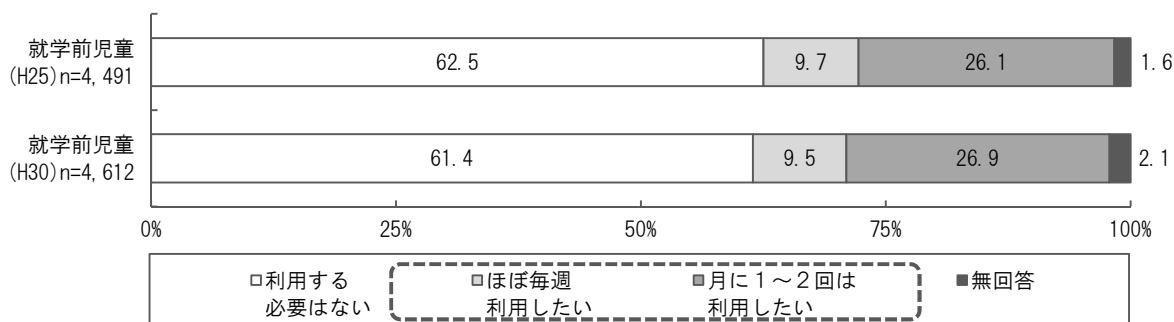
2 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望

(1) 土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

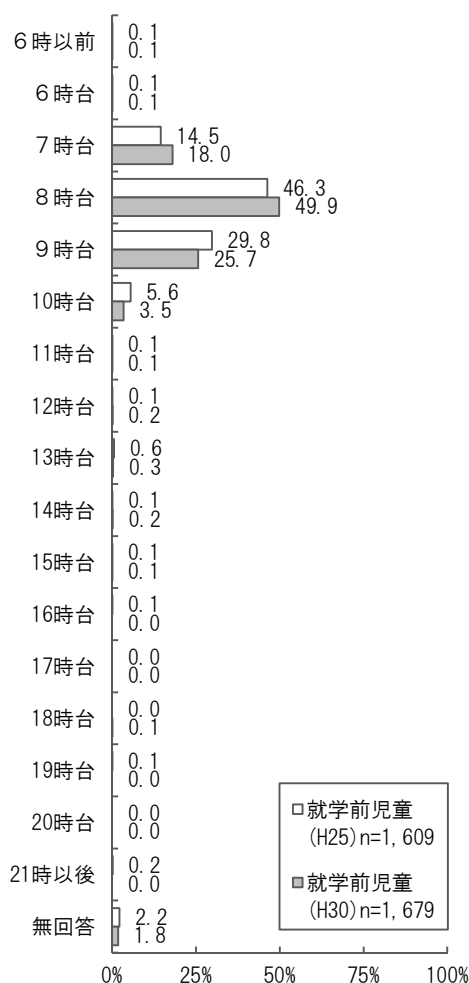
○土曜日の教育・保育事業の利用希望をみると、「月に1～2回は利用したい」が26.9%、「ほぼ毎週利用したい」が9.5%となっています。前回調査と大差はありません。

○土曜日の利用希望者は、事業の開始時間は「8時台」(49.9%)、終了時間は「17時台」「18時台」(あわせて57.3%)が高くなっています。

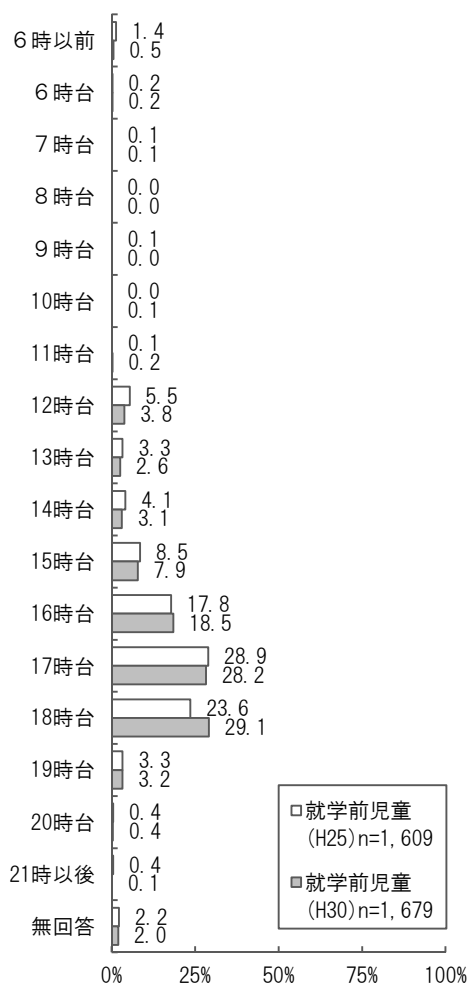
問20(1) 土曜日の利用希望【経年比較】



問20(1) 希望開始時間



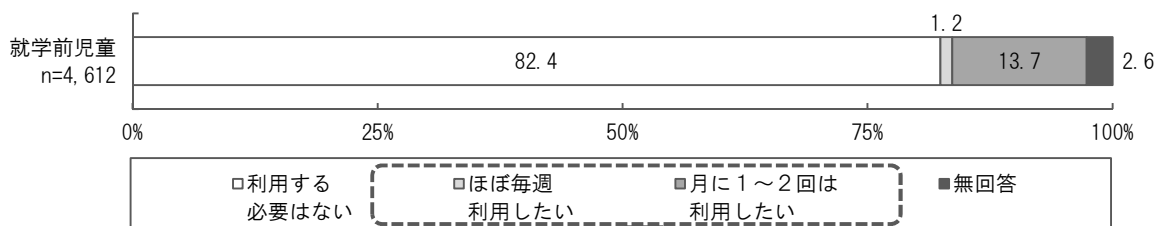
問20(1) 希望終了時間



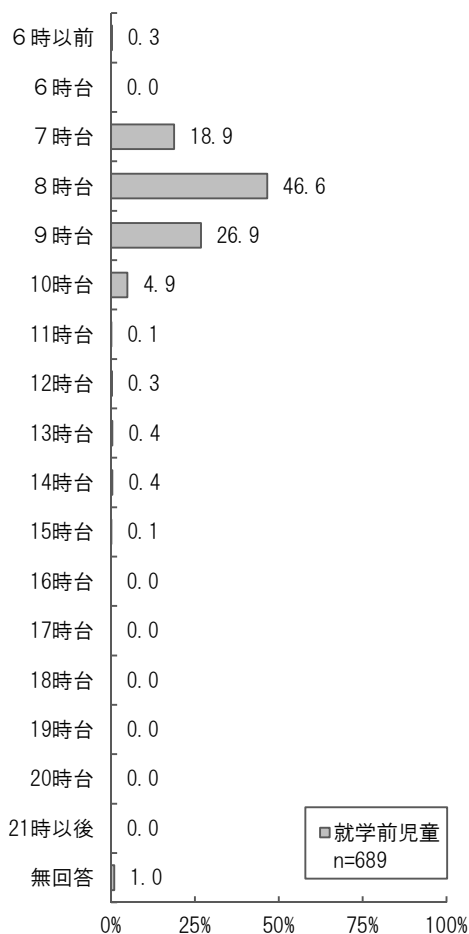
○日曜・祝日の教育・保育事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が8割以上を占めるものの、「月に1～2回は利用したい」を1割強の方で希望しています。また、「ほぼ毎週利用したい」と定期的な利用を希望している方は1.2%に留まっています。

○日曜・祝日の利用希望者は、事業の開始時間を7割以上が「8時台」～「9時台」、終了時間は6割以上が「17時台」～「18時台」を希望しています。

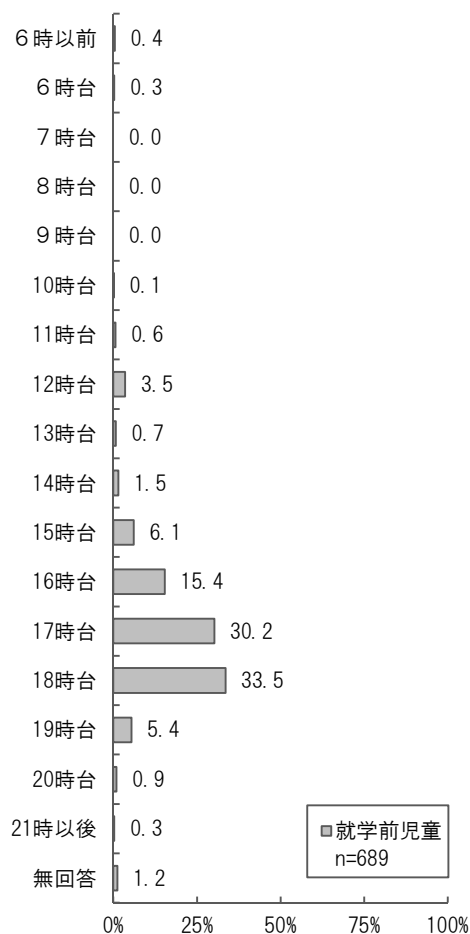
問20(2) 日曜・祝日の利用希望



問20(2) 希望開始時間

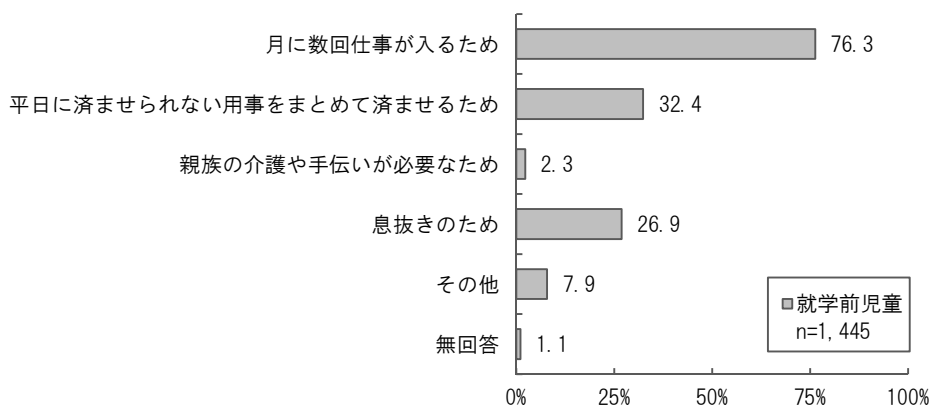


問20(2) 希望終了時間



○土曜日・日曜・祝日において「月に1～2回は利用したい」理由をみると、「月に数回仕事が入るため」が76.3%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が32.4%となっています。

問20-1 毎週ではなく「月に1～2回は利用したい」理由

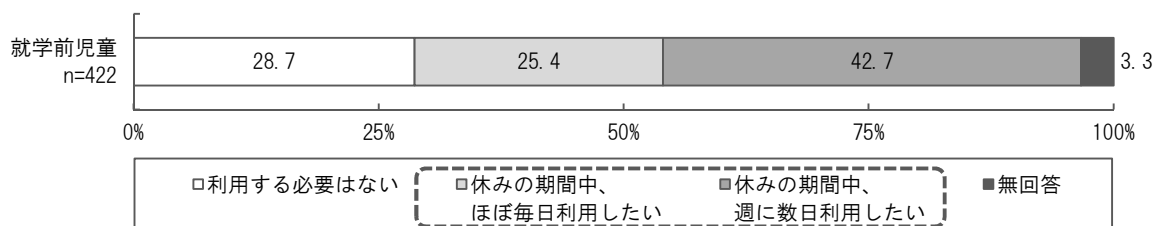


(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

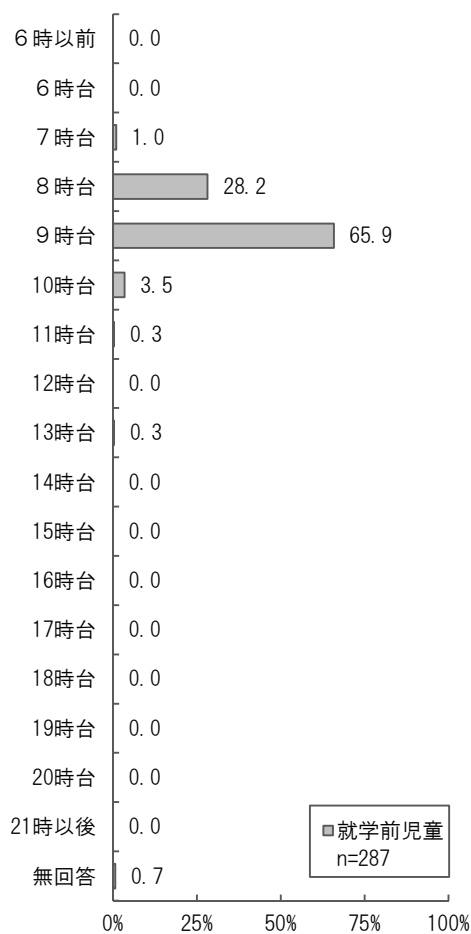
○幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用希望をみると、「休みの期間中、週に数日利用したい」が42.7%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が25.4%となっています。

○長期休暇中の利用希望者は、事業の開始時間を6割以上が「9時台」、終了時間は7割強が「14時台」～「16時台」を希望しています。

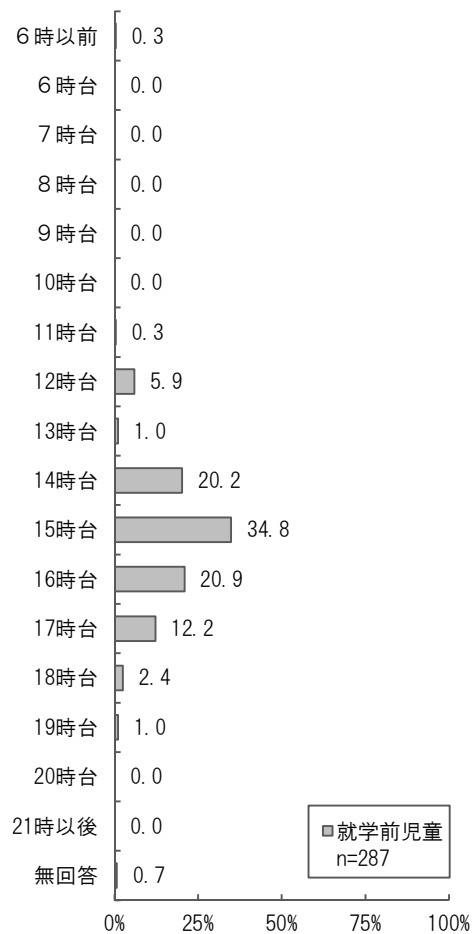
問21 長期休暇中の利用希望（幼稚園利用者）



問21 希望開始時間

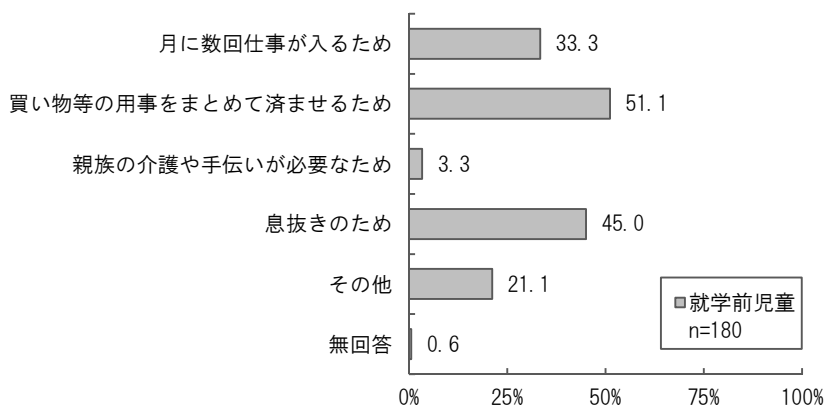


問21 希望終了時間



○長期休暇中において「休みの期間中、週に数日利用したい」理由をみると、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が51.1%と最も高く、次いで「息抜きのため」が45.0%となっています。

問21-1 「休みの期間中、週に数日利用したい」理由（幼稚園利用者）



3 子育て支援事業の現状と今後の利用希望

(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

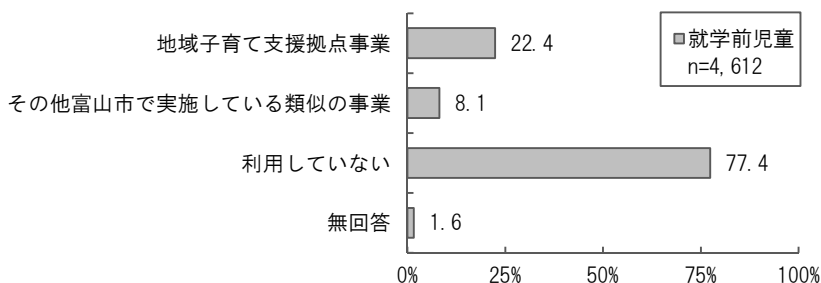
○地域子育て支援拠点事業を利用している方は22.4%となり、「その他富山市で実施している類似の事業」を利用している方は8.1%となっています。

○地域子育て支援拠点事業利用者の1ヶ月当たりの利用回数は、「1回」が29.7%、「2回」が13.6%となっています。

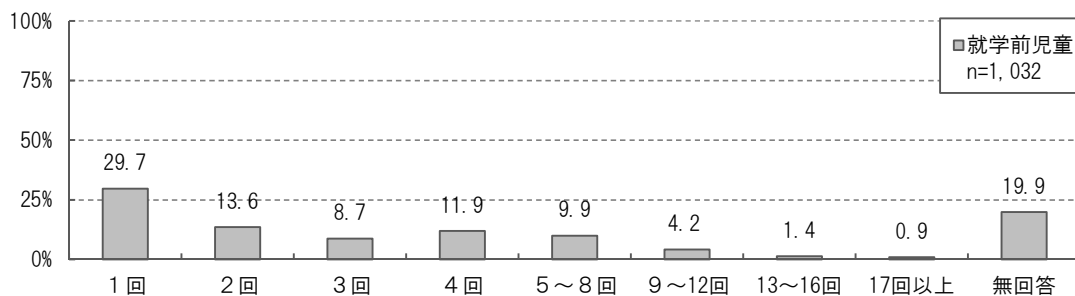
○「その他富山市で実施している類似の事業」利用者も同様に、「1回」が24.5%、「2回」が10.1%となっています。

※地域子育て支援拠点事業＝子育て支援センターにおける各種事業

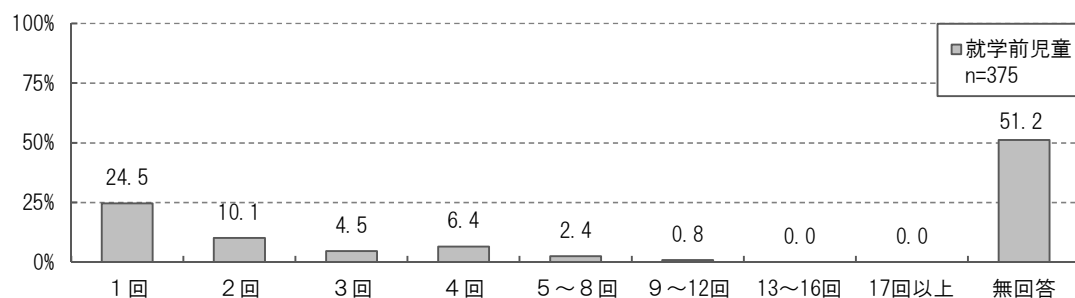
問16 地域子育て支援拠点事業の利用状況



問16.1 地域子育て支援拠点事業の利用回数（1ヶ月当たり）



問16.2 その他富山市で実施している類似の事業の利用回数（1ヶ月当たり）

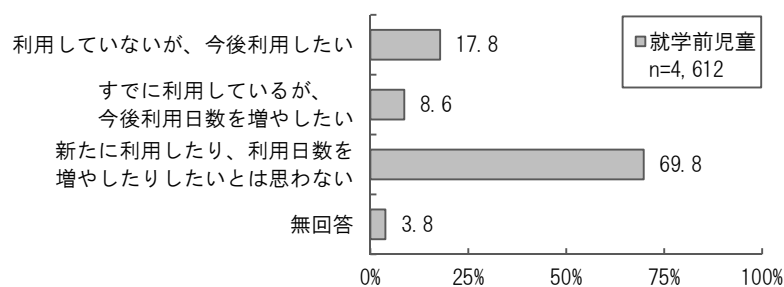


(2) 今後の利用希望

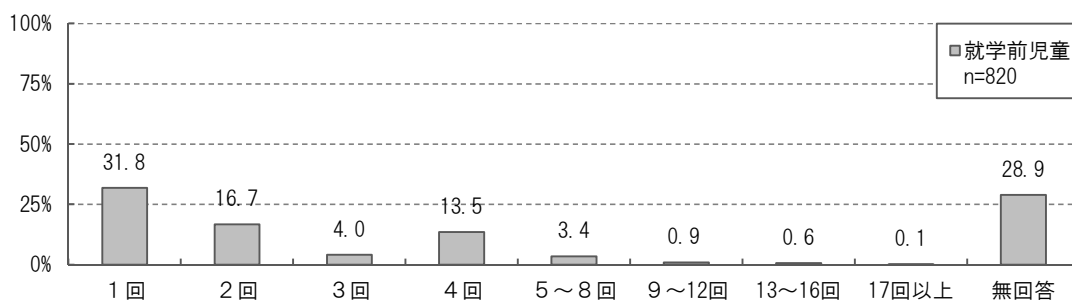
○地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると、「利用していないが、今後利用したい」は17.8%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は8.6%となっています。

○未利用者の今後の利用希望回数は、「1回」が31.8%、「2回」が16.7%となっています。また、既利用者が今後増やしたい1ヶ月当たりの利用回数は、「2回」が24.9%と最も高くなっています。

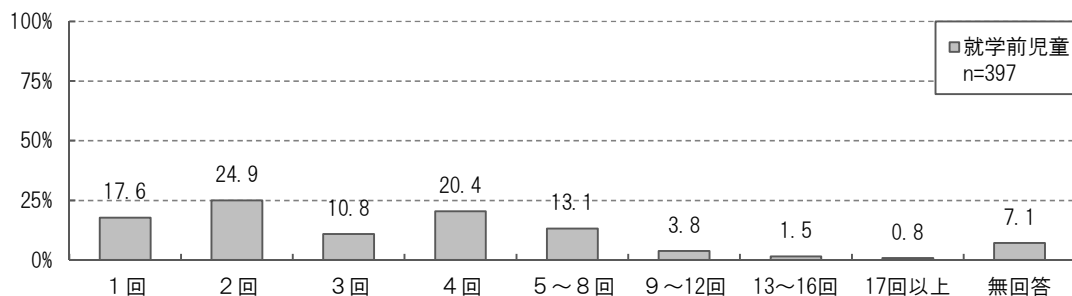
問17 地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望



問17.1 未利用者の今後の利用希望回数（1ヶ月当たり）

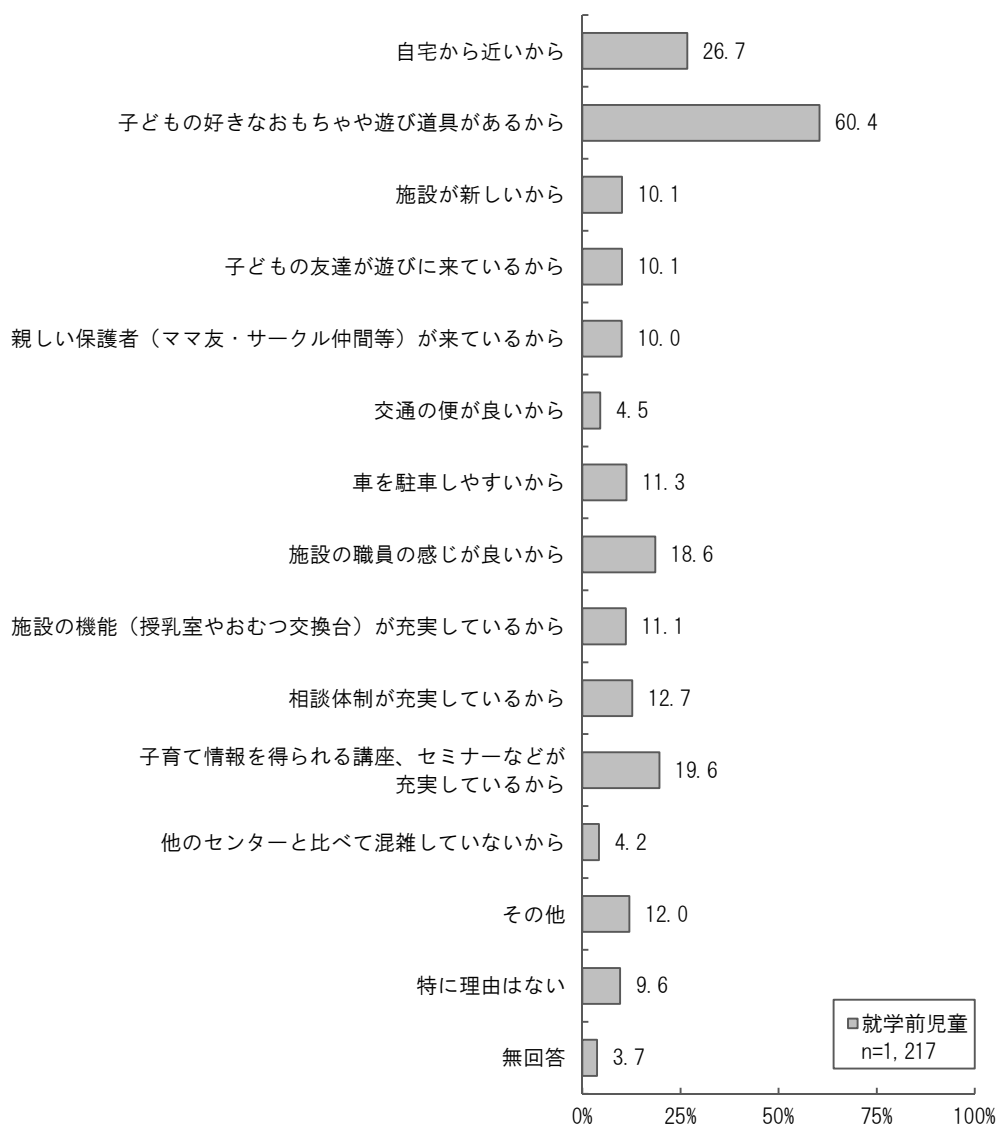


問17.2 既利用者の今後増やしたい利用回数（1ヶ月当たり）



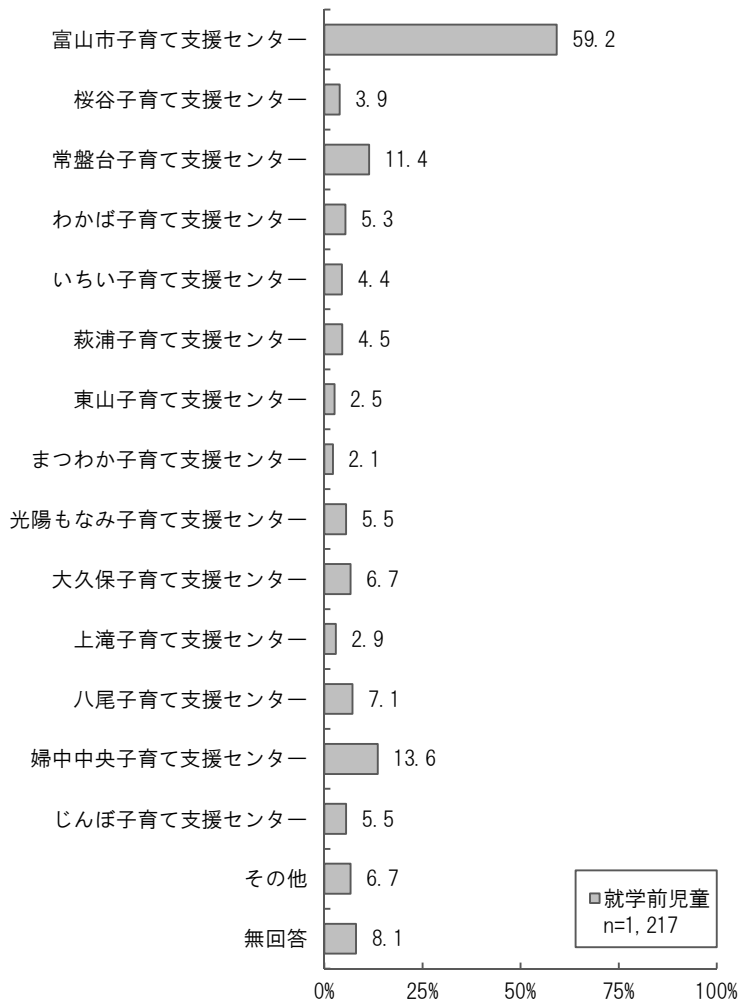
○地域子育て支援拠点事業を利用したい理由は、「子どもの好きなおもちゃや遊び道具があるから」(60.4%)が最も高く、次いで「自宅から近いから」(26.7%)となっています。

問18 地域子育て支援拠点事業を利用したい理由



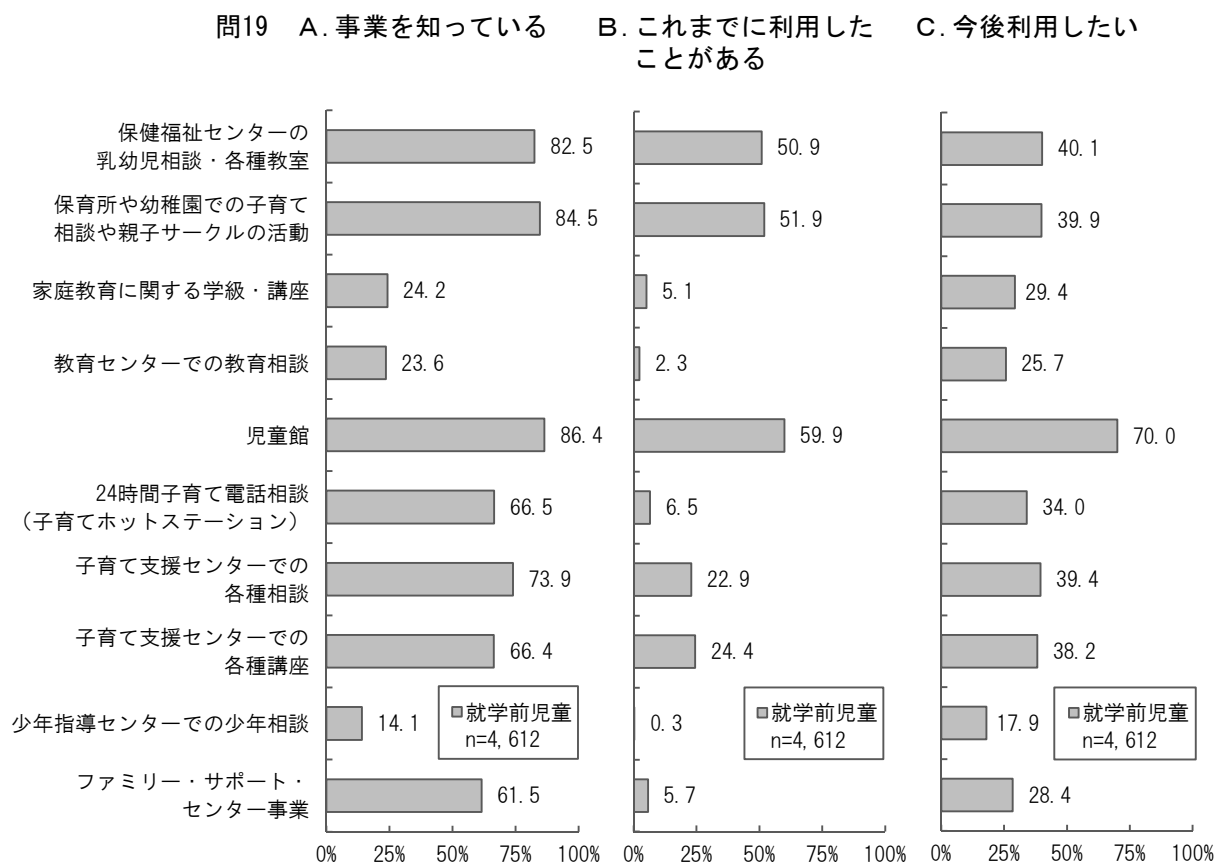
○地域子育て支援拠点事業で主に利用したい施設をみると、「富山市子育て支援センター」(59.2%)が最も高くなっています。

問18-1 地域子育て支援拠点事業で主に利用したい施設



(3) 地域の子育て支援事業の周知度・利用状況と今後の利用希望

- 地域の子育て支援事業の周知度をみると、「児童館」(86.4%)、「保育所や幼稚園での子育て相談や親子サークルの活動」(84.5%)、「保健福祉センターの乳幼児相談・各種教室」(82.5%)が上位を占めているものの、「少年指導センターでの少年相談」(14.1%)、「教育センターでの教育相談」(23.6%)の周知度は低くなっています。
- 周知度が高くても利用が少ない事業は、「24時間子育て電話相談(子育てホットステーション)」(6.5%)、「ファミリー・サポート・センター事業」(5.7%)があげられます。
- 今後の利用希望をみると、「児童館」が70.0%で最も高く、「少年指導センターでの少年相談」が17.9%で最も低くなっています。それ以外の事業は2～4割台となっています。



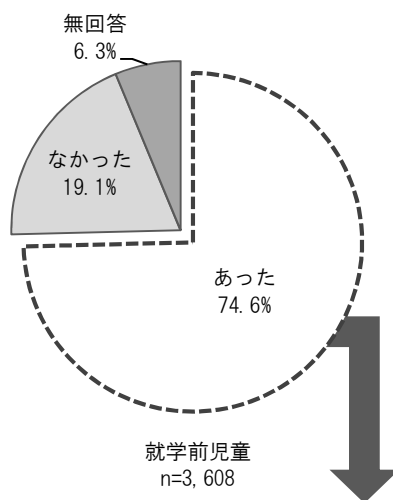
4 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

(1) 病気やケガで保育所や幼稚園が利用できない時の対処

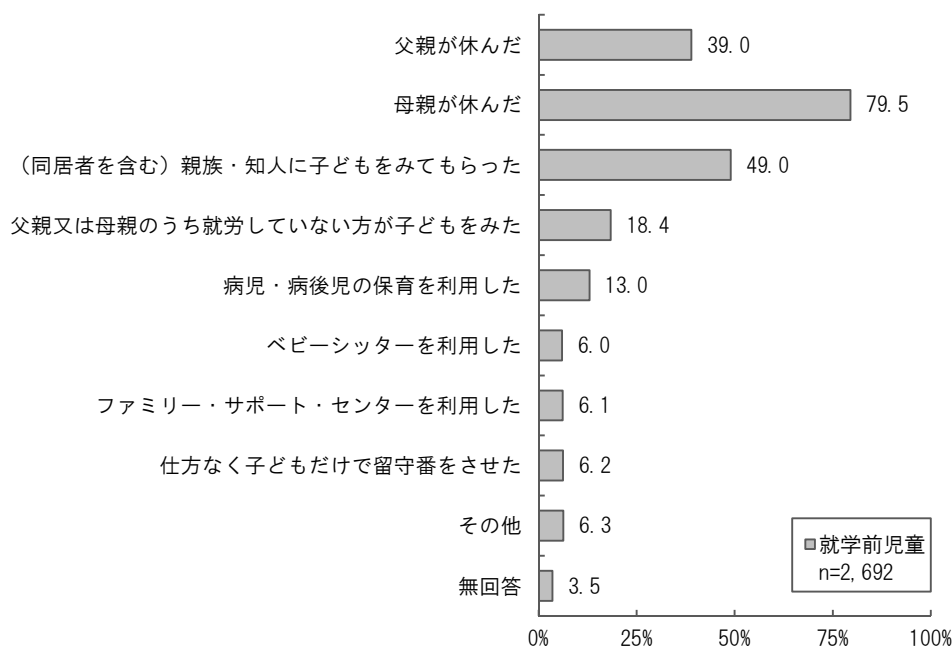
○病気やケガで保育所や幼稚園が利用できなかったことが、「あった」方は74.6%となっています。

○その際の対処方法をみると、「母親が休んだ」が79.5%と最も高く、次いで「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」(49.0%)、「父親が休んだ」(39.0%)となっています。

問22 病気やケガで保育所や幼稚園が利用できなかったことの有無

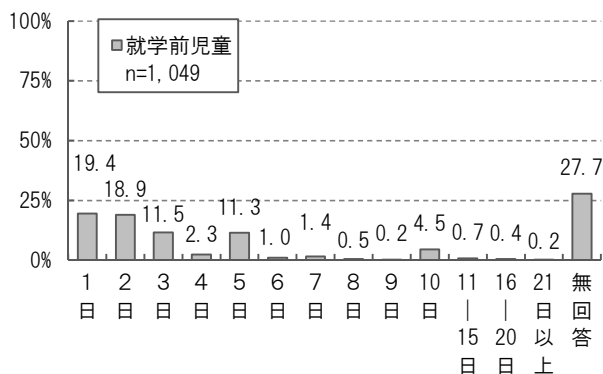


問22-1 この1年間の対処方法

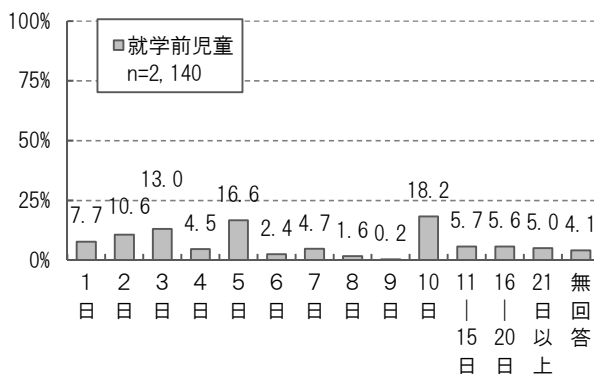


- この1年間の対処方法別の日数をみると、『父親が休んだ日数』は「1日」(19.4%)、「2日」(18.9%)、『母親が休んだ日数』は「10日」(18.2%)、「5日」(16.6%)、「3日」(13.0%)の順となっています。
- 『(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった日数』は「5日」(16.8%)、「3日」(16.4%)、『父親・母親のうち就労していない方が子どもをみた日数』は「10日」(15.3%)、「5日」(10.9%)の順となっています。
- 『病児・病後児の保育を利用した日数』は「2日」(12.9%)、「1日」(11.5%)、『ベビーシッターを利用した日数』と『ファミリー・サポート・センターを利用した日数』はほとんど利用者がいませんでした。また、『仕方なく子どもだけで留守番をさせた』という回答もありました。

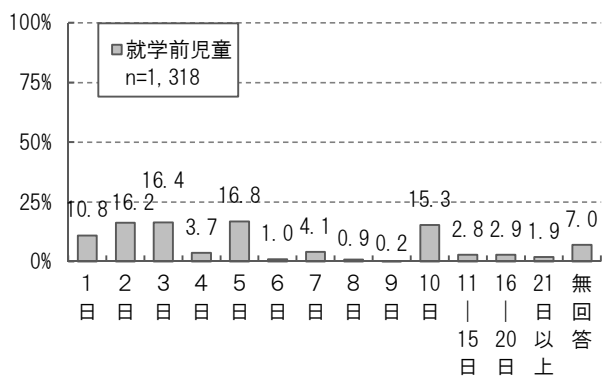
問22-1.1 父親が休んだ日数



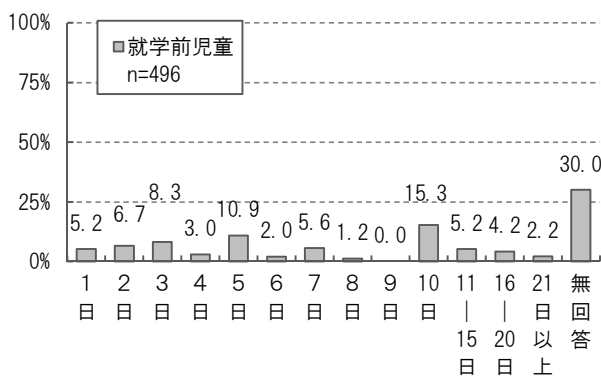
問22-1.2 母親が休んだ日数



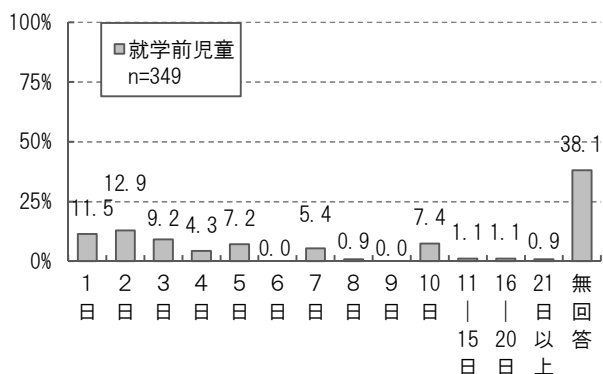
問22-1.3 (同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった日数



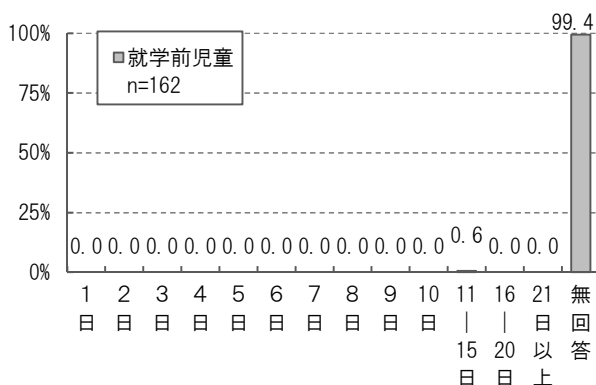
問22-1.4 父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた日数



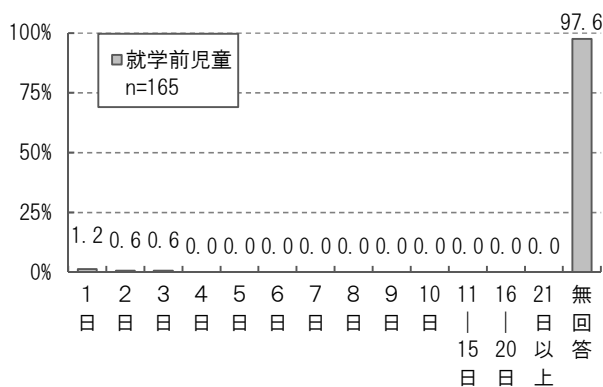
問22-1.5 病児・病後児の保育を利用した日数



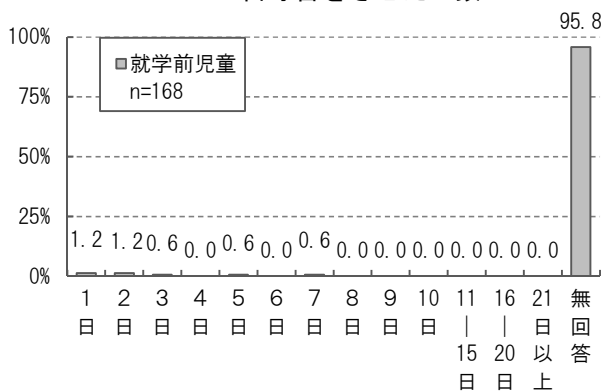
問22-1.6 ベビーシッターを利用した日数



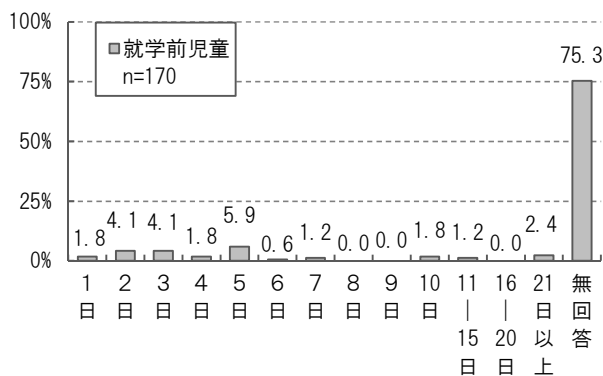
問22-1.7 ファミリー・サポート・センターを利用した日数



問22-1.8 仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数

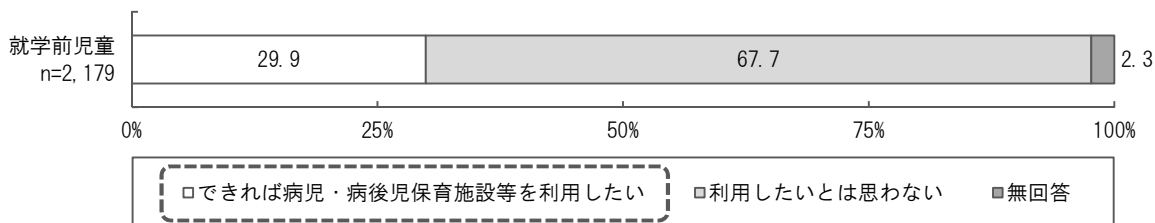


問22-1.9 その他

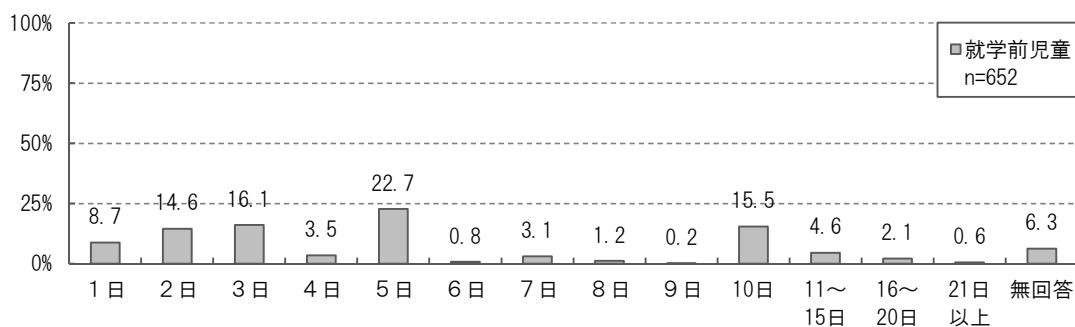


- 父親・母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用希望をみると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が29.9%となっています。
- その際の年間利用希望日数は、「5日」(22.7%)、「3日」(16.1%)の順となっています。
- 病児・病後児保育施設に子どもを預ける場合の利用したい事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が75.6%と最も高くなっています。

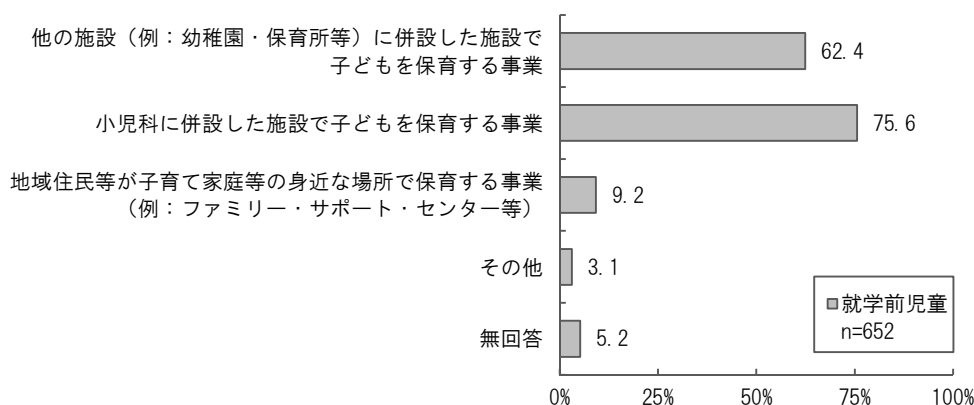
問22-2 父親・母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用希望



問22-2.1 病児・病後児保育施設の利用希望日数

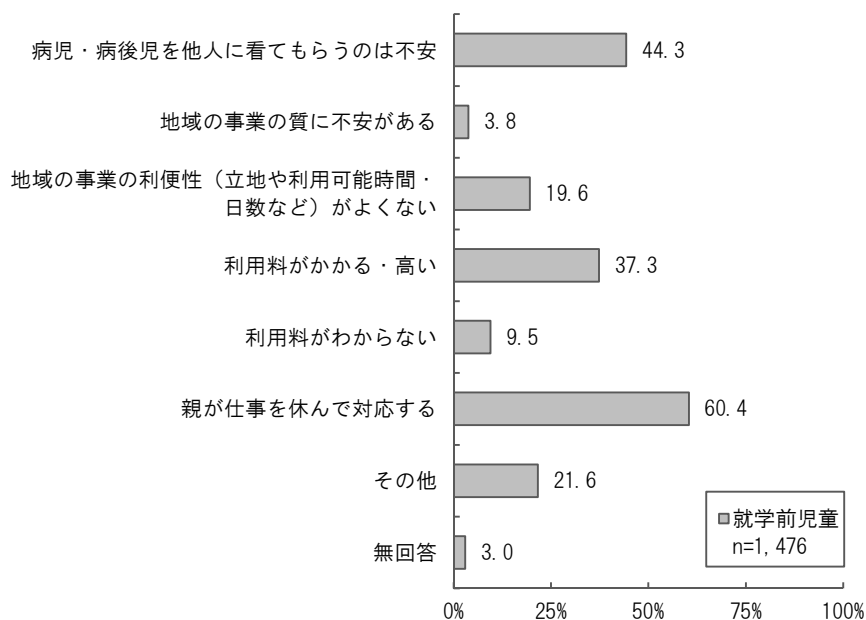


問22-3 病児・病後児保育施設で利用したい事業形態



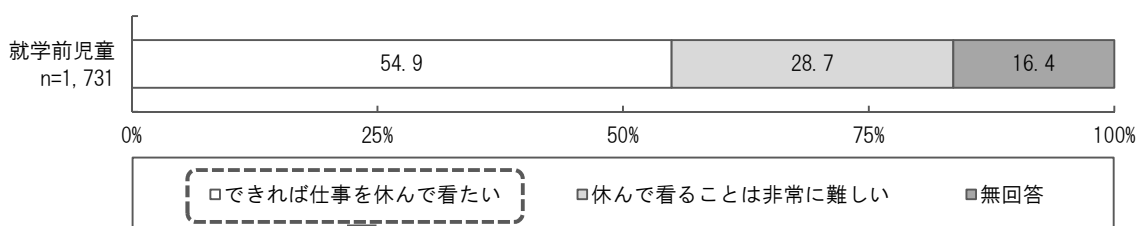
○父親・母親が休んで対処した方について、病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由として、「親が仕事を休んで対応する」(60.4%)、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」(44.3%)をあげた割合が高くなっています。

問22-4 病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由

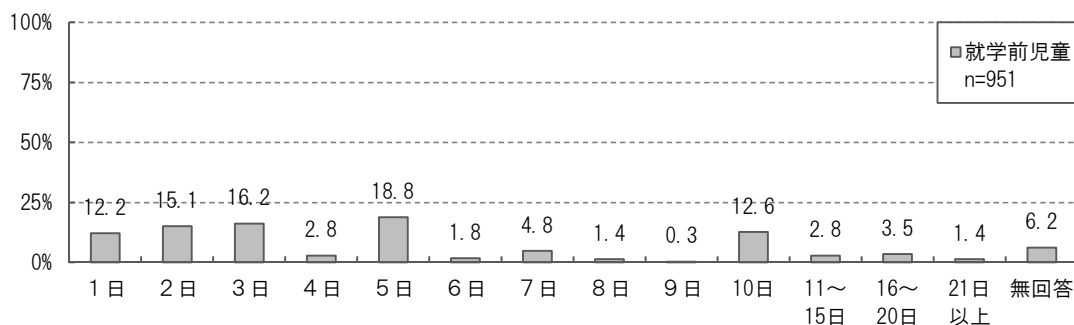


- 父母が休む以外の対処方法を選んだ方のうち、「できれば仕事を休んで看たい」は54.9%となっています。
- 「できれば仕事を休んで看たい」と回答した方の年間希望日数は、「5日」が18.8%と最も高くなっています。
- 「休んで看ることは非常に難しい」理由としては、「子どもの看護を理由に休みが取れない」(37.7%)、「休暇日数が足りないので休めない」(22.2%)をあげた割合が高く、また、「その他」も42.7%と高いことから、複数の理由により休めない状況にあることがうかがえます。

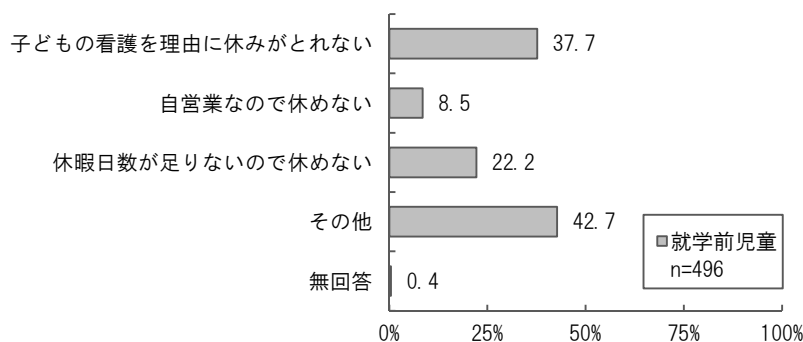
問22-5 父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「父母が仕事を休んで看たい」意向



問22-5.1 「父母が仕事を休んで看たい」希望日数



問22-6 父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「休んで看ることは非常に難しい」理由

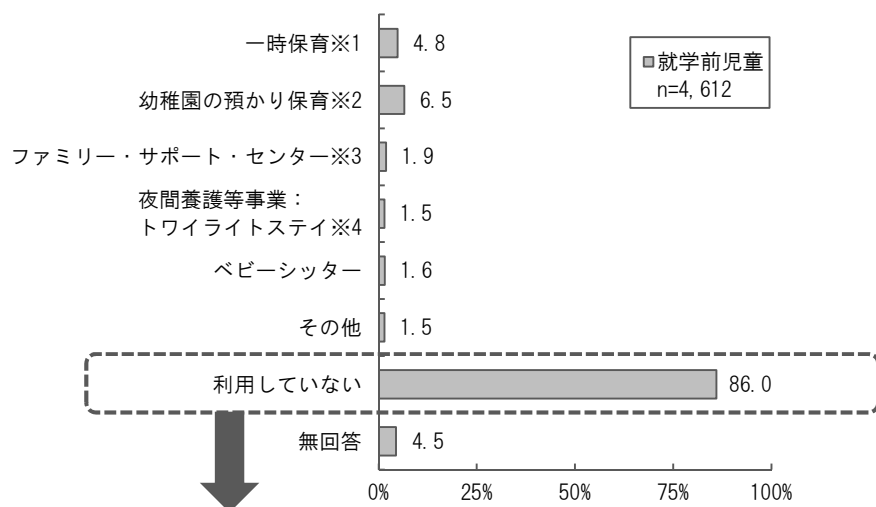


5 不定期的に利用している教育・保育事業や一時保育等について

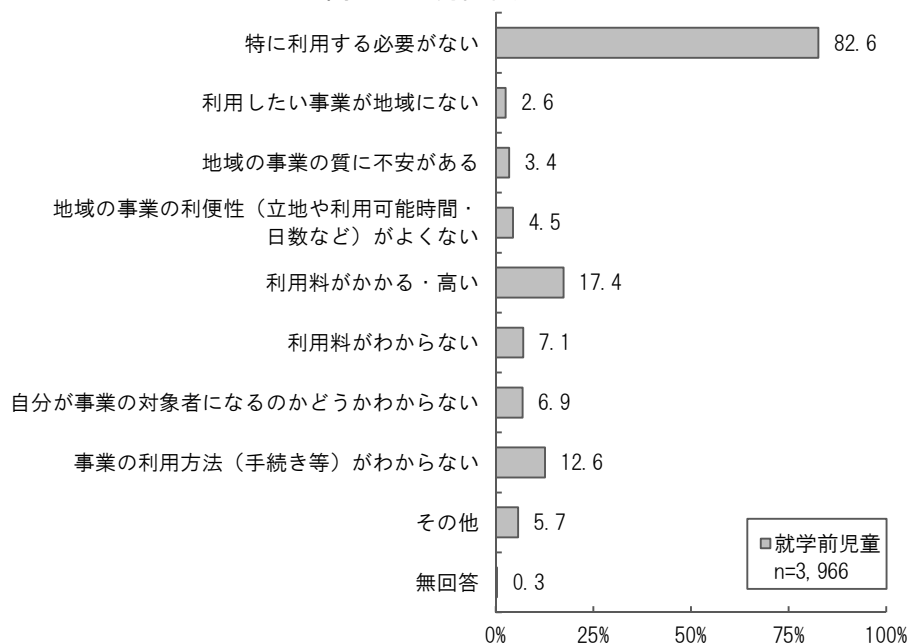
(1) 不定期的に利用している教育・保育事業や一時保育等の状況

- 不定期的に利用している教育・保育事業の状況をみると、「幼稚園の預かり保育」(6.5%)、「一時保育」(4.8%)をはじめ、あまり利用がない状況です。
- 「利用していない」理由としては、「特に利用する必要がない」が8割以上を占めています。また、それ以外の理由としては、「利用料がかかる・高い」(17.4%)、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」(12.6%)をあげています。

問23 不定期的に利用している教育・保育事業



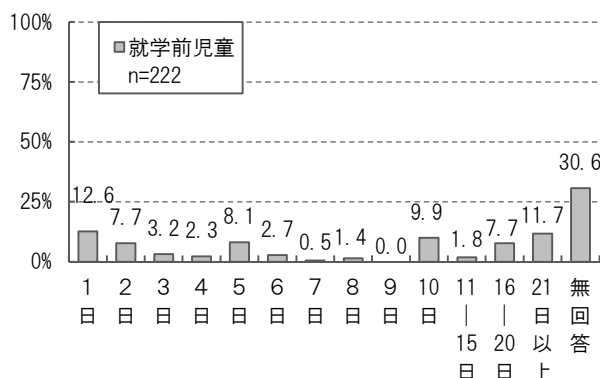
問23-1 現在利用していない理由



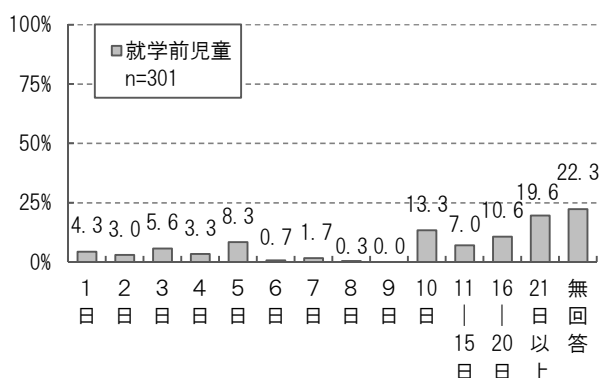
- ※1 一時保育：私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業
- ※2 通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、不定期的に利用する場合のみ子どもを預かる事業
- ※3 子育てのお手伝いができる方(協力会員)が、子育てを手伝ってほしい方(依頼会員)の子育てをサポートする事業
- ※4 児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業

○事業別の年間利用日数は、以下のとおりです。

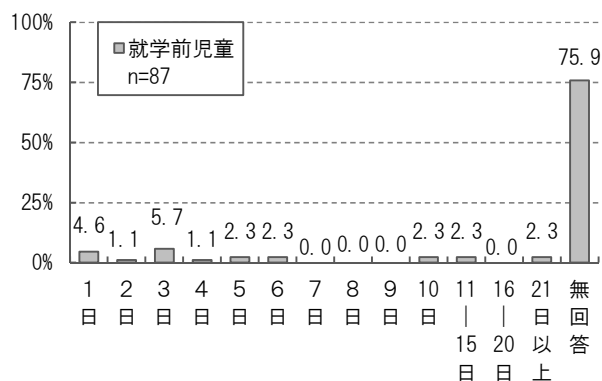
問23.1 「一時保育」年間利用日数



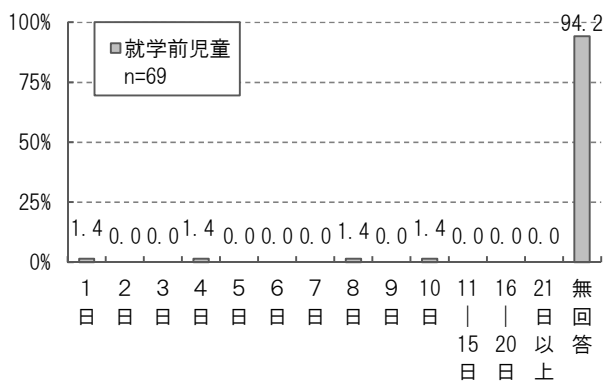
問23.2 「幼稚園の預かり保育」年間利用日数



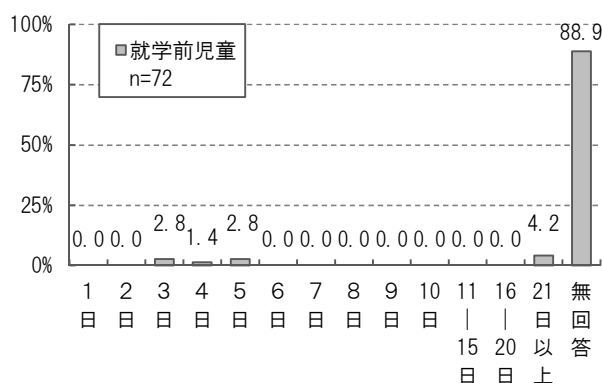
問23.3 「ファミリー・サポート・センター」年間利用日数



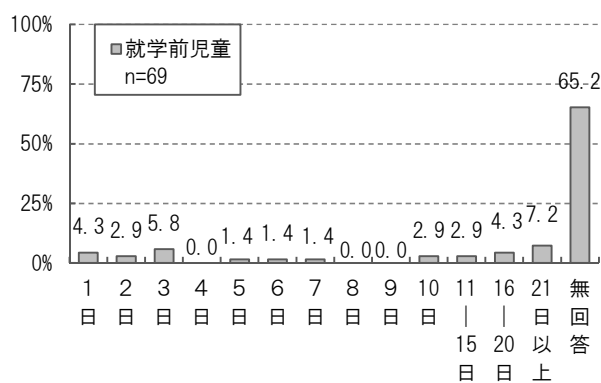
問23.4 「夜間養護等事業」年間利用日数



問23.5 「ベビーシッター」年間利用日数



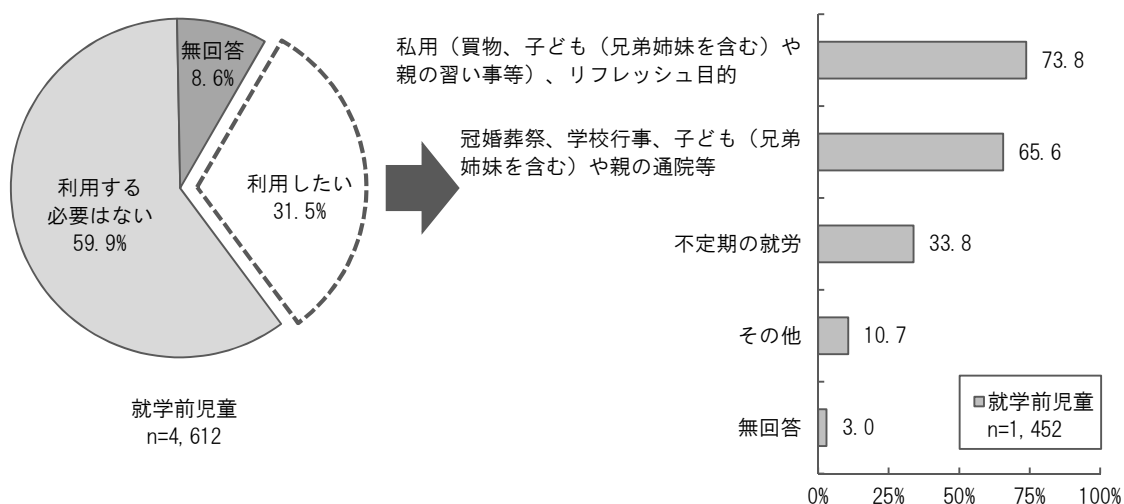
問23.6 「その他」年間利用日数



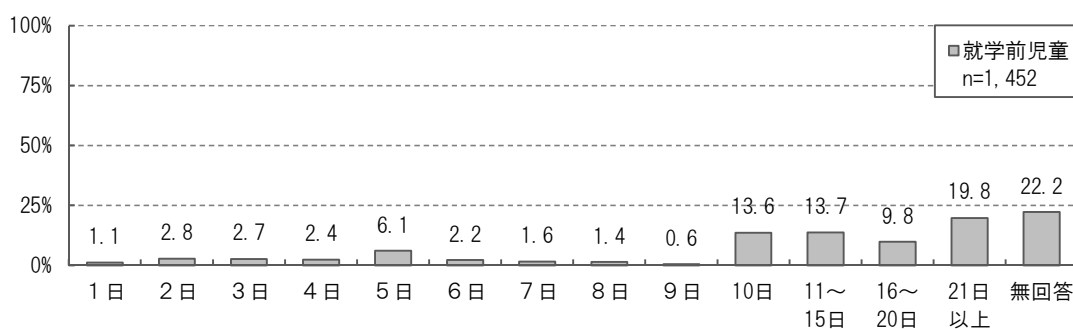
○不定期に利用する事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が59.9%、「利用したい」が31.5%となっています。「利用したい」と回答した方の目的は、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」（73.8%）、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」（65.6%）、「不定期の就労」（33.8%）の順となっています。

○年間の利用希望日数の合計は、「21日以上」が19.8%と最も高くなっています。

問24 不定期に利用する事業の利用希望とその目的



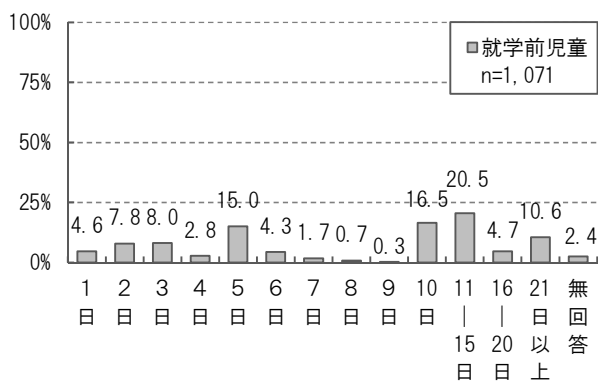
問24.1 不定期に利用する事業の利用希望年間合計日数



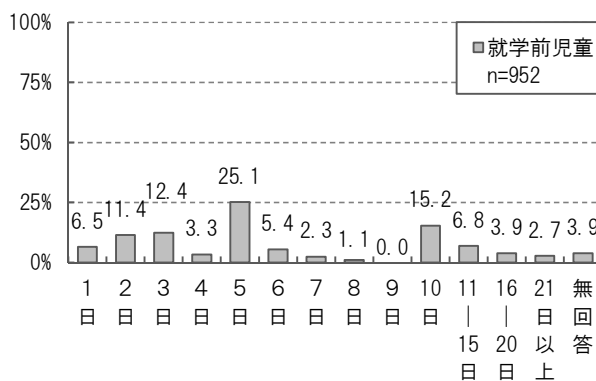
○目的ごとの年間利用希望日数は、『私用、リフレッシュ目的』では「11～15日」（20.5%）、『冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等』では「5日」（25.1%）、『不定期の就労』では「10日」（16.9%）の割合が高くなっています。

○一時保育として子どもを預ける場合の望ましい事業形態は、幼稚園・保育所等のような「大規模施設で子どもを預かる事業」が79.5%と最も高くなっています。

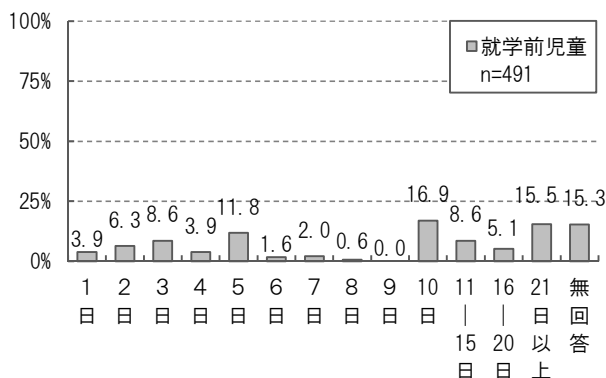
問24.1① 私用、リフレッシュ目的



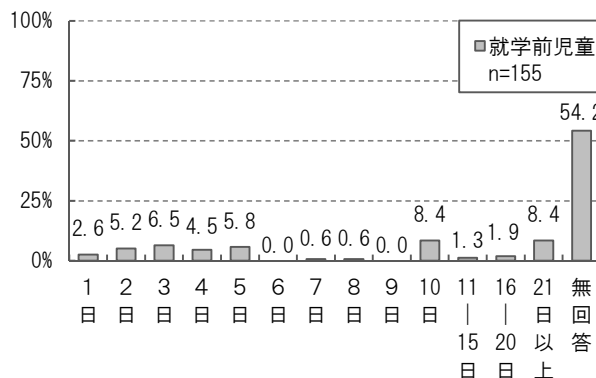
問24.1② 冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等



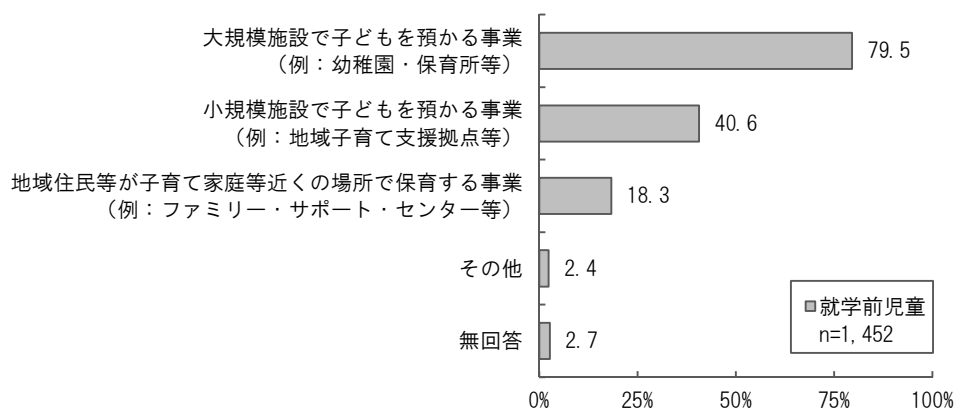
問24.1③ 不定期の就労



問24.1④ その他



問24-1 子どもを預ける場合の望ましい事業形態

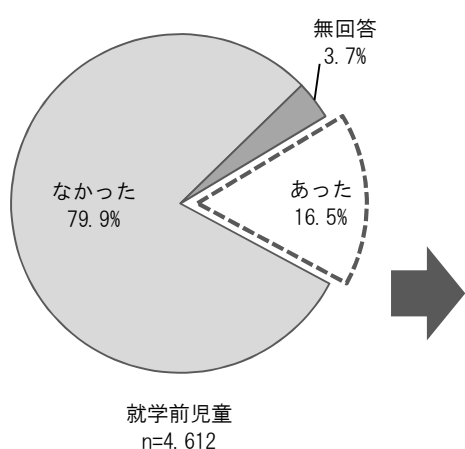


(2) 宿泊を伴う保育の利用状況

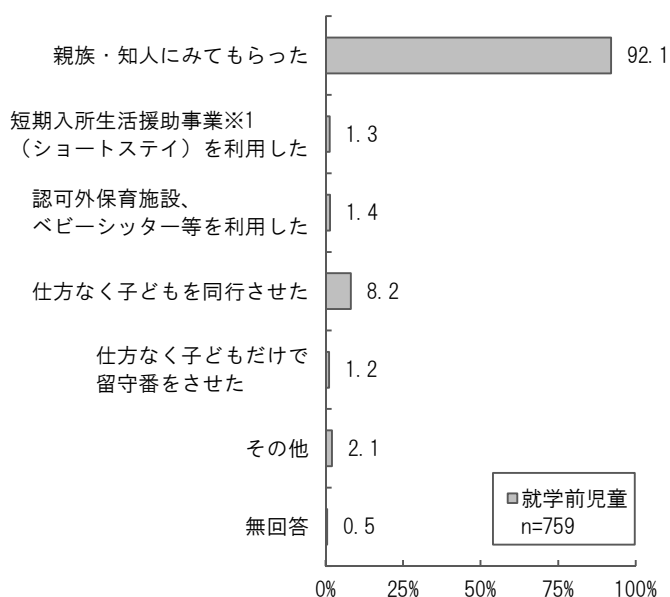
○この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族（同居）以外にみてもらったことが、「あった」方は16.5%となっています。そのうち9割以上の方は「親族・知人にみてもらった」と回答していますが、「仕方なく子どもを同行させた」方も8.2%となっています。

○親族・知人にみてもらう場合、4割強の方（「非常に困難」＋「どちらかという困難」）が困難であると感じている状況です。

問25 この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けたことの有無

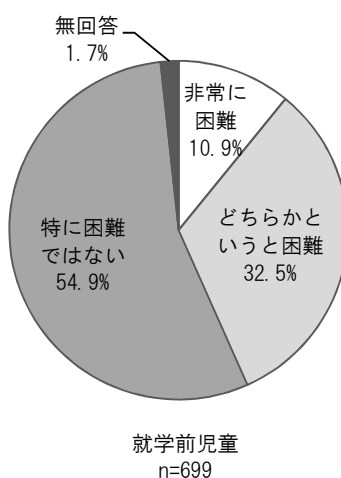


問25.1 1年間の対処方法



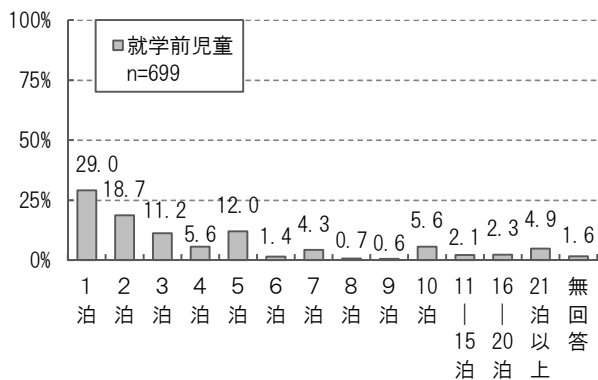
※1 短期入所生活援助事業：児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業

問25-1 親族・知人にみてもらう場合の困難度

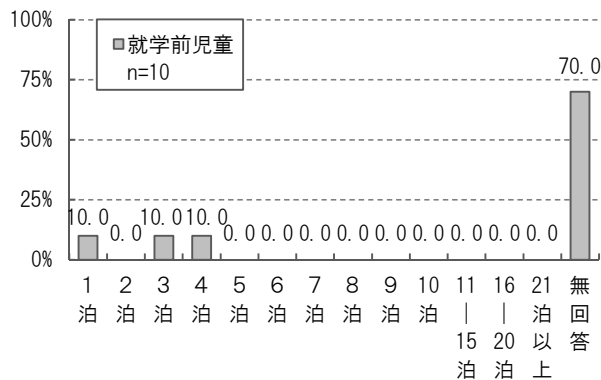


○対処方法別の年間宿泊数は以下のとおりとなり、『親族・知人にみてもらった』では「1泊」(29.0%)、「2泊」(18.7%)、「5泊」(12.0%)で割合が高くなっています。

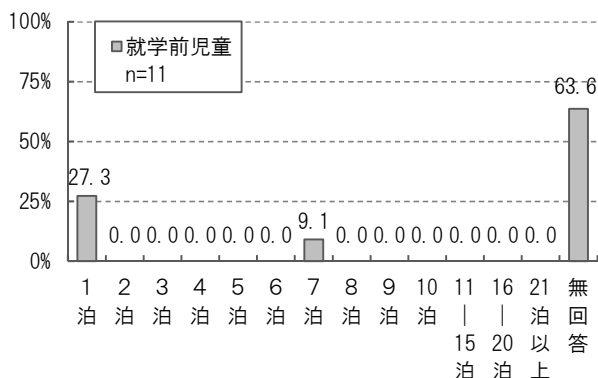
問25.1① 親族・知人にみてもらった



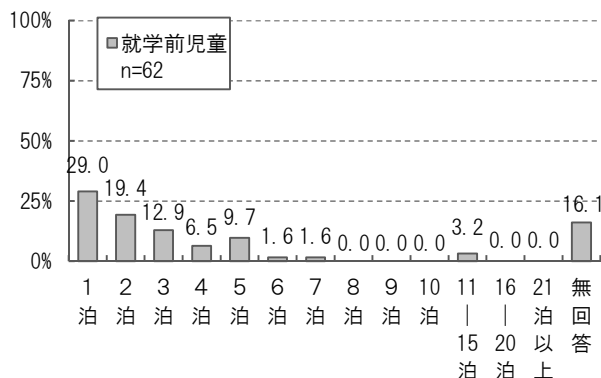
問25.1② 短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した



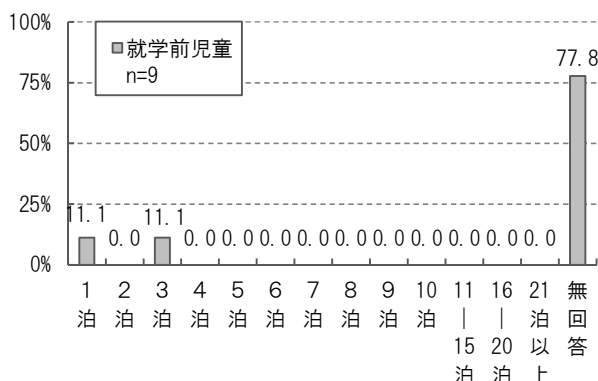
問25.1③ ②以外の保育事業(認可外保育施設、ベビーシッター等)を利用した



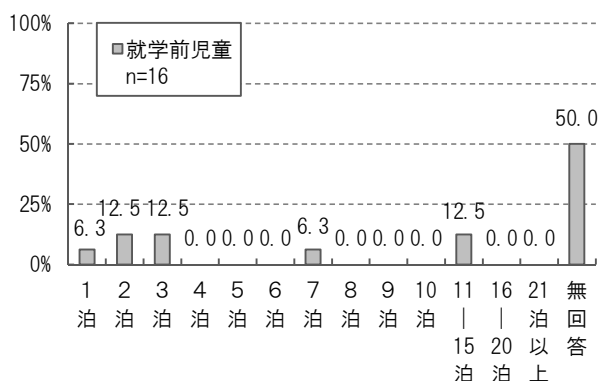
問25.1④ 子どもを同行させた



問25.1⑤ 子どもだけで留守番をさせた



問25.1⑥ その他



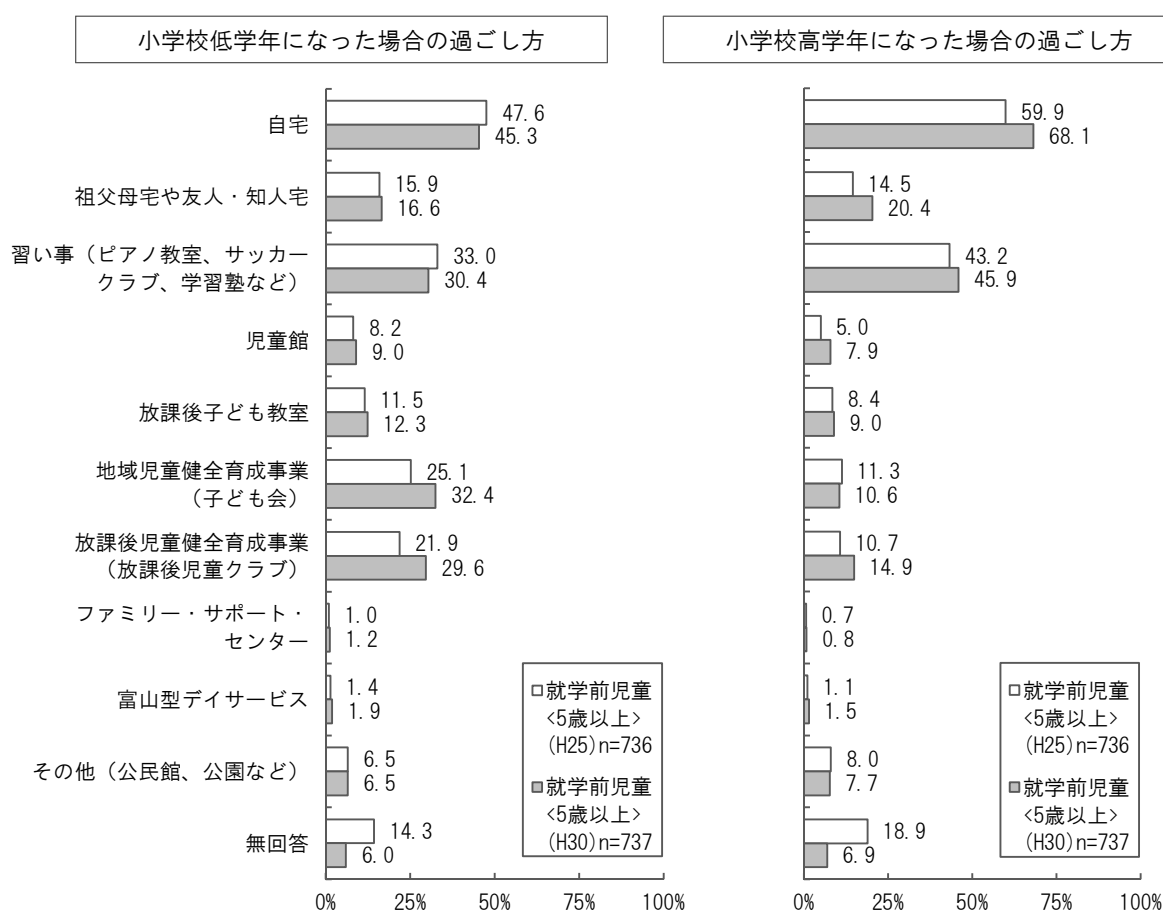
6 放課後の過ごし方について

(1) 平日の放課後の過ごし方

○就学前児童について放課後の過ごし方の希望をみると、低学年の時期は「自宅」(45.3%)が最も高く、次いで「地域児童健全育成事業(子ども会)」(32.4%)、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(30.4%)となっています。高学年になった場合は、「地域児童健全育成事業(子ども会)」(10.6%)が21.8ポイント減少した一方で、「自宅」(68.1%)が22.8ポイント、「習い事」(45.9%)が15.5ポイント増加しています。

○前回調査と比較すると、低学年時期は「自宅」が2.3ポイント、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が2.6ポイント減少し、「放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)」が7.7ポイント、「地域児童健全育成事業(子ども会)」が7.3ポイント増加しています。高学年時期では、「自宅」が8.2ポイント、「祖父母宅や友人・知人宅」が5.9ポイント、「放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)」が4.2ポイント増加しています。

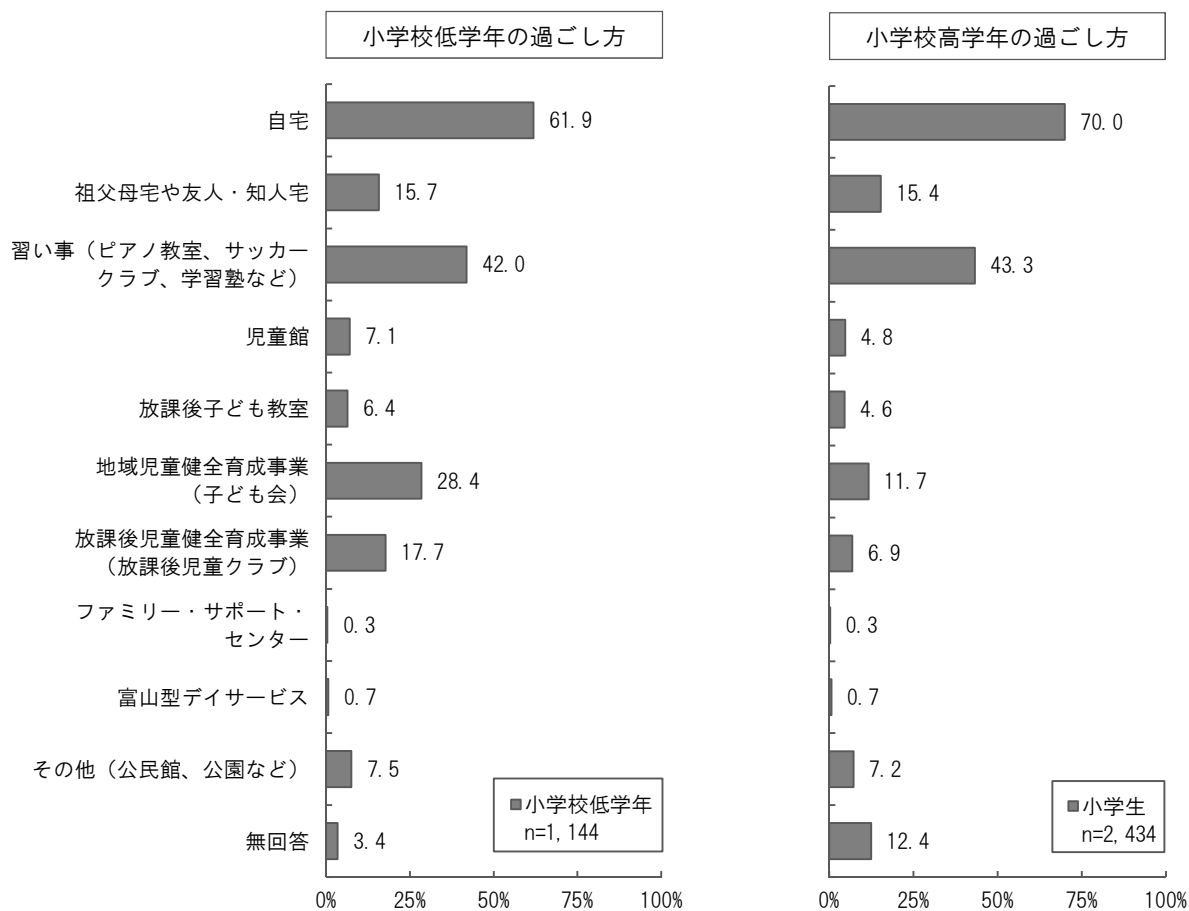
問26・問27 放課後の過ごし方の希望【経年比較】



※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生です。

○小学生の低学年時期は、「自宅」(61.9%)が最も高く、次いで「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(42.0%)、「地域児童健全育成事業(子ども会)」(28.4%)となっています。高学年になると、低学年時期より8.1^{ポイント}上昇した「自宅」(70.0%)が最も高く、次いで1.3^{ポイント}上昇した「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(43.3%)となっています。また、「地域児童健全育成事業(子ども会)」(11.7%)は16.7^{ポイント}低下しています。

[問10]・[問11] 放課後の過ごし方の希望



○就学前児童の保護者が放課後を過ごさせたい場所について週当たりの希望日数を見ると、『自宅』では「5日」(低学年時期39.2%・高学年時期46.8%)、『祖父母宅や友人・知人宅』では、低学年時期が「5日」(32.8%)、高学年時期が「1日」(28.0%)、『習い事』では、低学年時期が「1日」(42.9%)、高学年時期が「2日」(44.4%)となっています。『児童館』では、「5日」(低学年時期34.8%・高学年時期36.2%)、『放課後子ども教室』では、低学年時期が「5日」(36.3%)、高学年時期が「1日」(28.8%)、『地域児童健全育成事業(子ども会)』では、「5日」(低学年時期59.8%・高学年時期46.2%)となっています。『放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)』では「5日」(低学年時期66.5%・高学年時期49.1%)、『富山型デイサービス』では、低学年時期が「5日」(35.7%)、高学年時期が「5日」(36.4%)となっています。また、『ファミリー・サポート・センター』の利用希望はほとんどありませんでした。

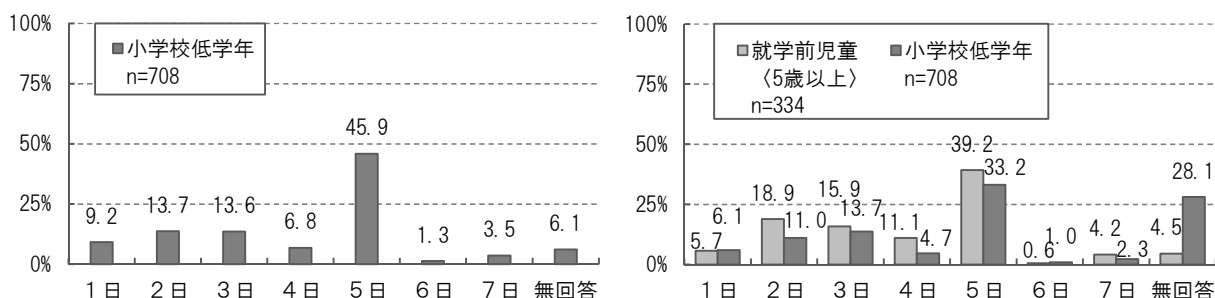
○一方、小学生の保護者が放課後を過ごさせたい場所について週当たりの希望日数を見ると、全体的に無回答が多いものの、『自宅』では「5日」(低学年時期33.2%・高学年時期35.5%)、『祖父母宅や友人・知人宅』では、「1日」(低学年時期25.6%・高学年時期23.8%)、『習い事』では「2日」(低学年時期30.2%・高学年時期32.1%)の割合が最も高くなっています。『児童館』では低学年時期が「5日」(23.5%)、高学年時期が「1日」(28.4%)、『放課後子ども教室』では「2日」(低学年時期24.7%・高学年時期31.5%)、『地域児童健全育成事業(子ども会)』では「5日」(低学年時期33.5%・高学年時期41.1%)、『放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)』では、「5日」(低学年時期32.0%・高学年時期38.7%)となっています。また、『ファミリー・サポート・センター』『富山型デイサービス』の利用希望はほとんどありませんでした。

小学校低学年(になった場合)の過ごし方

《現状》

《希望日数》

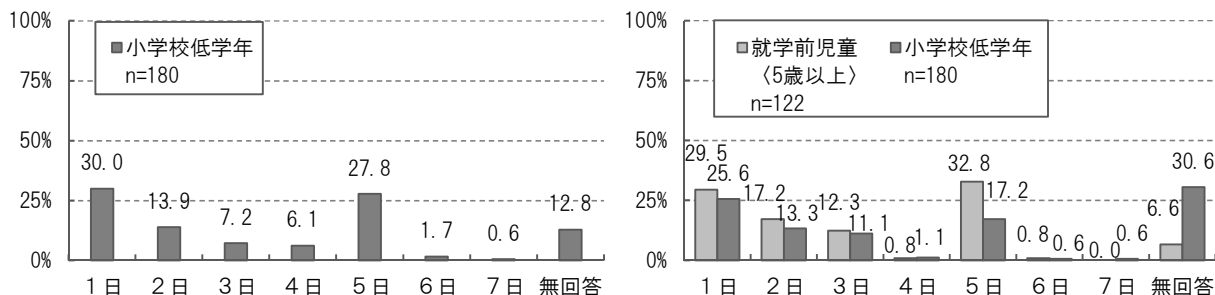
問26.1[問10.1] 「自宅」現状利用日数と希望日数(1週当たり)



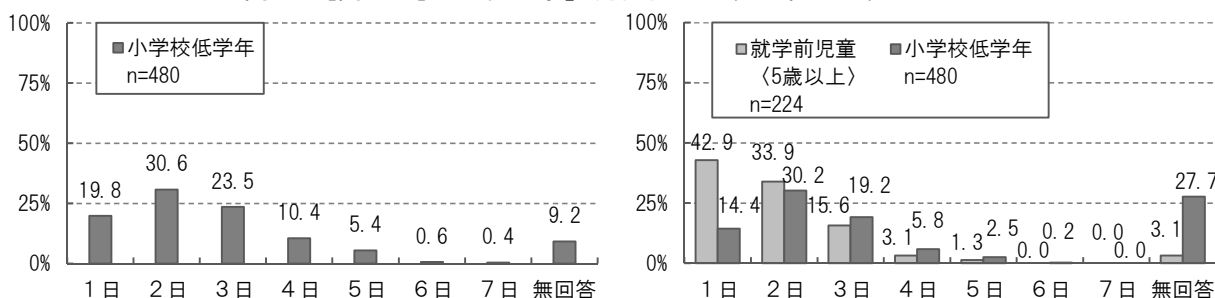
《現 状》

《希望日数》

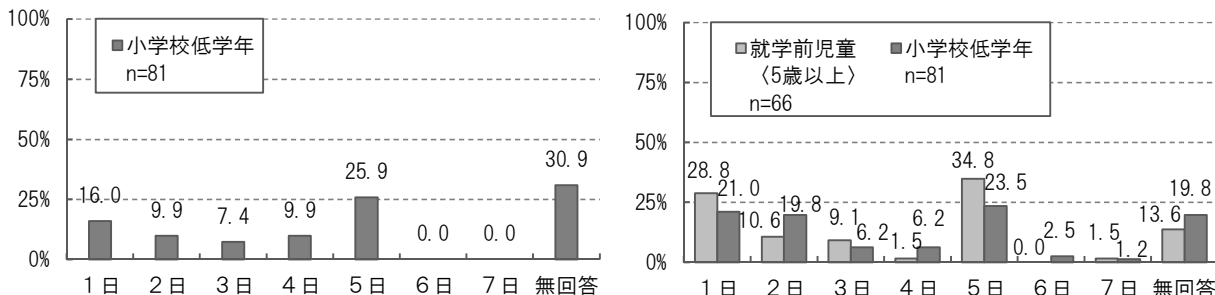
問26.2[問10.2] 「祖父母宅や友人・知人宅」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



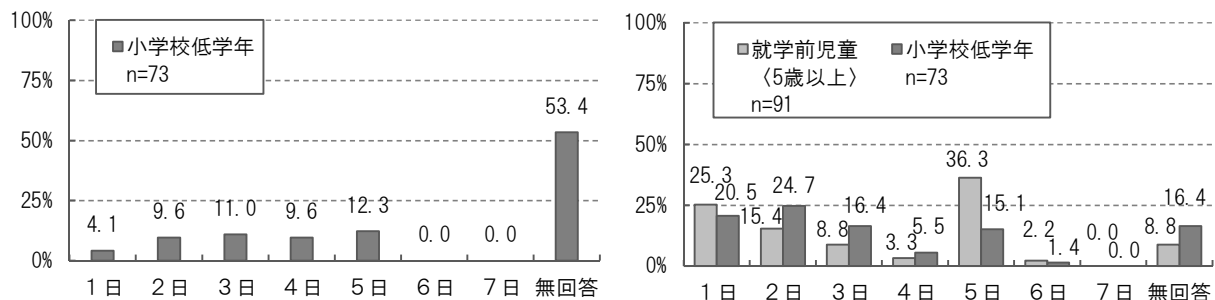
問26.3[問10.3] 「習い事」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



問26.4[問10.4] 「児童館」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



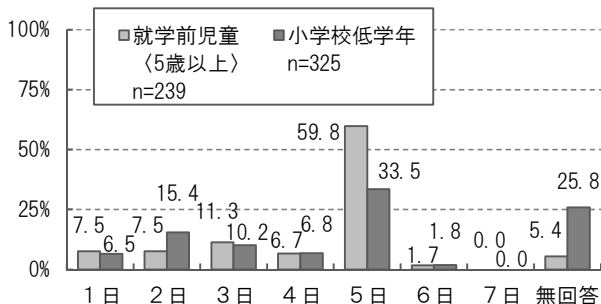
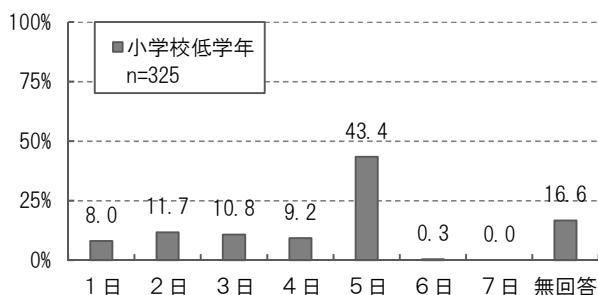
問26.5[問10.5] 「放課後子ども教室」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



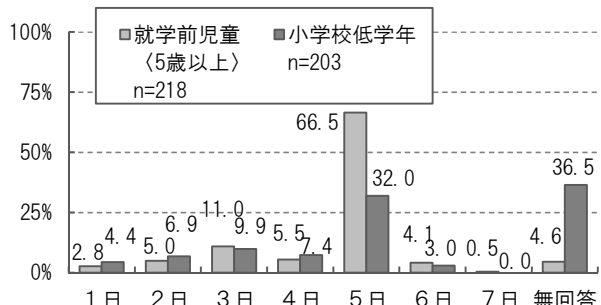
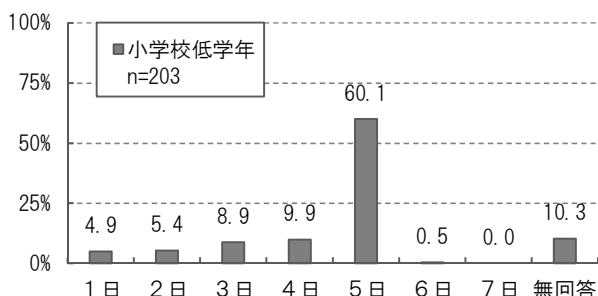
《現 状》

《希望日数》

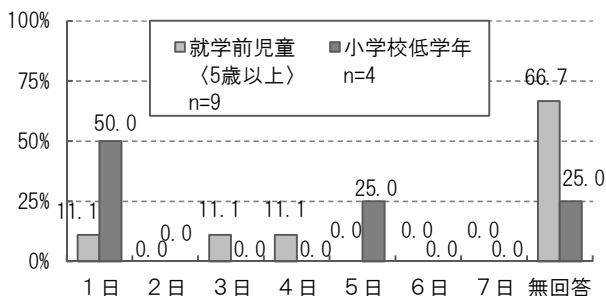
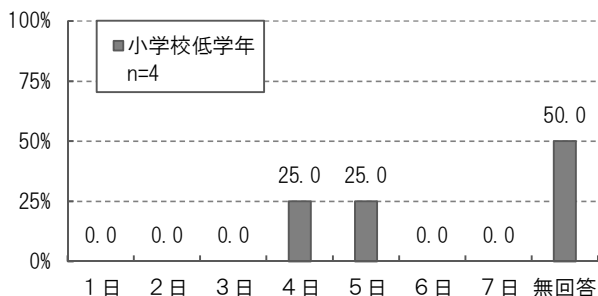
問26.6[問10.6] 「地域児童健全育成事業」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



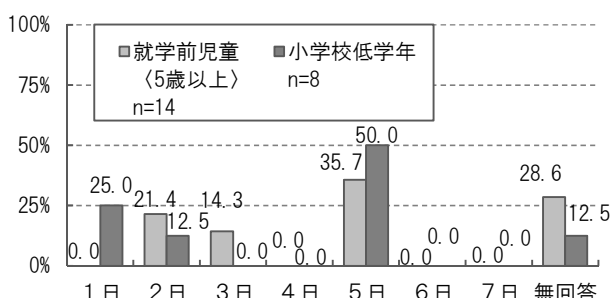
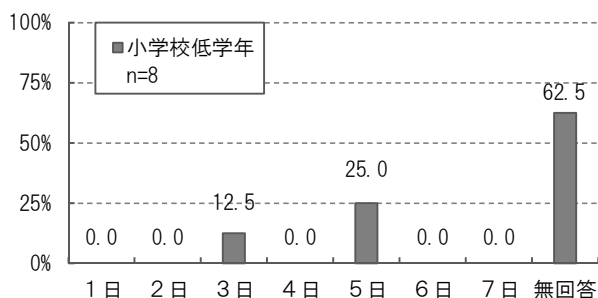
問26.7[問10.7] 「放課後児童健全育成事業」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



問26.8[問10.8] 「ファミリー・サポート・センター」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



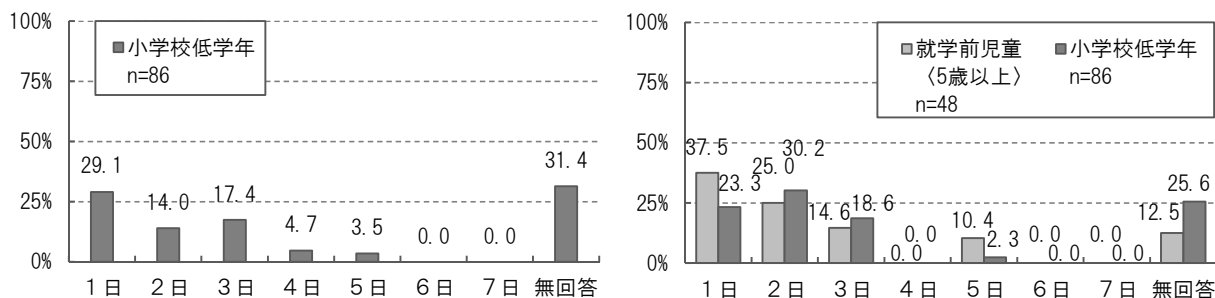
問26.9[問10.9] 「富山型デイサービス」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



《現状》

《希望日数》

問26.10[問10.10] 「その他」現状利用日数と希望日数（1週当たり）

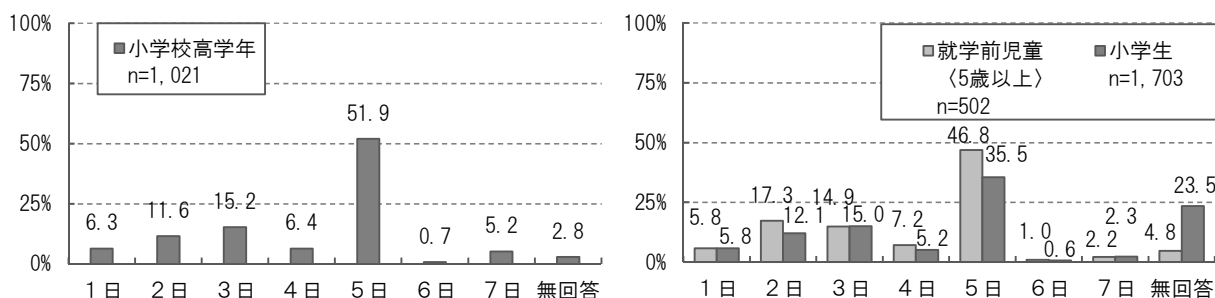


小学校高学年（になった場合）の過ごし方

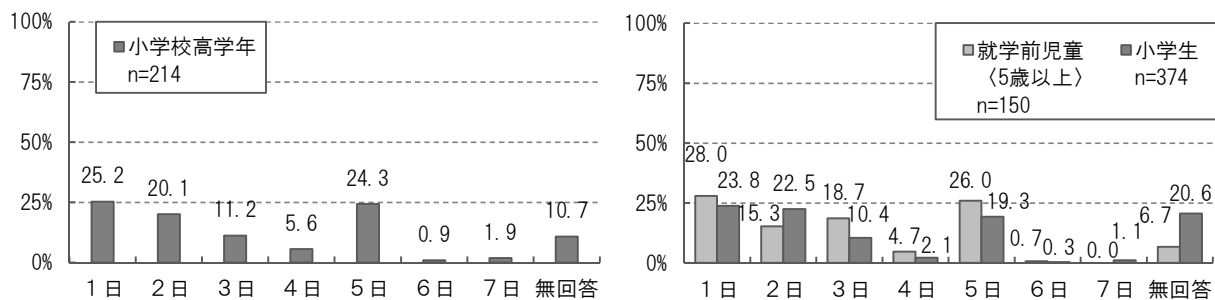
《現状》

《希望日数》

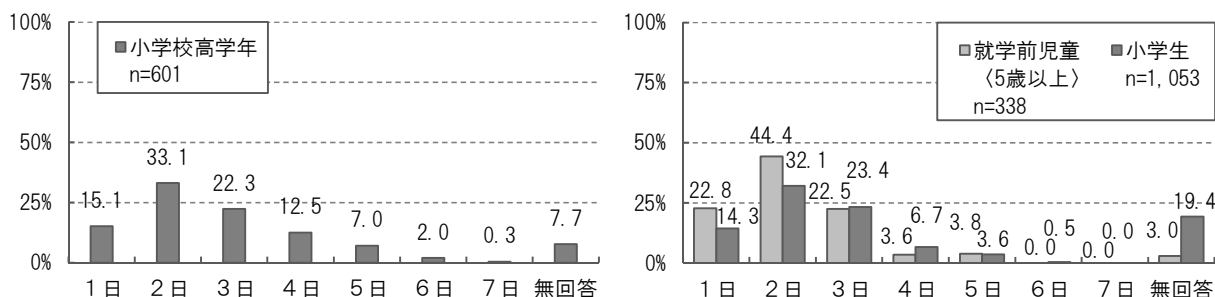
問27.1[問11.1] 「自宅」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



問27.2[問11.2] 「祖父母宅や友人・知人宅」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



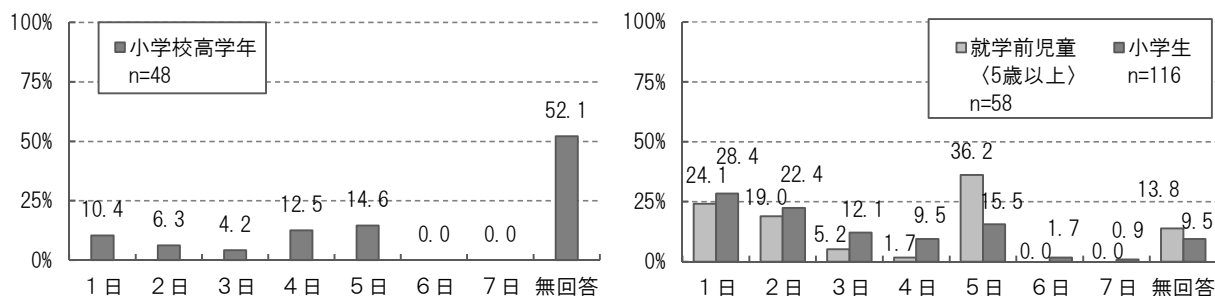
問27.3[問11.3] 「習い事」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



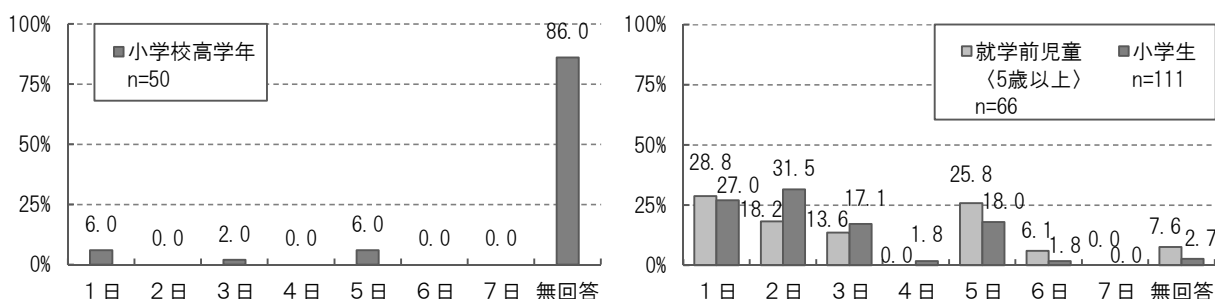
《現 状》

《希望日数》

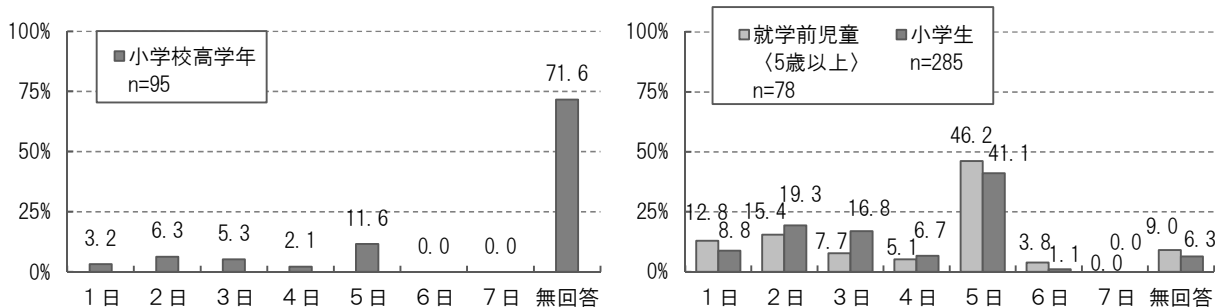
問27.4[問11.4] 「児童館」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



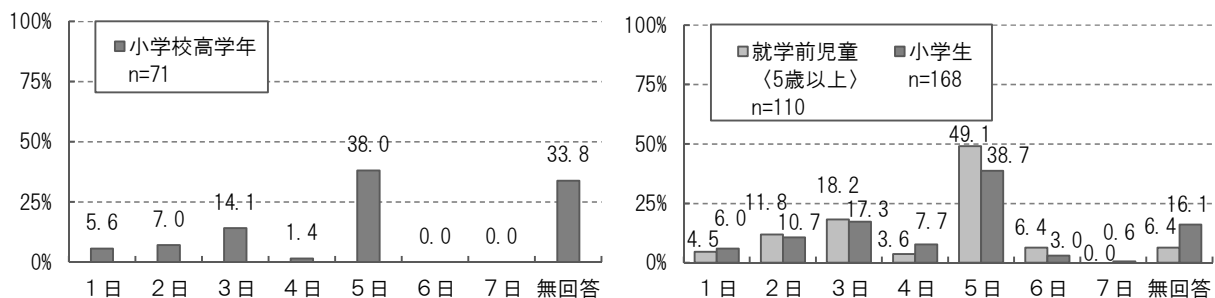
問27.5[問11.5] 「放課後子ども教室」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



問27.6[問11.6] 「地域児童健全育成事業」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



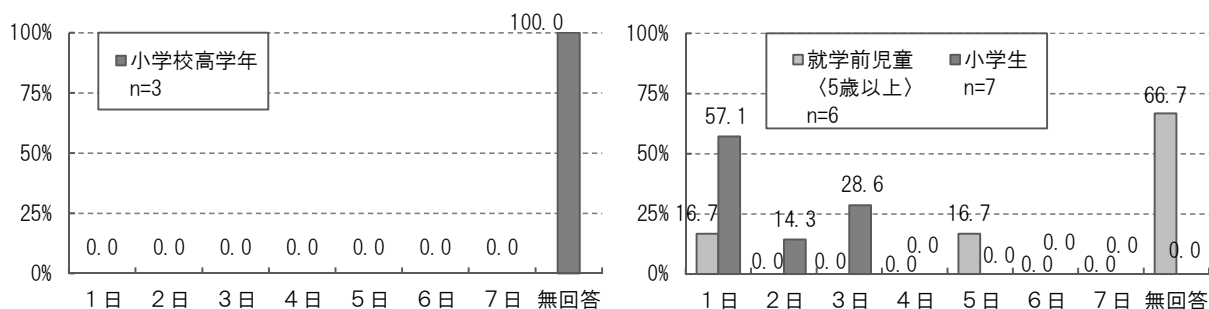
問27.7[問11.7] 「放課後児童健全育成事業」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



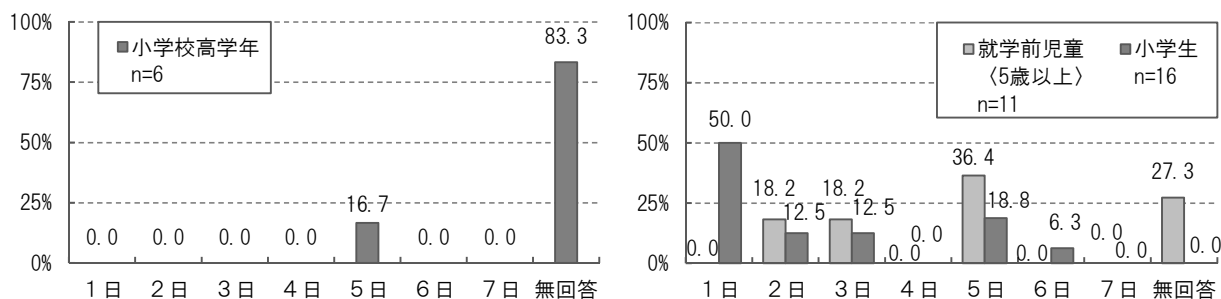
《現 状》

《希望日数》

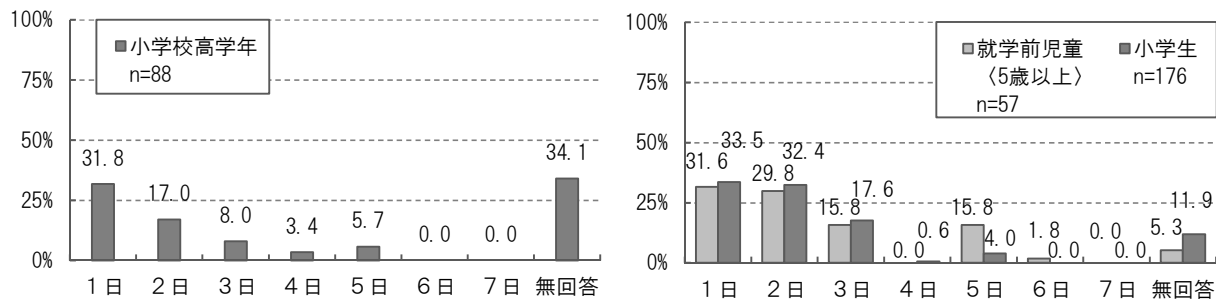
問27.8[問11.8] 「ファミリー・サポート・センター」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



問27.9[問11.9] 「富山型デイサービス」現状利用日数と希望日数（1週当たり）

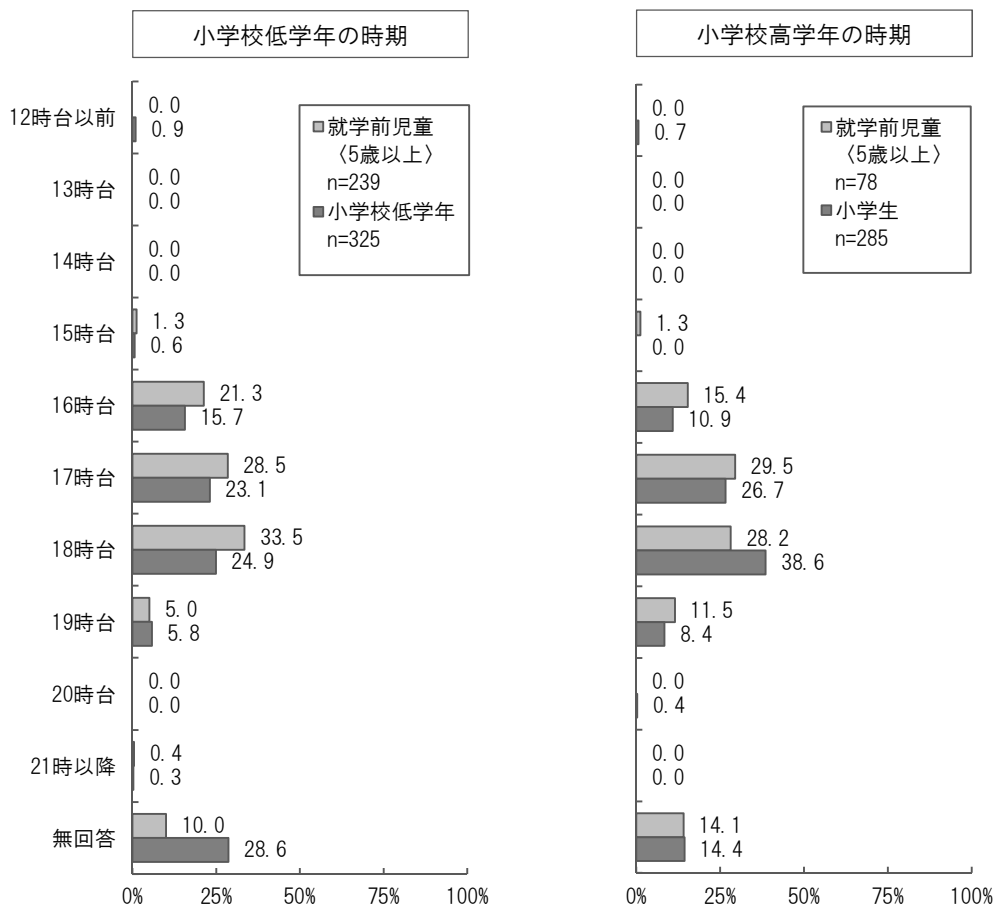


問27.10[問11.10] 「その他」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



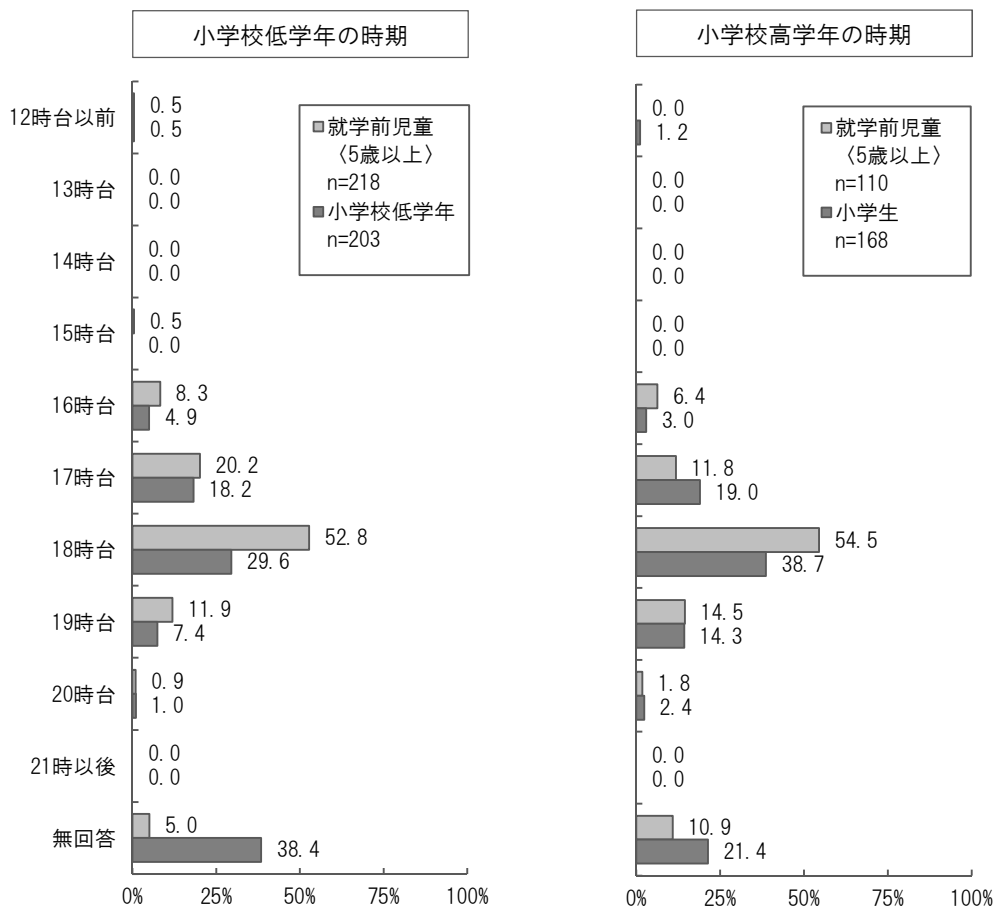
○地域児童健全育成事業（子ども会）の下校時から何時まで利用したいかをみると、就学前児童は低学年時期が「18時台」（33.5%）、高学年時期が「17時台」29.5%、小学生は低学年時期・高学年時期ともに「18時台」（順に24.9%・38.6%）で割合が最も高くなっています。

問26.6[問10.6]・問27.6[問11.6] 「地域児童健全育成事業」下校時からの利用希望終了時間



○放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の下校時から何時まで利用したいかをみると、「18時台」が就学前児童（低学年時期52.8%・高学年時期54.5%）、小学生（低学年時期29.6%・高学年時期38.7%）で、ともに割合が最も高くなっています。

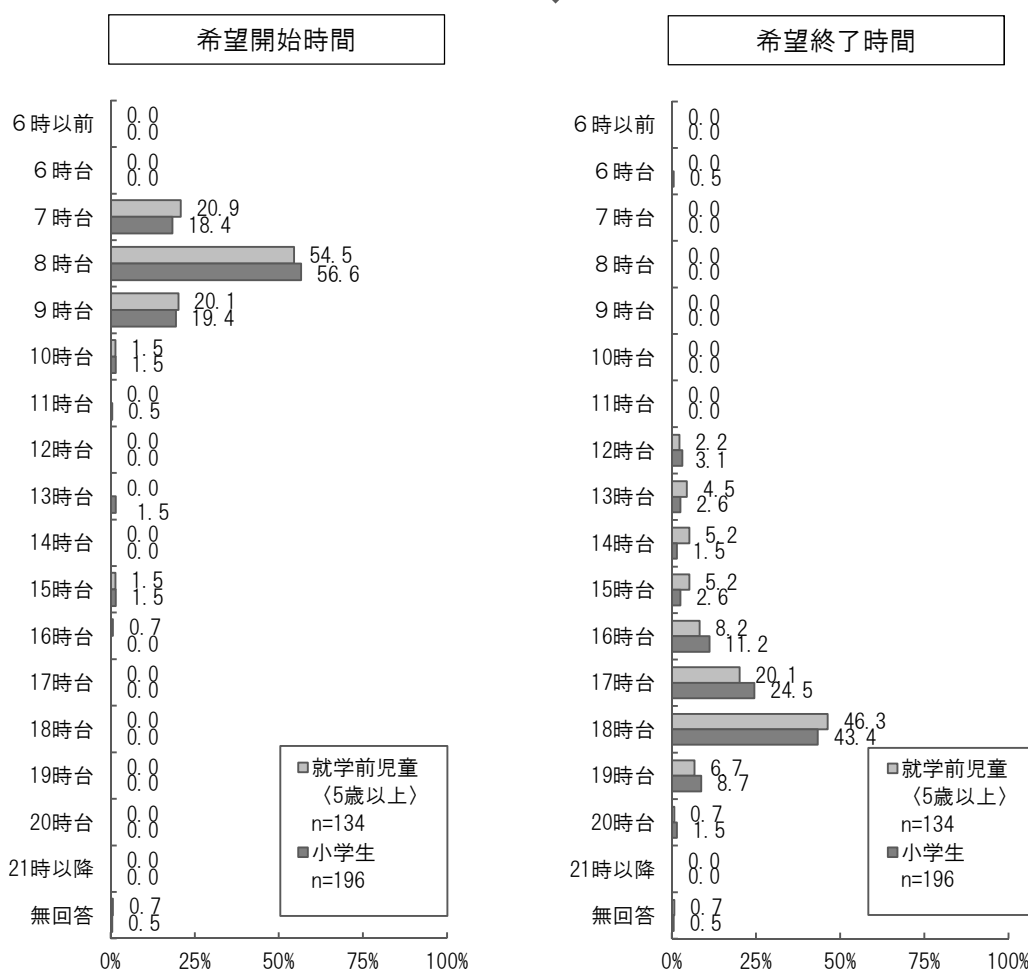
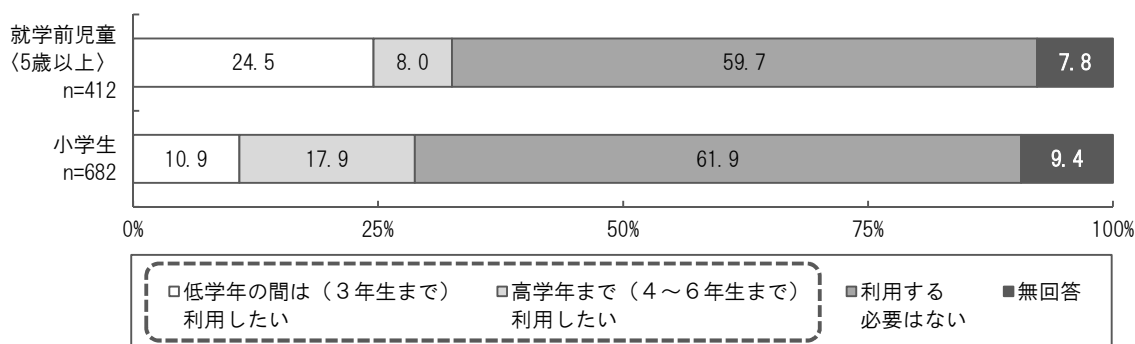
問26.7[問10.7]・問27.7[問11.7] 「放課後児童健全育成事業」下校時からの利用希望終了時間



(2) 土曜日、日曜・祝日、長期休暇期間中の地域児童健全育成事業・放課後児童健全育成事業の利用希望

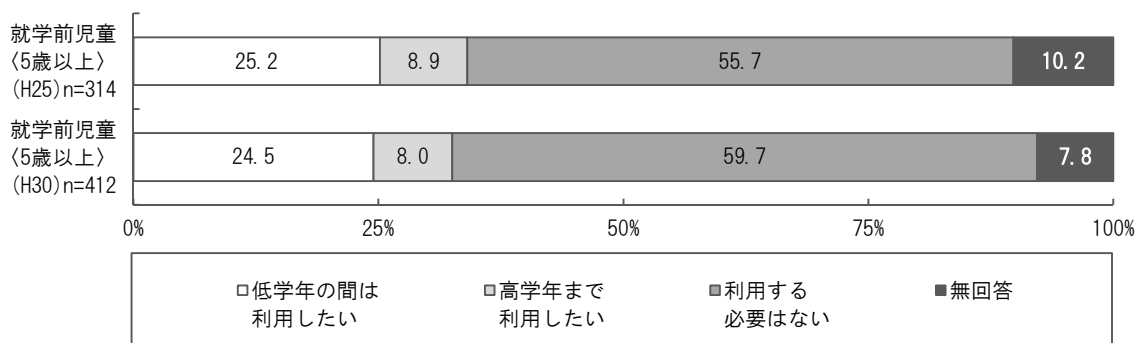
- 地域児童健全育成事業（子ども会）と放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の土曜日の利用希望をみると、「低学年の間は（3年生まで）利用したい」は就学前児童で24.5%、小学生では10.9%となっています。また、「高学年まで（4～6年生まで）利用したい」は就学前児童で8.0%、小学生では17.9%となっています。
- 就学前児童・小学生ともに、希望開始時間は「8時台」（54.5%・56.6%）、希望終了時間は「18時台」（46.3%・43.4%）で最も高くなっています。

問28(1) [問12(1)] 土曜日の利用希望

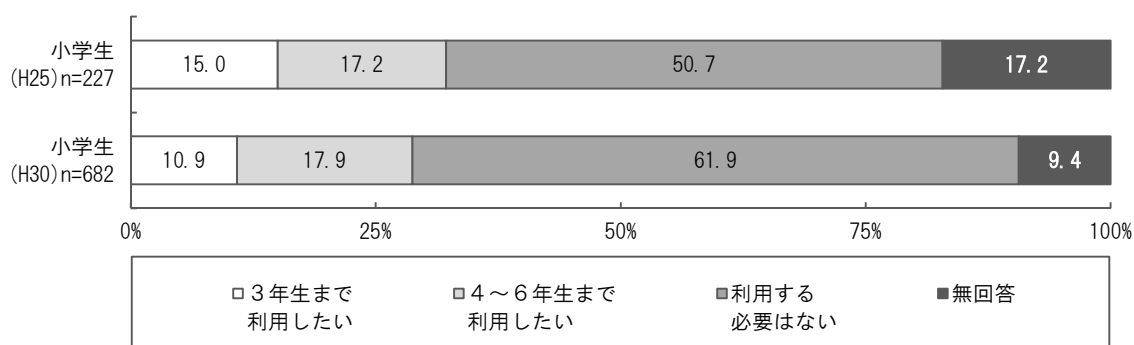


○土曜日の利用希望を前回調査と比較すると、就学前児童では「低学年の間は利用したい」で0.7ポイント低くなっています。小学生では「3年生まで利用したい」で4.1ポイント低く、「4～6年生まで利用したい」で0.7ポイント高くなっています。

問28(1) 土曜日の利用希望【経年比較】



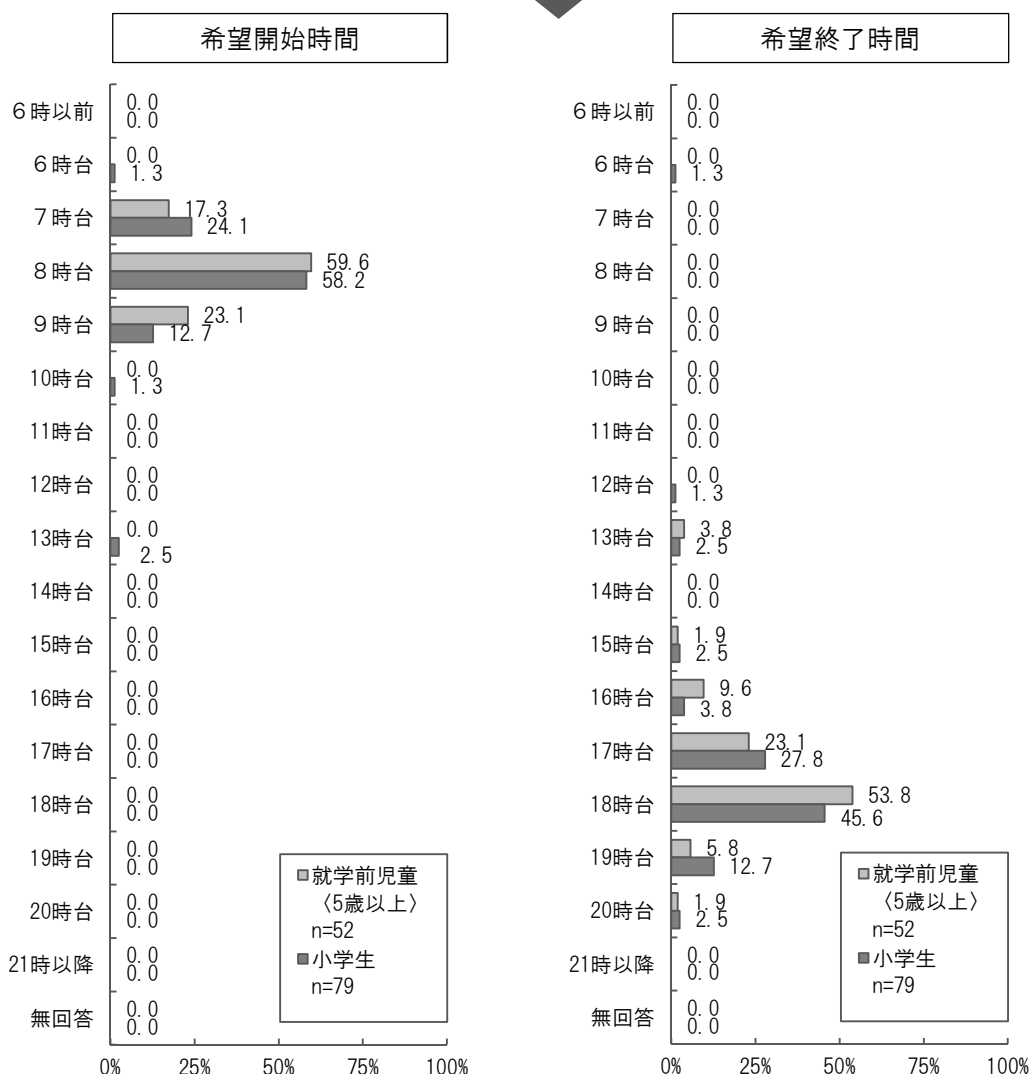
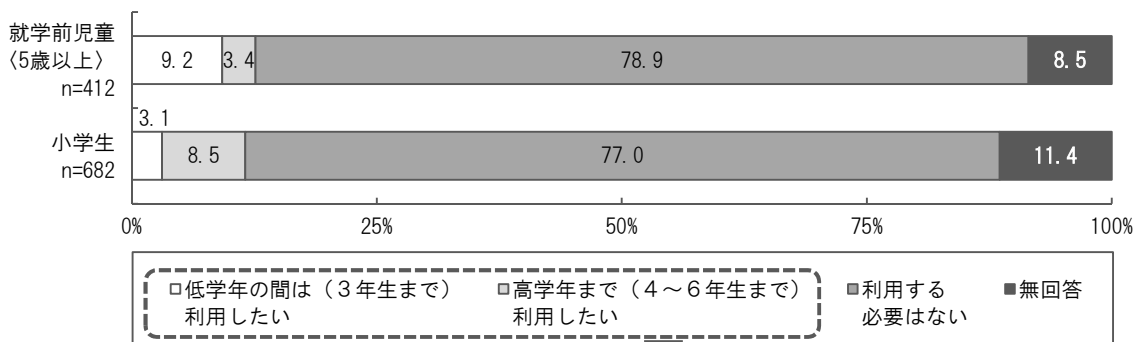
[問12(1)] 土曜日の利用希望【経年比較】



○地域児童健全育成事業（子ども会）と放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の日曜・祝日の利用希望をみると、「低学年の間は（3年生まで）利用したい」は就学前児童で9.2%、小学生では3.1%となっています。また、「高学年まで（4～6年生まで）利用したい」は就学前児童で3.4%、小学生では8.5%となっています。

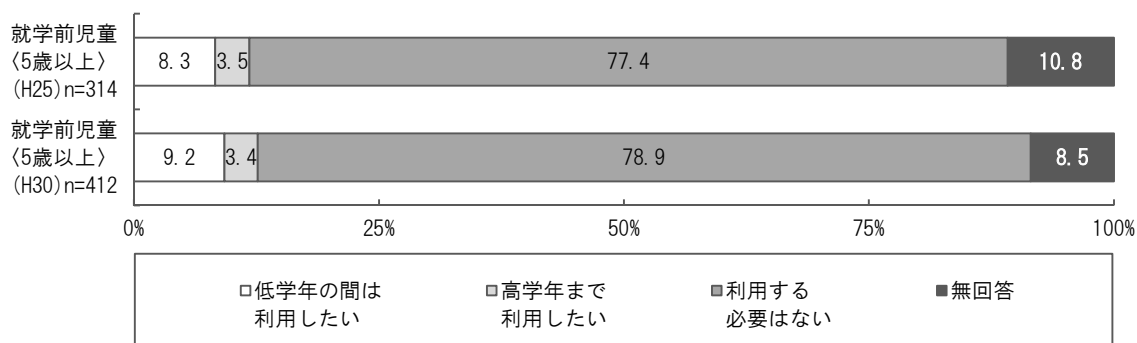
○就学前児童・小学生ともに、希望開始時間は「8時台」（59.6%・58.2%）、希望終了時間は「18時台」（53.8%・45.6%）で最も高くなっています。

問28(2) [問12(2)] 日曜・祝日の利用希望

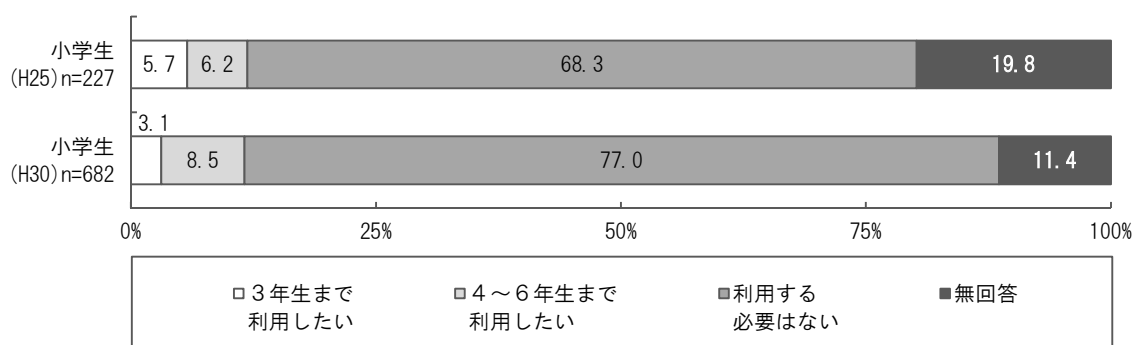


○日曜・祝日の利用希望を前回調査と比較すると、就学前児童では「低学年の間は利用したい」で0.9^{ポイント}高くなっています。小学生では「3年生まで利用したい」で2.6^{ポイント}低く、「4～6年生まで利用したい」で2.3^{ポイント}高くなっています。

問28(2) 日曜・祝日の利用希望【経年比較】



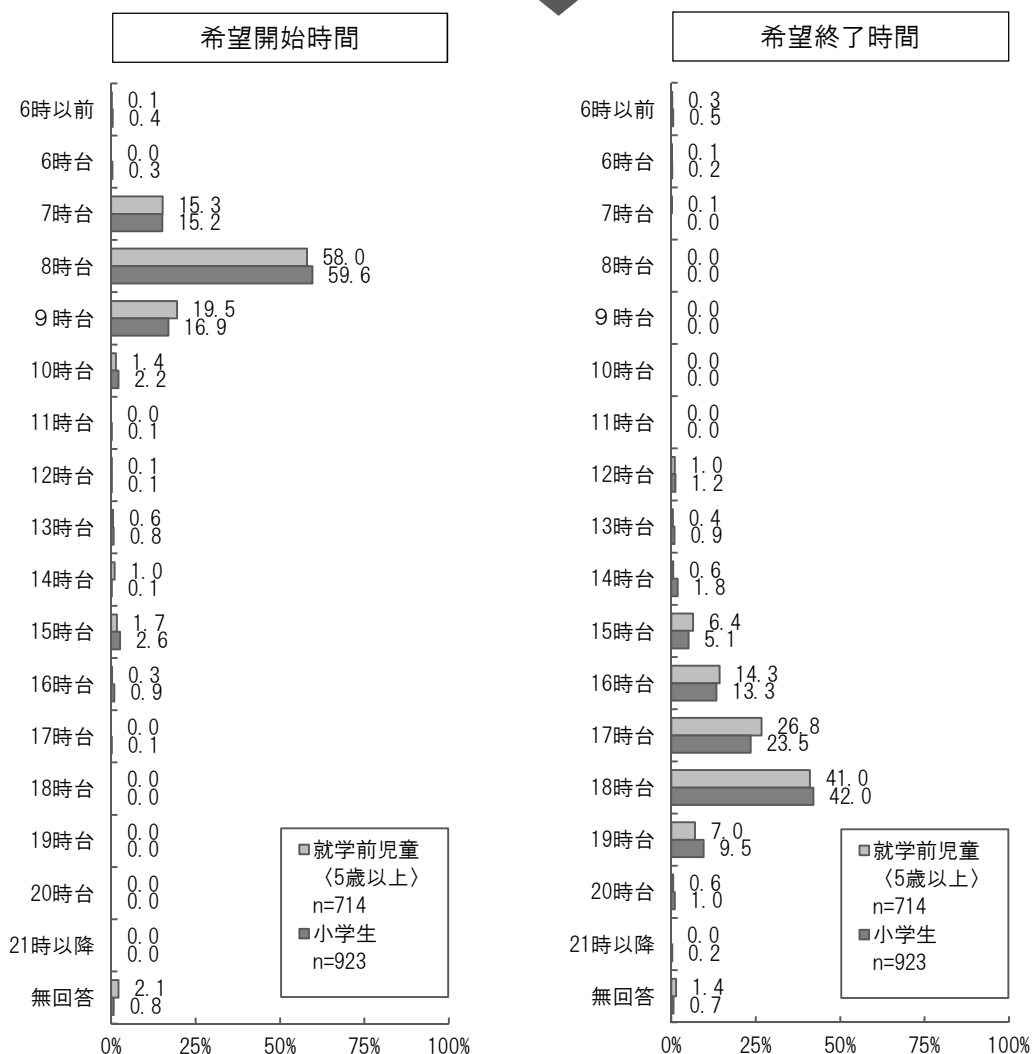
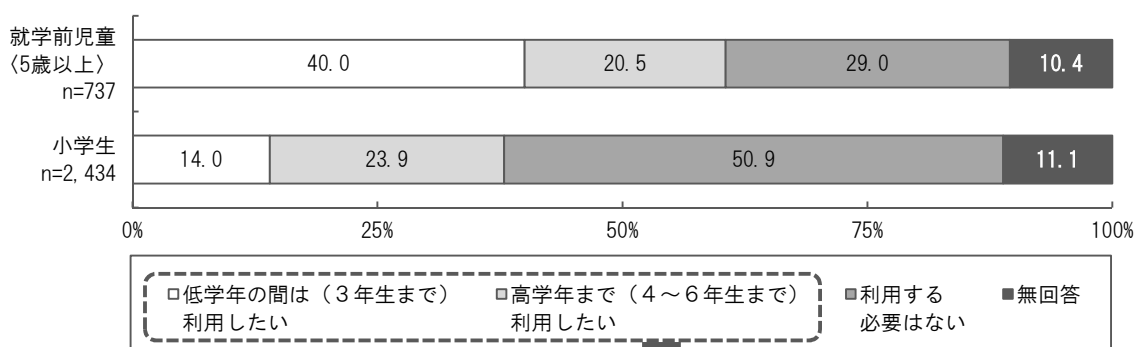
[問12(2)] 日曜・祝日の利用希望【経年比較】



○地域児童健全育成事業（子ども会）と放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の長期休暇期間中の利用希望をみると、「低学年の間は（3年生まで）利用したい」は就学前児童で40.0%、小学生では14.0%となっています。また、「高学年まで（4～6年生まで）利用したい」は就学前児童で20.5%、小学生では23.9%となっています。

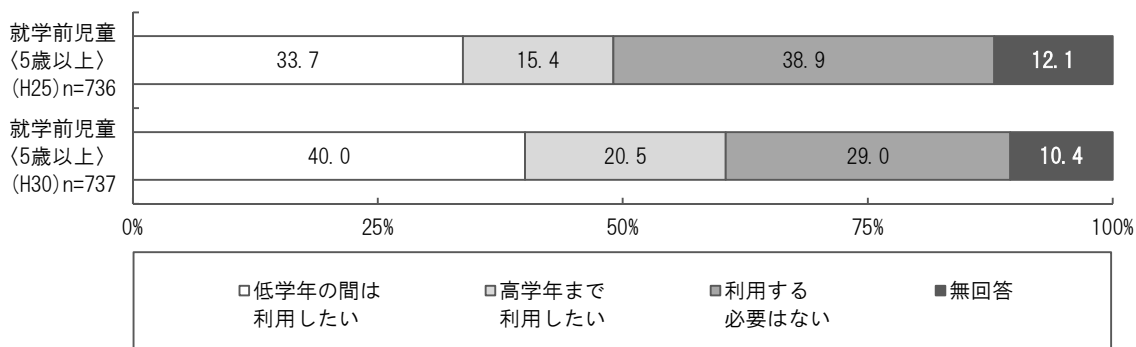
○就学前児童・小学生ともに、希望開始時間は「8時台」（58.0%・59.6%）、希望終了時間は「18時台」（41.0%・42.0%）で最も高くなっています。

問29[問13] 長期休暇期間中の利用希望

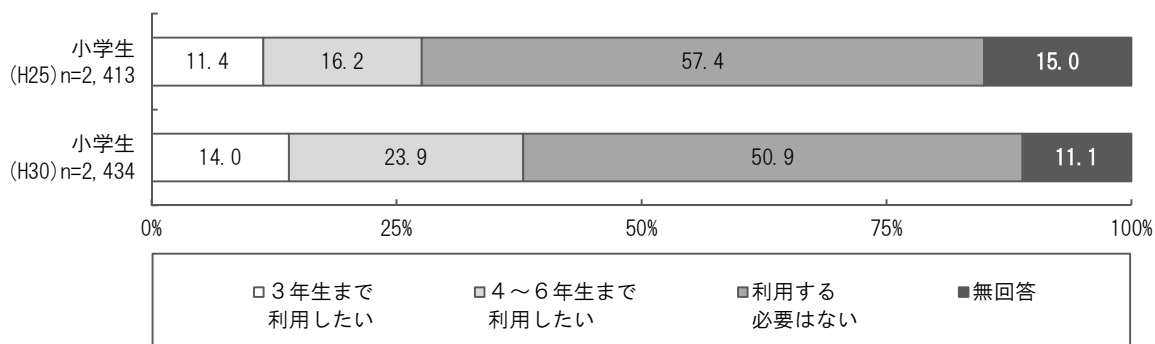


○長期休暇期間中の利用希望を前回調査と比較すると、就学前児童では「低学年の間は利用したい」で6.3ポイント、「高学年まで利用したい」で5.1ポイント高くなっています。小学生では「3年生まで利用したい」で2.6ポイント、「4～6年まで利用したい」で7.7ポイント高くなっています。

問29 長期休暇期間中の利用希望【経年比較】



[問13] 長期休暇期間中の利用希望【経年比較】



第5章

育児休業制度の利用状況等

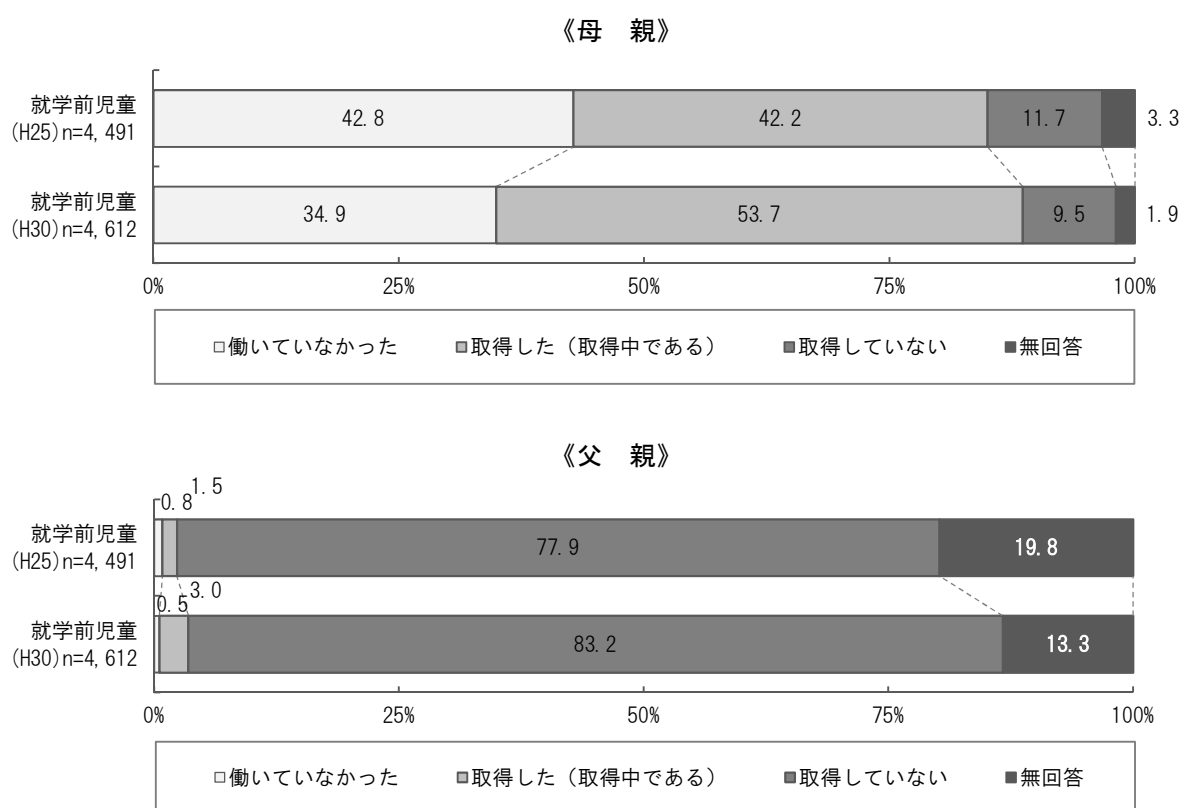
第5章 育児休業制度の利用状況等

1 育児と仕事の両立支援制度について

(1) 育児休業制度の利用状況

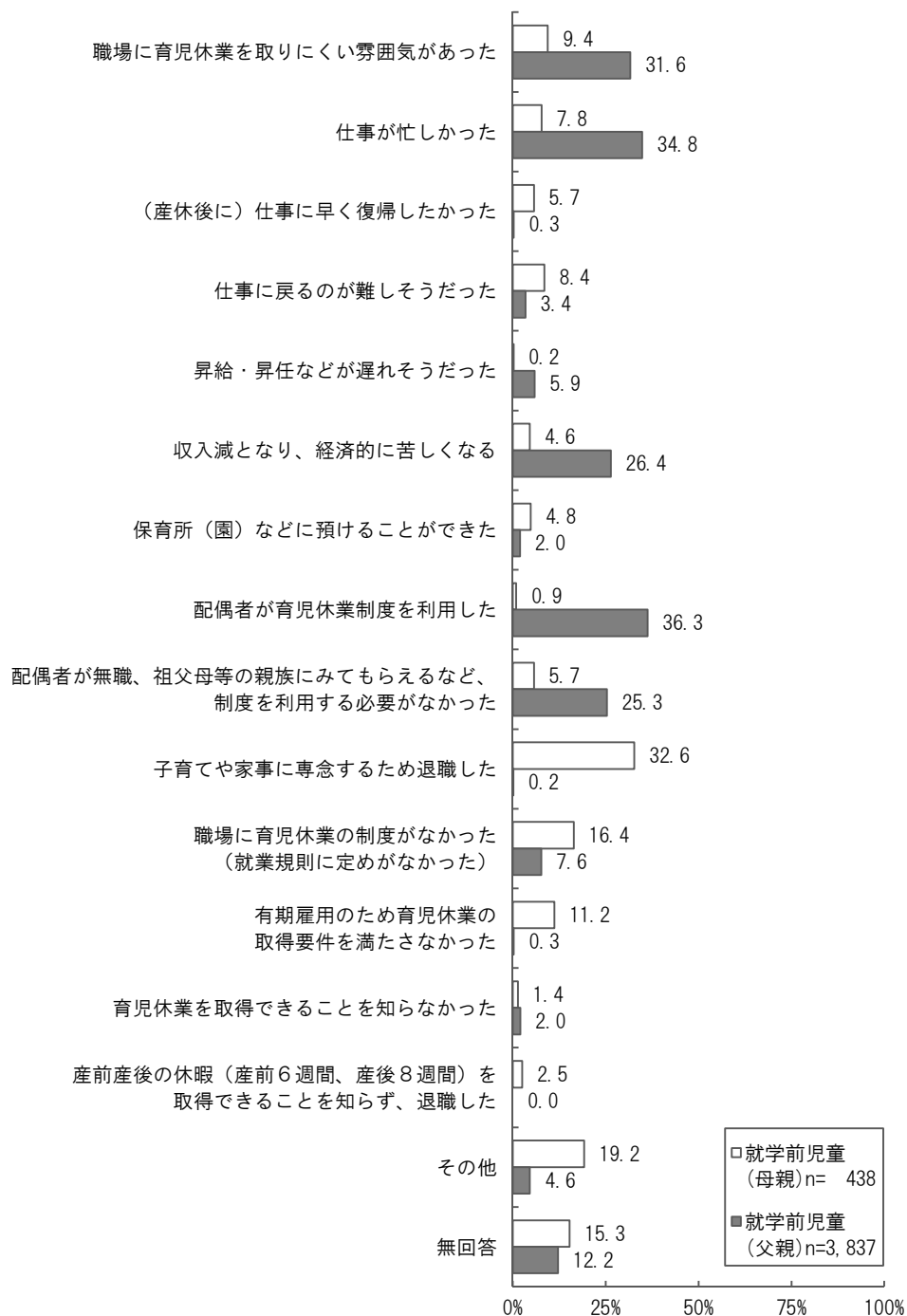
○育児休業制度の利用状況をみると、「取得した（取得中である）」母親は53.7%ですが、父親は3.0%となっています。前回調査と比較すると、母親は11.5ポイント、父親は1.5ポイント増加しています。

問30 育児休業制度の利用状況【経年比較】



○育児休業を取得していない理由について、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」(32.6%)、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」(16.4%)、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」(11.2%)をあげた割合が高くなっています。一方、父親は「配偶者が育児休業制度を利用した」(36.3%)、「仕事が忙しかった」(34.8%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(31.6%)など、母親の理由との違いが見られます。

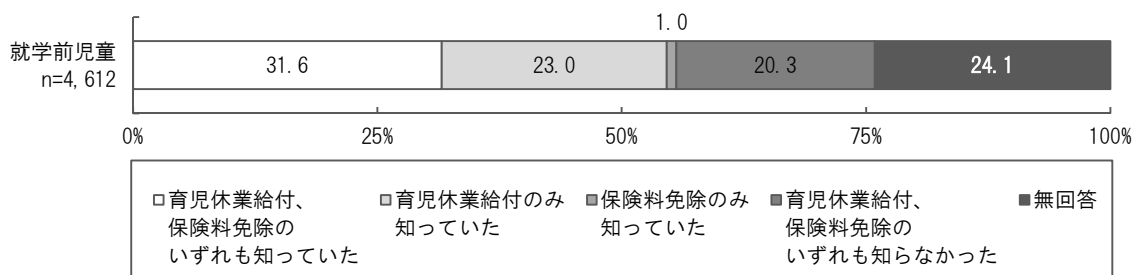
問30.3 育児休業を取得していない理由



(2) 支援制度の認知状況

○育児休業給付の支給と健康保険・厚生年金保険料免除の仕組みについて、認知状況をみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」は31.6%、一方「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」は20.3%となっています。

問30-1 育児休業給付の支給と健康保険・厚生年金保険料免除の仕組みについての認知状況

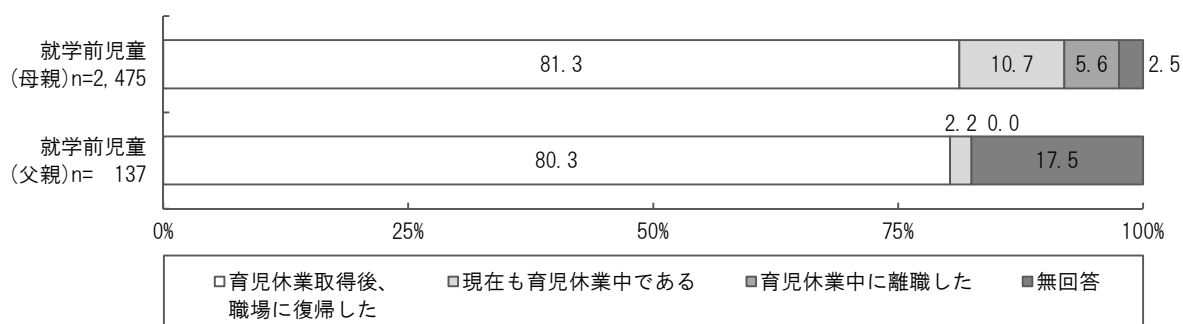


(3) 育児休業取得後の職場復帰の状況

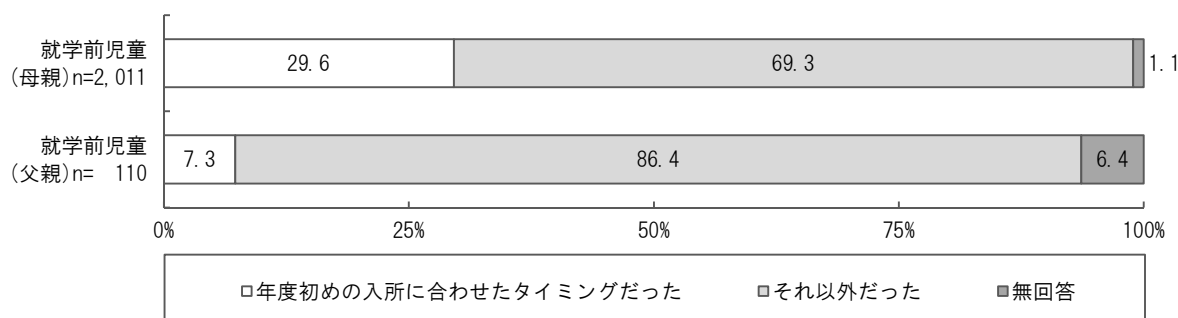
○育児休業取得後の職場復帰の状況をみると、母親は「育児休業取得後、職場に復帰した」(81.3%)、「現在も育児休業中である」(10.7%)、「育児休業中に離職した」(5.6%)の順となっています。父親も母親と同じ傾向ですが、「育児休業中に離職した」と回答した方はいませんでした。

○育児休業取得後に職場へ復帰した時期をみると、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」と回答した母親は29.6%でした。

問30-2 育児休業取得後の職場復帰の状況

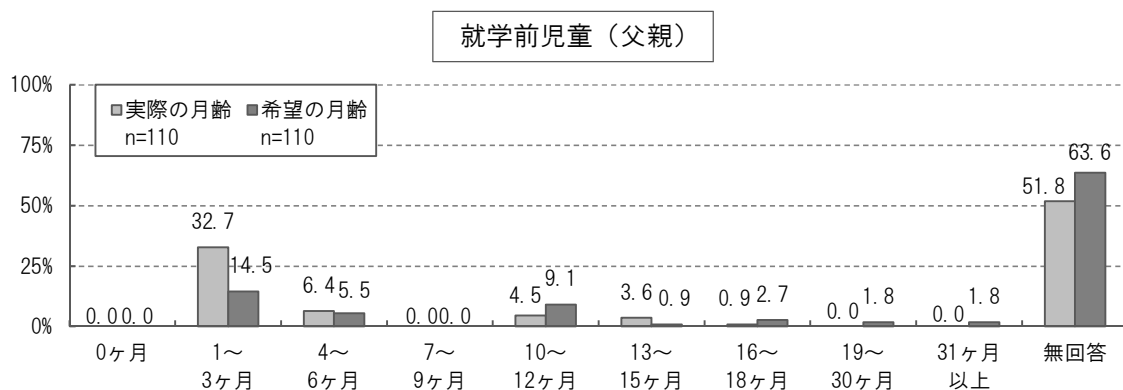
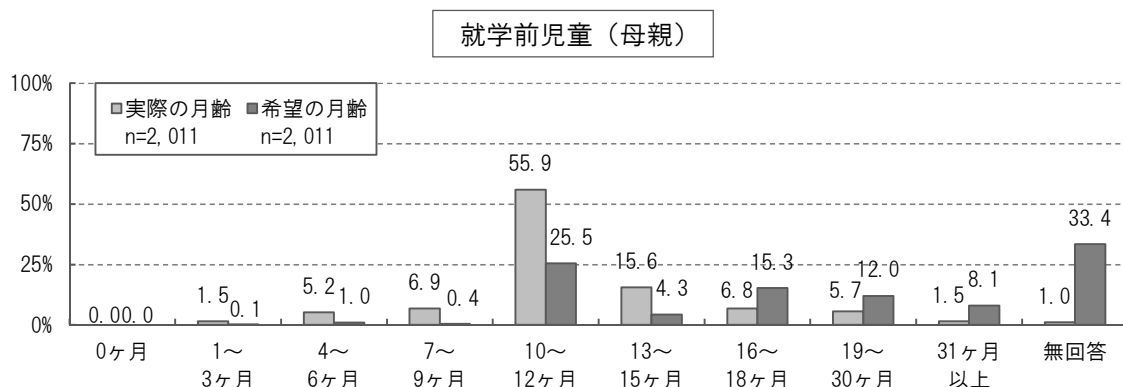


問30-3 育児休業取得後に職場へ復帰した時期

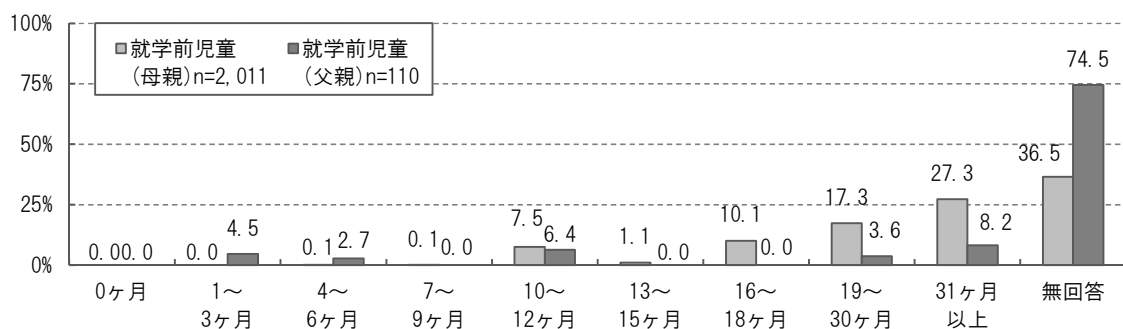


- 育児休業から職場に復帰したときの子どもの実際の月齢をみると、母親は「10～12ヶ月」(55.9%)、父親は「1～3ヶ月」(32.7%)の割合が最も高くなっています。
- 希望する月齢では、母親は「10～12ヶ月」(25.5%)、父親は「1～3ヶ月」(14.5%)の割合が最も高くなっています。
- 3歳までの育児休業制度があった場合に取得を希望する子どもの月齢をみると、母親・父親ともに「31ヶ月以上」(27.3%・8.2%)の割合が最も高くなっています。

問30-4 育児休業から職場に復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢



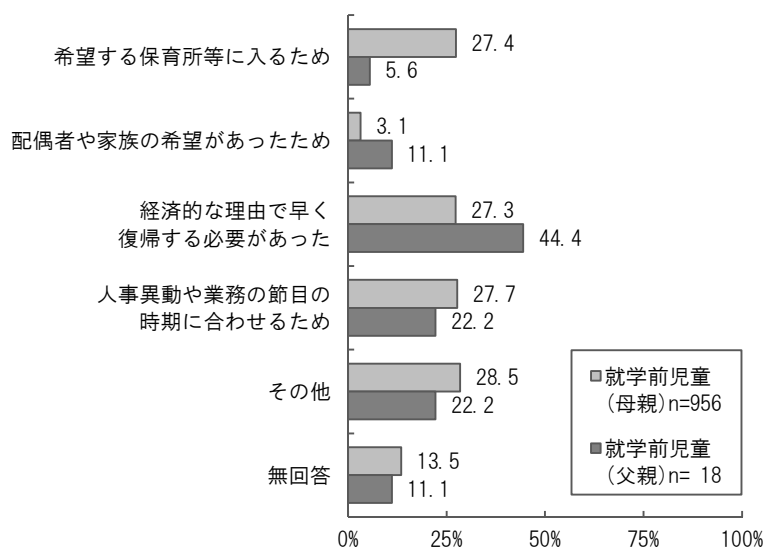
問30-5 3歳までの育児休業があった場合の希望する子どもの月齢



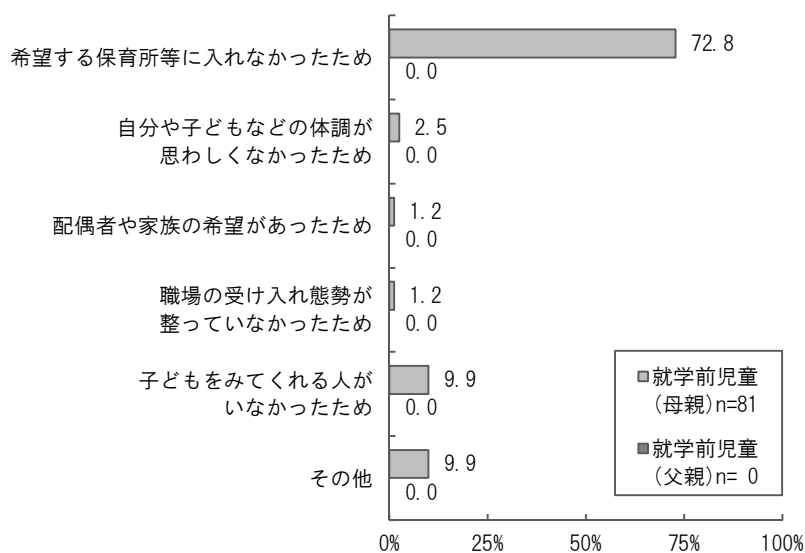
○希望より早く育児休業から職場復帰した理由をみると、母親は「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(27.7%)、父親は「経済的な理由で早く復帰する必要があった」(44.4%)が最も高くなっています。

○一方、希望より遅く職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所等に入れなかったため」と回答した方が72.8%となっています。

問30-6(1) 希望より早く育児休業から職場復帰した理由



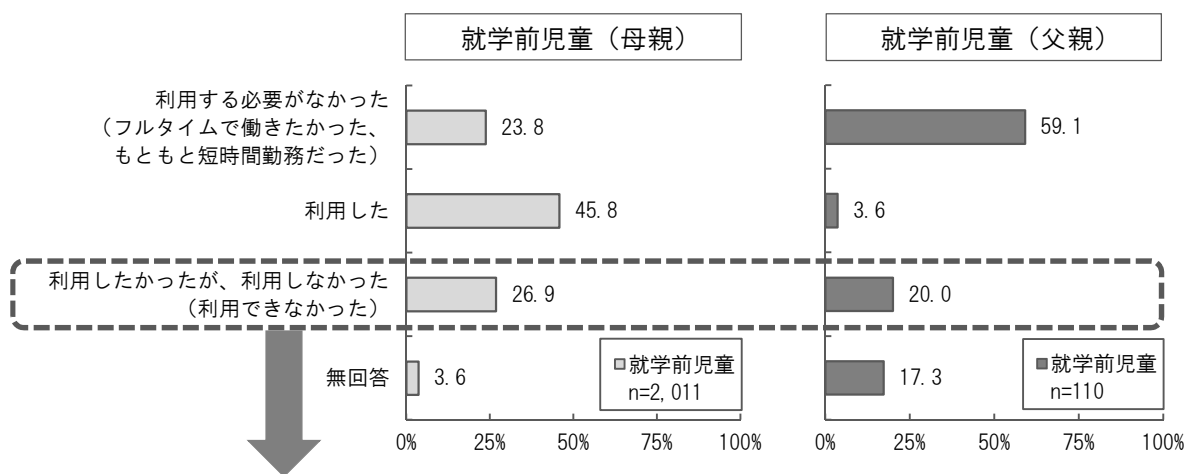
問30-6(2) 希望より遅く育児休業から職場復帰した理由



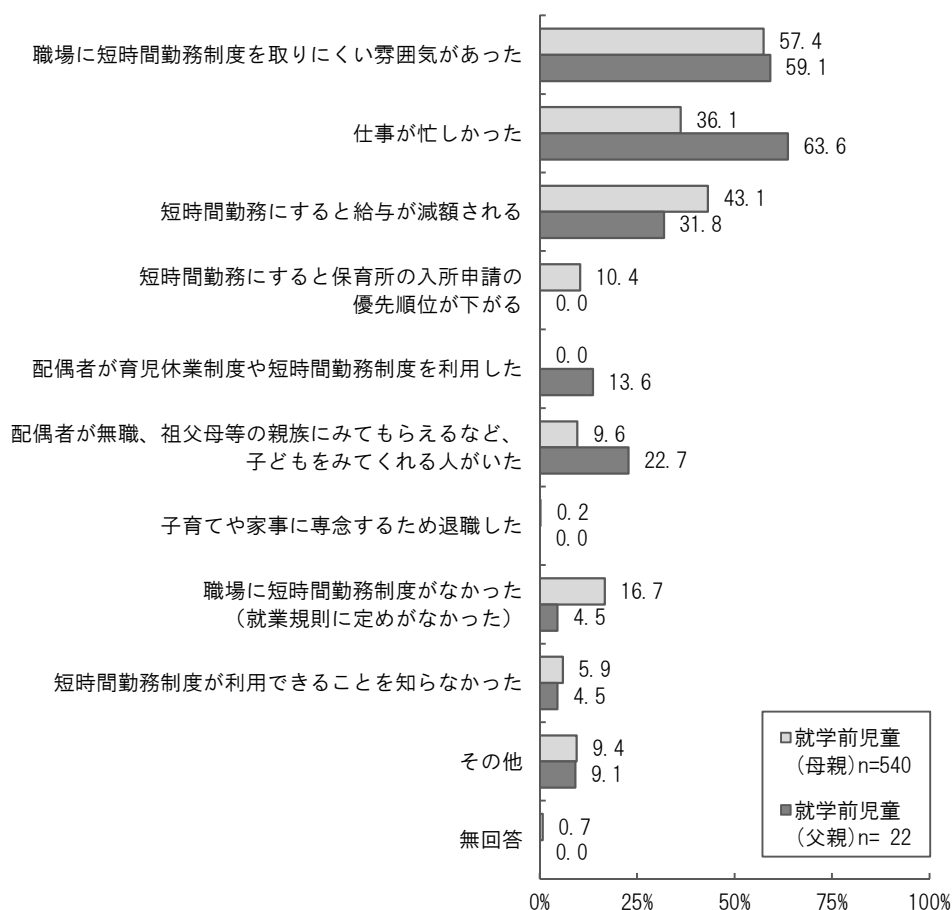
(4) 短時間勤務制度の利用状況

- 育児休業からの職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、母親は「短時間勤務制度を利用した」と回答した方は45.8%となっています。
- 職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由をみると、母親は「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」(57.4%)、「短時間勤務にすると給与が減額される」(43.1%)、「仕事が忙しかった」(36.1%)をあげた割合が高くなっています。

問30-7 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況



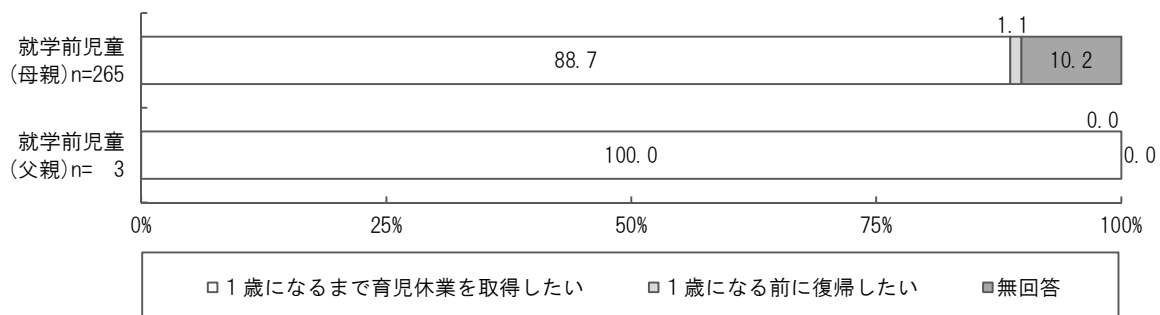
問30-8 職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由



(5) 育児休業取得期間の希望

○1歳になった時に必ず利用できる保育事業がある場合の育児休業取得の希望をみると、母親は「1歳になるまで育児休業を取得したい」と88.7%の方が回答しています。

問30-9 1歳になったときに必ず利用できる保育事業がある場合の育児休業取得の希望



第6章

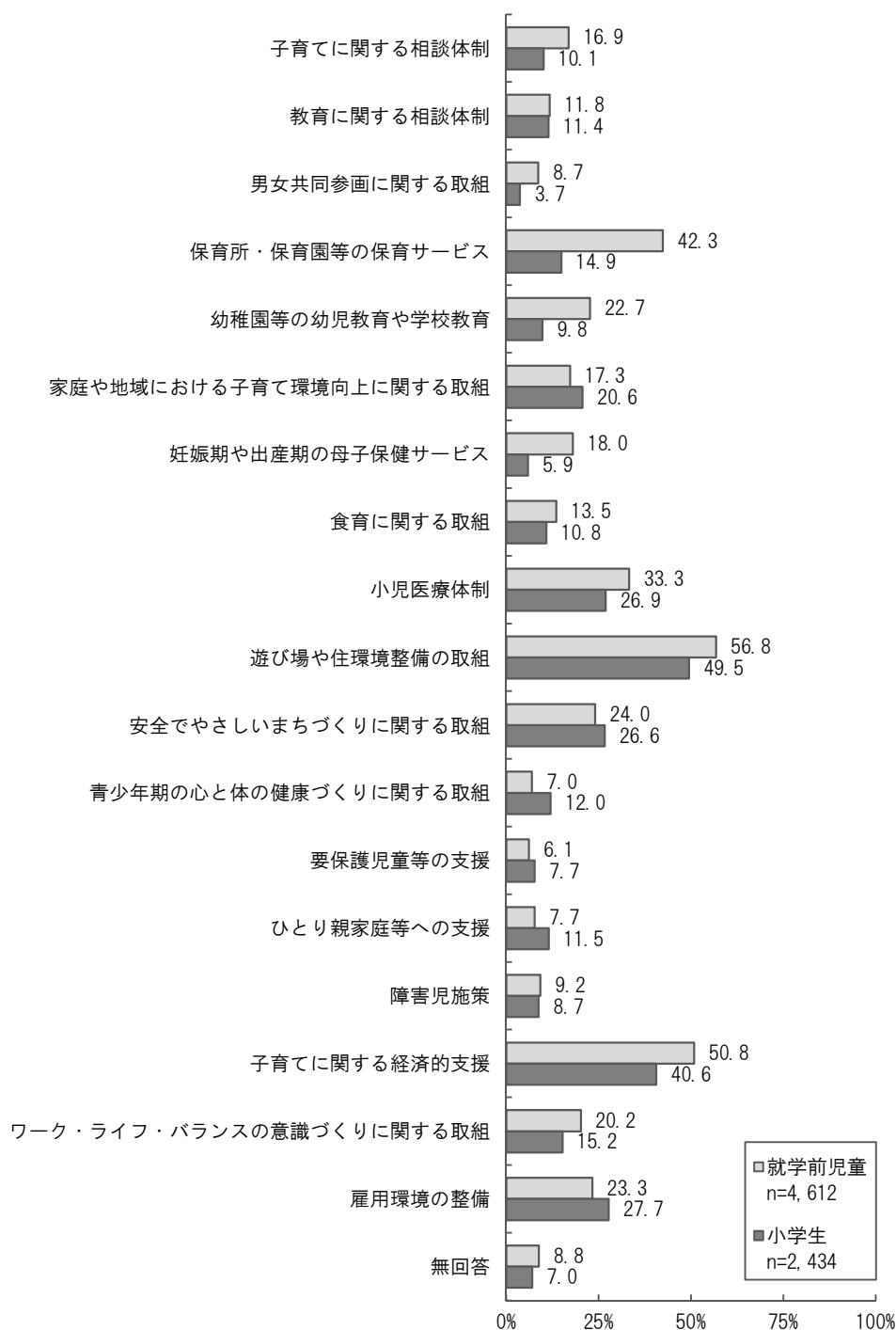
地域の子育て環境や市の施策について

第6章 地域の子育て環境や市の施策について

1 子育てに関する施策の期待度

○富山市の子育て施策で、今後さらに充実して欲しいと思う施策について、就学前児童・小学生ともに「遊び場や住環境整備の取組」(56.8%・49.5%)が最も高く、次いで「子育てに関する経済的支援」(50.8%・40.6%)となっています。

問31[問14] 充実して欲しい市の子育て施策



2 地域の子育て環境や支援への満足度

○地域の子育て環境や支援に対する満足度の状況をみると、就学前児童では「高い」と「やや高い」の計が28.5%、「低い」と「やや低い」の計が20.9%で、満足度が高いと考えている方が7.6ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「高い」と「やや高い」の計が12.0ポイント、「低い」と「やや低い」の計が3.6ポイント増加しています。

○一方、小学生は「高い」と「やや高い」の計が25.7%、「低い」と「やや低い」の計が22.7%で、満足度が高いと考えている方が3.0ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「高い」と「やや高い」の計が2.1ポイント上昇し、「低い」と「やや低い」の計が6.3ポイント低下しています。

問32[問15] 地域における子育て環境や支援への満足度【経年比較】

